

大革命の第三の時期は、一九二七年七月以後の時期である。それは、一言にしていへば、サヴェー
ト権力を目ざした闘争の時期である。歴史は再び「その中で、労働者農民との革命的民衆的獨裁から
プロレタリアートの社會主義的獨裁への成長が完了され得る唯一の形態はサヴェートである」*ことを
實證した。サヴェートは、煽動のスローガンとなつた。

* レニン全集第十八巻、——著者。

中國共產黨が銃火を浴びながら、日和見主義の片影を拭ひ去り、眞實のポリシエヴィキ的指導を確
立したのはこの時期である。黨は非合法になり、地下に追ひ込められた。數十萬の同志が白色恐怖の
犠牲になつた。黨は深大な危機を経過した。譚平山のやうな「取消派」(清算派)がこぼれ落ちた。け
か、小ブルジョア分子が雪崩をなして逃げ去つた。労働組合は閉鎖され、ストライキは鎮壓され、農
民の一揆はぶつ潰された。それにも拘らず、此處彼處に××蜂起が計畫され、至る處の農村地方で貧
農軍は反亂の火の手をあげた。葉挺、賀龍の南進が挫折してから、左翼國民黨の時代は永久に過ぎ去
つたことを知らせた。「サヴェート」は共通のスローガンになつた。

一九二七年十二月十一日——プロレタリアートの世界革命史に永久に記念するべき廣東のサヴェー
トはかやうな状態の下に出来たのであつた。それは僅か三日で落ちたが、その意義、その影響は深大
であつた。

一九二八年のブルジョアジーは、まさに自から革命を裏切り、窒息させたブルジョアジーである。
一九一一年のブルジョアジーは、群衆の力を知らなかつたが、一九二八年の國民黨ブルジョアジーは、
群衆の血でその全身を彩つてゐた。

これが一九一一年と一九二八年の差異である。

三 國內の状勢

大革命は一時的に敗北した。それは主として國際及び國內の階級的諸關係の故である。國際帝國主
義の強壓と國民黨ブルジョアジーの裏切りのためである。プロレタリアートの未熟のためである。また
共產黨が確固たるレーニン主義的基礎に立つて居ず、××指導の能力、組織力、經驗を充分持つてゐ
なかつたためである。

國民黨の支配は、革命の勝利の結果ではなくて、裏切りの結果、獲得されたものである。一九一一
年にブルジョアジーは敗れて政權の外に放り出されたが、一九二八年には、民衆の血を犠牲にして、
國民黨ブルジョアジーは反動的支配プロックの内に入つた。

全國統一は全く形式的であつて、事實上は依然として分裂してゐる。從來のそれよりもヨリ複雑な
階級的内容を盛つた分裂を來してゐる。國民黨政府の基礎は決して安定してゐない。國民黨内部には

動搖と軋轢と陰謀との絶間がない。

蒋介石は五院の頭に据えられた。けれども、これは蒋介石の勝利を意味するものではない。国民ブルジョアジーの一部を代表する國民黨中央派の蒋介石、小ブルジョアジーの左翼、汪兆銘、陳公博等に對して、國民ブルジョアジーの他の保守的部分、買辦、大地主等を代表する左翼の勢力が壓倒的に優勢を占めてゐる。小ブルジョアジーがプロレタリアートを裏切つた。その小ブルジョアジーの一派を、國民ブルジョアジーがやつつけ、その國民ブルジョアジーを今や保守的なブルジョア派が壓倒する。五院及び全政府機關には、胡漢民や譚延〇や孫科等の左翼が頑張つてゐる。蒋介石自身には軍隊を動かす實力もなくて、司令權は廣西派の李濟琛が握つてゐる。新軍閥は所在に割據してゐる。閩錫山は北西に、馮玉祥は中部に、李宗仁は兩湖地方に、同じ廣西派の李濟琛や白宗祺は南方に據つてゐる。變化は、彼等の手兵が、各々國民軍第何軍と名前が違つたゞけである。

昨秋の國民黨中央委員會プレナムは、右派と左派との對立、鬭争の激しさを明るみに出した。政府機關を握つた右派は、黨の權限を出来るだけ有名無實にし、大會召集を延期しようとした。各省の地方委員會を握つてゐる左派は豫定期日に大會を開くやうに闘つたが敗北した。過ぎる編遣會議では、右派内部の争ひが暴露された。遷都問題を中心に、蒋介石、馮玉祥、閩錫山の間の軋轢がひどくなつてゐる。來る全國代表會議では、左右の公然たる衝突が豫想されてゐる。大會ではヨリ一層激しくな

るだらう。

これらの勢力は各々帝國主義者と結んでゐる。廣西派は英國と、蒋介石は米國と、馮玉祥は日本と。中心勢力たる西山會議派は、國民黨獨裁を確立するためには、帝國主義國の援助、就中、財政上の補助を受けるためには米國帝國主義の援助の必要に迫られる。これが南京政府の外交策の基調をなすものであり、その對日強硬策等もこの光に照して初めて理解される。馮玉祥の米國接近も著しい。奉天軍閥の中にも暗闘が激しくなり、楊宇霆は張學良に殺された。張學良は反日の態度を明らかにして來たといふ。

農業の危機は尖鋭になり、工業は危機を切り抜けることが出来ない。引き続き戦亂に大衆の消費能力は減退し、國內市場は枯渇に近い。交通は亂脈に陥り、鐵道は減茶々々になつた。政府の財政難はその極に達し、事實租税の取れるのは江蘇、浙江の二省及び安徽省の一部に限られてゐる。田畑は荒廢し、農村は壊滅して行く。

しかも、租税の負擔は増大する。所によつては、國民黨治下になつて數倍した。生活費は飛躍的に騰貴する（上海その他の都市で、最近年の小賣日用品物價の騰貴は極めて顯著である）。失業群及び職を初めから求め得ぬ窮民、浮浪人の群は増大する。勤勞群衆は以前にも増して一層壓迫され、搾取さ

れてゐる。銅錢數枚が、辛うじて職にありつけた者の一日の生活である。

數百萬の兵士は給料も貰へなければ、除隊にもならぬ。そこで、彼等は寺院の什器、寶物を盜掠したり、農民家族から掠奪したりして生活してゐるのである。飢饉は、十數の省に及んで居り、慘害は殊に北西地方に甚しい。或る所では數十里の間が荒涼たる原野に變り、餓民は草の根、木の皮を喰つて、野たれ死にして行く。支那國際救濟委員會の派遣隊は、「手のつけられぬ」慘狀を次々に報告してゐる。しかも、この窮民が、なほ軍閥の搾取、收奪の對象になるのだ。有名な「行政家」閻錫山の治下、綏遠地方で、數十ヶ村の代表が恐る／＼閻錫山の許に訴へ出て、いふに曰く、「保境安民の軍隊をおいて下さいますのは誠に有難う御座りますが、どうか撤兵させて頂けませんでせうか。兵隊が罪もない吾々を何から何までも剥ぎ取つて、もう着るものも食ふものもありません。このまゝでは、餓え死に御座りますから……」と。

見よ！ 數百數千萬の餓殍が、荒寥と絶望とのうちに、苦痛を呼び傳へ、天に向つて哭泣してゐるのもよそに、他の極では、帝國主義者とその走狗とが暴狀を盡し、歡樂を極めてゐる。不夜城の都市の底には、あらゆる種類の窮乏、勞働苦、無知、迷信、奴隸狀態、兇暴、墮落が、またそれと同時に、暗澹たる反抗的不満が、——兩手兩足を絶たれた乞食兒童が、骨だけのやうな苦力が、鷄姦の見せ物女が、また處刑された勞働者革命家の遺族が、うごめき、鬱積してゐるのである。

深大な不満と不穩とが漲つてゐる。群衆は國民黨の支配が何を意味するかを、事實によつて見せら

れてゐる。彼等は自分の頭部を打ちのめされたことを直感したので。

一九二七年には三十萬、二八年には二十萬の革命家が處刑された。十歳に足りぬほどの小兒も、うら若い少女も銃口の前に立たせられる。赤色工會の會員だといふだけで首が飛ぶ。しかもなほ支那大革命は生きて居り、成長し深まり行き、ヨリ高い段階へ、サヴェートの段階に進むのだ。

四 勞働運動と農村の闘争

一九二七年後半以來、勞働組合運動は、組織を閉鎖され、破壊され、ストライキは鎮壓されて、手も足も出なかつたが、最近漸く新しい擡頭を示して來た。國民政府のストライキを違法にした罷業禁止の命令にも拘らず、大衆的ストライキが起つてゐる。ストライキは、帝國主義者の工場、商店はもとより、自國人の工場でも起つてゐる。鐵道従業員には、一年も賃銀を受け取れぬ者がある。雲南地方の鑛山では、鑛夫は鎖でつながれた奴隸であつて、賃銀も受けずにと勞苦してゐる。數ヶ月の賃銀不拂は、都大市の工場でも珍しくない。「堪へられぬ窮乏。階級意識の成長及び戰闘的エネルギーの蓄積は、新しいストライキの波をたゞせる。」

* 一九二八年十月、汎太平洋勞働組合書記局第三回プレナムの報告に關する決議、上海一九二八・一〇・一二

七一・二八參照、『勞働新聞』一九二八・一二・二三特別號、または『無産者新聞』一九二九・一・一、第一

支那革命の前途

これは昨春の反帝國主義——排日闘争と結びついて、粉碎された工會復活に力強い刺戟を與へた。今までストライキの波が波及しなかつた北方、京津地方にも労働運動が興つて來た。由來、この國でストライキ運動は、先づ陋巷の小さな手工業職場や苦汗制度の小工場から初まつて、次第に中位の工場、大工場、大産業へと及ぶのを常とする。一九二八年でも同様であつた。上海郵便局のストライキは、ストライキの波が大産業に及ぶに至る指標、運動の新しい擡頭を知らせるバロメーターであつた。このストライキで政府は壓迫と懐柔とのあらゆる方法を講じた。労働者側の代表者を南京に呼んだりした。しかも、労働者は蔣介石のお説教を聞かうとはしなかつた。ストライキが武力によつて蹂躪された時、労働者はかう叫んだ。——國民黨旗は「青天白日旗」だが、その實は暗天無日旗だ、と。大衆的な労働組合が勃興してゐる。その多くは中立である。その指導部は國民黨に傾いてゐるか、乃至は動搖してゐる。けれども、大衆の間には、中國總工會所屬の赤色労働組合への強い共鳴の感情を持つてゐる。たゞ白色恐怖が、國民黨の壓迫手段が、直接、これらの大衆と赤色工會との結びつきを妨げてゐるのである。

この間に赤色工會も延び、多くのストライキを直接指導し、或は中立組合指導下のストライキを支援し、その陰然たる指導中心をなしてゐる。赤色工會は全く非合法に存在をつゞけてゐるので、その會員となるだけで充分處刑される。しかも、赤色工會の不屈の闘争の故に、労働者は急速に國民黨に愛想をつかし、反抗的態度を取るやうになつた。

國民黨政府は、フラスシスチ的な無賴漢から成る所謂労働組合をつくり、また労働改造委員會を組織した。けれども、大衆をうまく偽瞞することが出來ずに、労働改造委員會は解散の止むなきに至つた。國民黨政府は、今や白色恐怖の手段と、利潤分配制度その他の偽瞞策、懐柔によつて、擡頭し來る労働運動を鎮めようとしてゐる。それは結局、國民黨及びその政府の正體を勤勞群衆の前に暴露するものである。

「田中之走狗床次」の渡支は、反帝國主義の闘争に油を注いだ。上海に、北平に、天津に、排日——反帝國主義の示威運動が行はれた。北平では、一千名の織物及び敷物工が示威運動を行つて、政府に労働條件改善の要求をした。年初以來、來るべき全國代表會議への示威と結びついて、上海ではストライキの波が起つてゐる。佛租界電車、乗合自動車、英米煙草、南洋煙草、新々公司から、その他の大工場、デパートメント・ストアに及ぼうとして居る。その背後には左翼國民黨がある許りか、それとは別に中國共產黨及び赤色工會の指導があるのである。一月上旬に、漢口の排日運動は激化して、日本租界を封鎖するに至つた。

農村では、地主に對する農民の闘争が進んで居り、益々深まつてゐる。農民は文字通り所在に蜂起

して居る。南京の郊外または上海附近數哩の村々でも、一揆、暴動が起つて居る。試みに上海の新聞『申報』乃至『新聞報』を手にして見給へ。毎日のやうに「赤匪」が一揆を起してゐるから、その地方欄はまた中國のあらゆる地方に於ける反亂の記事を載せてゐるから。

南方——一年半前に革命の坩堝の中にえくり返つてゐた南方では、特に農民××は進んでゐる。廣東や湖南の數地方には、農村サヴェートが嚴存してゐる。反亂した農民は、財産諸共、地主を「取消」(清算)してしまふ。農民は結束が固く、全大衆そのものゝ結集である上に、地理に慣れてゐるのでなか／＼征服されぬ。各省の小軍團がいくら討伐に向つても駄目である。そこで、帝國主義者の機關紙『ノース・チャイナ・デイリ・ニュース』や『上海タイムズ』は聲を涸らして叫ぶ、各省聯合一致して當れ！と。

同時に、農民に附屬する危險な一偏向は、討伐軍に對する軍略上、村から段々山に入り、山に籠つて、土匪同様になり易い傾向である。中國共產黨はこの「山に籠る」傾向に對して闘ひ、これを克服しつゝある。湖南、江西、廣東の邊境には、農民××の勢力は鞏固で抜くことが出来ぬ。その勢は、燃え輝く穀禾の炎を以つて、全支那に及ぼうとして居るのである。

軍隊の間にも不満は増大し、不穩な形勢がある。新軍閥にとつての難關は裁兵問題である。各軍閥は私腹を肥すために軍隊を大きくして行つたのであるが、財政危機に當面して是非とも裁兵の手段に

出ざるを得ない。河南では解散された軍隊は暴動を起した。しかも、軍隊内部の動搖反亂は労働者の運動と提携して勃發するに至つて居るのである。

五 革命の前途と中國共產黨

××インターナショナル第六回世界大會は、支那大革命の現在の段階を評價して「革命の二つの波の過渡(中間)にあるものとした。大會は、支那革命が死んでしまつたなどゝ見るトロツキー反對派の裏切の見解に激しく反對した。それは、大革命の過去の諸段階から幾多の教訓を引き出し、中國共產黨の過去の偏向——右翼的な日和見主義と左翼的な一揆主義とを批評すると共に、中國共產黨及び中國勤勞群衆の英雄的闘争を高く評價し、革命の前途(展望)を豫見して、その當面緊急の諸任務を定めた。それと同時に、萬國の労働者に檄して「全アジア大陸を震撼させた」大革命——數億の被壓迫諸民族の解放戰の中心たるこの××を擁護すべきことを訴へた。

その後の數ヶ月は、大革命の前途についての××インターナショナルの見解が正しかつたことを證明した。國內の經濟的破滅と政治的危機とは、革命の新しい波の擡頭の、客觀的條件を提供する。反動的な軍閥、封建ブルジョアジーの陣營は安定してゐない。地方では、將軍連が小戰爭を始めてゐる。左右の軋轢は甚しい。「蔣介石暗殺さる」「左派××反亂を準備す」といつた風の流言が、日々九江路

(上海株式取引所所在地)を脅かして居る。極右翼は第三黨を準備してゐる。

革命の底流は全国的に擴がつた。かつて革命の波は、主として南方に限られて居た。今は違ふ。猖獗する白色恐怖にも拘らず、吳佩孚、張作霖等の彈壓とは比較にならぬほどの慘虐な斬首、處刑の横行にも拘らず、勤勞群衆は刻々に政治的に目覺め、國民政府への反抗の聲を上げるやうになつて居る。かつて、勞働運動らしいものゝなかつた京津地方に、ストライキの波が襲つてゐる。運動の波は滿洲にも、遠く朔北の昂^{アングンキ}溪あたりまでも及んでゐる。奉天軍閥は、勞働組合彈壓の方針を取つてゐるが、それでもストライキは逐年増加してゐる。大連では、再三「共產黨」を檢舉しても、工場細胞の網は再び沙河口工場や油房に張られて行く。陽春、菜の花の咲く頃、絡繹として娘々廟に詣でる農民の老幼男女は、今はたとへ小聲でも「打倒帝國主義」「打倒軍閥」と誦むことを覺えたのである。

戰慄すべき白色恐怖の渦中に鬪争した中國共產黨は、今や數千萬の群衆の支持を背後に有する大衆的ボリシエヴィキ黨になつた。その拂つた犠牲は大きかつたが、砲火と青龍刀との洗禮を受けて、眞實の、その名に相應しい革命黨となつた。一九二七年後半の、黨にとつての一大危機を通過した後、陣營は立て直され、逃げだした小ブルジョア分子、學生の代りに、多くの勞働者と農民とが入つて來た。陳獨秀の代りに、勞働者蘇兆徴が民衆の英雄になつた。黨は、十萬餘の黨員を有する大衆黨となつた。その成員の七割は貧農であるが、黨の指導は勞働者の手中にあるのは云ふまでもない。

革命の一時的敗北のために黨の被つた傷手は深かつたが、この時期に於ける黨の最大の成果は(一)革命に於けるプロレタリアートの領導權(ヘゲモニー)を克ち得たこと、(二)鞏固な勞働者農民の同盟を形成したこと、及び(三)黨自體が大衆的ボリシエヴィキ黨となつたことである。

黨は、多くの政治的過失を犯し、また偏向を伴つてゐた。最初の日和見主義は徹底的に打破された。次いで、一九二七年後半に、新しい左翼的偏向が生じた。充分な準備なく、大衆に告知することもせず、時期と條件とを考慮せぬ一揆の計畫、強制的にストライキを決定しようとする企て、即ち一揆主義と呼ばれてゐる傾向である。これも、直ちに克服された。一九二八年十月八日のプレナムの決議に表はれた中國革命の「永久革命説」も、メインターナショナル執行委員會の嚴正な批判に會ひ、黨は直ちにそれに承服した。その後の黨は、正しいボリシエヴィキの歩みを進んで居る。勿論、あらゆる黨にさうであるやうに、部分々々の偏向等がなくてはならない。昨夏、黨内の若干の者も「憲法會議」の開催を提唱しようとした。ケレンスキー政府は、憲法會議を約束した。國民政府は、訓政期の名にかくれて、憲法會議も召集せず、その白色獨裁をやつてゐる。それだからと言つて、革命が國民政府掃蕩、サヴェート政權を目標とし、スローガンとするに至つて居る現在の段階に、かやうな提唱は、全く間違つた日和見主義的なものだと言はざるを得ない。實際の鬪争でも、いろ／＼な過失がある。或る省の委員會では、農業革命遂行に力を入れる餘り、農民××に精力を集中し過ぎて、勞働運動の

方が一時閉却された。また前述の「山に籠る」傾向もあつた。労働運動の方面では、赤色工會内の黨フラクションが専ら秘密の、地下の闘争にのみ専一であつて、ためにいぢけて、自ら合法的活動の舞臺を發見し、活用するといふことを充分にしなかつたこともあつた。黨は、勿論、かやうな偏向、過失を直ちに改め、正しい方向を指示した。

黨は、工場細胞と農村細胞との基礎の上に建てられて居る（中央機關紙は『ポリシエヴィキ』）。黨は労働者及び農民の婦人の間に、精力的に活動して居る。中國共產青年會は、全××青年インターナショナルの誇りであつて、逸早く黨内の日和見主義に對して激しく闘ひ、また國民黨の恐怖手段に屈せず、青年群衆を組織し、訓練し、動員して居る。中國共產黨の黨員は、革命家の規範である。いかなる拷問にも迫害にも屈しない、黨と××とのために身を捧げた労働者であり、貧農である。

中國共產黨の當面の任務は、大衆を獲得し、勤勞大衆の日常闘争に参加指導し、労働組合及び農民協會を再建擴大すると共に、國民政府及び帝國主義の掃蕩てふスローガンの下に、労働者の闘争と××内の不穩及び暴動と農民一揆とを結びつけて、闘争を激化し、サヴェイト政權樹立のために闘ふことである。ヨリ深く大衆と結びつくことは不可欠の事業である。そのために、工場委員會の建設、中立組合獲得、赤色工會の大衆化、ストライキ破りの組合（上海郵政局雇員協會、機器工會）等の打破、反帝國主義の大衆運動との結合、未組織者の組織、小農民の獲得、赤槍會、大刀會等の土匪化の防

止、サヴェイトは何のであるかの宣傳と煽動等に力を入れねばならない。「大衆的活動」か「反亂」かではなくて、「反亂のための大衆的活動」（同志ブハリンの表現）である。

中國共產黨は、實に偉大なる歴史的任務を負はされて居る。

六 日本プロレタリアートの任務

八十年前にマルクスはかう書いた。――

「わがヨーロッパの反動者流が、そのままに上らんとするアジア經山の亡命行において、萬里の長城にまで到着するとき、原始的反動と原始的保守主義との巢窟へ導くべき城内に到着するとき、誰れか知らん、彼等は、其處に次のやうな偏頗を見出さんとは、

支那共和國。

自由。平等。同胞*。」

註 マルクス『評論』（『新ライン評論』における一八五〇年一月卅一日の）『マルクス・エンゲルス遺稿』第三卷、改造社版、全集、第四卷、第五六七頁、――編者。

この豫言は美事に實現されてゐる。支那革命はより一層高いサヴェイトの段階へと進み行く。

支那大革命は斷じて生きて居る。これを擁護し、發展させることは世界のプロレタリアートの××

である。特に、アジア大陸の東邊に位し、滿蒙をその手中に握り、山東を占領略取して益々侵略政策を逞しうして居る帝國主義〇〇において、プロレタリアートは最も勇敢に自國帝國主義の侵略政策に對して××しなければならぬ。

プロレタリアと一切の労働者組織及び機關は、支那の實狀、支那革命の意義、教訓、支那プロレタリアートと農民との英雄的闘争を、廣大な大衆に知らせ、大衆の間にポピュラー（有名）にしなければならぬ。支那を征伐すべきではなくて、反亂しつゝある中國の労働者農民を援けるべきだといふことを労働者に會得させなくてはならぬ。支那の土地を取つても、農民の生活が良くならぬ許りか、益々負擔が加はり、子弟を戰場に失ふだけだといふことを農民に納得させなくてはならぬ。事實の真相が暴露されなくてはならぬ。

一體、濟南事件とは何か？ 正確を期するために〇〇帝國主義の出先代理人「在支邦人」なるものに聞かう。もつとも、彼等は「大きい聲では言へませんがね」と註釋をするのであるが、彼等は云ふ。「濟南事件ですか。あれは、貴方、日本×が日本人を×したんですよ。濟南あたりには藥種商だなんて言つてゐるならす者の阿片賣りや、梅毒でブヨ／＼の淫賣が澤山居ますが、そ奴等を引張り出してこつそり×××たんです。その後で、支那兵が在留邦人を虐殺したといふことにして、どん／＼城内を攻め始めたんです。そうです。支那人が五千人も死にましたかね。何しろ、他人の領土を取らうとい

ふんですから、その位のこと……。」

兇暴、破廉恥極まる〇〇××主義に對して、全アジアの××的勢力は結合しなければならぬ。植民地の解放運動と、國內のプロレタリア運動は提携し、協働しなければならぬ。兵卒は出先きで、戦線で握手しなければならぬ。山東出兵の當時、名古屋では特に出兵反對、反帝國主義戦争の煽動が盛んであつた。傳へ云ふ、第六師團數部隊の兵卒は、××し、上陸前に多數×××××、と。支配階級が恐れたものは、戦線に於ける××(××)であつた。武器が自分自身に×××れることであつた。現支配階級××を目標とした闘争は、帝國主義××の脅威に對する闘争に結びつけられ、「×線に於ける××」「帝國主義××政府の敗北」のスローガンに結びつけられねばならぬ。

——署名「内田隆吉」、『プロレタリア・パンフレット』第二輯、一九二九・二月無産者新聞社發行——

左翼社會民主主義の「横斷左翼」

— 解黨主義の典型 —

支配階級の恐怖手段が益々兇暴になるのに相應じて、左右の社會民主主義者は、益々偽瞞的な言辭、方策を以つてその裏切り計畫を遂行してゐる。右翼社會民主主義者は、公然とその社會排外主義、社會君主主義を標榜する。彼等は公然と反共產黨を聲明し、大右翼結成の方針を動搖せずに通つてゐる。所謂「中間派」の日本大衆黨の指導者達も、本質上、右翼の社會民主主義者であり、ブルジョアジーの直接の買収政策の意のままになつてゐる。

左翼の社會民主主義者は自分の黨を持つてゐない。ヨーロッパその他のやうに、此處でも全社會民主黨派の内に宿かりしてゐる。日本大衆黨の内部に巢喰ふ雑誌『勞農』のメンシエヴィキーその他がそれである。

左右の社會民主主義の間に何か本質的な差異があるか？ 斷じて、無い！ 支配階級に對して眞實に闘はふとしない點において、偽瞞的言辭を以つて現存制度内の改良で以つてお茶を濁さうとする點において、その反共產黨的な點において、互に共通するのだから。

左翼の社會民主主義者の特徴は、常に裏切りを誤魔化す大義名分を求めるといふことである。かつて大きいことを言ひ觸らし、また現在もさうしてゐるのだから、——これは大衆を煙に捲くために

支配階級が彼等に與へた一つの役割である。——一つく、裏切的行動を革命的文句で粉飾し、また大衆の前進に對しては何か調子の好い、しかし實際は有害のある話を持ち出して切り崩す必要がある。いはゞ、連中はお上品な、はにかみ屋の裏切者である。右翼の親分共と袂をわかちたくなく、「感激の握手」をしたくてたまらない。そして、彼等獨特の組織論が生れて来る。

『横断左翼の結成へ』——これが『勞農』メソシエヴィキーが呼びつゞけてゐる組織方針である。彼等のいつてゐる所を聞かう。

二

「だが、かゝる階級的、しかも、當面的全闘争は、我が左翼が全大衆的基礎の上に眞に強靱なる、且つ眞實に大衆の内部に強く根を下した全國的確乎たる左翼組織の獲得によつてのみ遂行し得るのである。」

どうだね、諸君！ なかく響きが好いだらう。さらに、かゝる組織は、「工場に、農村に及びあらゆる大衆的團體内に於て」労働者農民の日常的要求を敏速且つ有効に闘ひ得る組織でなくてはならぬといふのだ。

「横断左翼組織は、一般的には全無産階級戦線内に於ける一切の左翼的先進分子の全國的結合であ

り、全國的、地方的、労働團體、産業的團體及び大衆政黨内を横断的に貫ぬくと同時に、全國的工場、農村、街頭の労働大衆の内に直接、左翼独自の城塞を築くものである。〔傍點すべて引用者〕。

「今日、かゝる左翼的闘争の完き遂行は横断左翼組織の確立をおいて他にならぬ。〔勞農新聞〕二月五日號」。

社説『左翼當面の任務、横断左翼に結成へ』〔勞農新聞〕一九二九・二・五、第七號——編者。

三

少し言ひ廻しが抽象内だが位で打ち切つてはならない。その提唱の眞意を読み給へ。彼等の典型的な解黨主義を見出すから。

第一に、彼等は、少しも社會民主主義者、改良主義者、日和見主義者共から分離しようとはしてゐない、といふことである。彼等は「統一戦線」の美名の下に、労働組合の統一と社會民主諸黨の統一とをゴツチャにして、大衆に押し賣りしてゐる。彼等が如何に改良主義親分共の尻尾に過ぎぬかは、最近の日本大衆黨の内紛に於ける彼等の氣弱い言動を見ると分る。

第二に、彼等の典型的解黨主義。彼等が裏切りを誤魔化す大義名分を求めることは既に述べたが、そのために、彼等は常に眞正左翼を氣取り、革命派を「極左翼」と言ひくるめ、一定の意義ある用語

を盗用、逆用する。最近では、圖々しくも吾々を呼ぶに「解黨派分裂主義」を以つてしてゐる。吾々が舊労働農民黨の組織原則を批評し、その正しい再生の道を指示したのを見て、彼等は、あれ見よ、あれこそ「無産政黨無用論」だ、解黨主義だと言ひくるめようとする。

これは、子供騙しには、一寸都合のよい詭辯だ。しかし、吾々は解黨主義乃至清算主義（リクイダートルストヴォ、リクイーデーシヨニズム）と呼ばれてゐるものゝ意味を調べて見よう。解黨主義とは、ロシアに於けるボリシエヴィキーとメンシエヴィキーとの闘争の歴史のうちに發生した、一定の定義を有するものである。その解黨は、プロレタリア前衛の組織の解體を意味する。一九〇五年の革命が敗れた後の反動時代に、ロシア社會民主労働黨の内には、いろ／＼の偏向が、白色テロルに恐怖したインテリゲンチヤの心理と結びついて生じたが、メンシエヴィキーの内部には合法主義熱が横行し、何時首が飛ぶか分らない、恐い／＼といふので、黨の秘密組織を解體し、労働組合その他の合法的大衆團體だけに活動を限らうではないかといふ議論が現れて來た。レーニンは之を解黨主義と命名し、この一派に對する徹底的闘争を敢行して粉碎して了つた。

その後の世界労働運動史に於ても、この解黨主義なる言葉は、まさに右の前衛の組織を解體しようとする偏向に對して與へられた。特に黨組織の弱い時代または極端な反動時代には東洋諸國でも同様な偏向が現れた。土耳其において（一九二〇年）、支那において（譚平山）、朝鮮において、また日本に

おいて。わが「勞農」派は、一九二四年、最初の〇〇×××を解體させた前科者なのだ。

一九二三年、若い〇〇×××は、その思想的不統一とセクト的存在と分派闘争と規律の缺如のため、極めて弱い基礎の上に立つてゐた。それが六月の檢挙と大震災とによつて大打撃を蒙つた時、自警團の白刃ひらめくテロルの下に、解黨主義の思想が生れた。その先達となつたのが赤松と山川であつた。今日の「勞農派」の首領達は、黨組織解散の急先鋒に立ち、労働者同志を瞞して、一九二四年黨組織を解いてしまつた。ロシア解黨派は、黨の秘密組織の解散を提唱して叩きのめされたが、日本の「勞農」派は、かつてその手で解黨を實行したところの、言はゞその手は血にまみれた刑殺者の一團である。

コミンテルン第五回大會は、激しくこの處置を難詰して、×再組織の急務を指摘した決議を採用した。再組織のための一時的解散だなど云つて同志を瞞した解黨主義者共は、すつかり合法主義者になつて何もかもサポータージュした。つゞいて×再組織のための××會議の決議を、第一番に蹴つたのは、堺と山川であつた。

實に「勞農」派とは、歴史的な解黨派である。

四

それでは、何故、彼等の現在の「横断左翼」結成の提唱を解黨派的だといふのか。彼等の言ふことは、一寸人を誤魔化し易い。ところが彼等は肝心の×××組織には、一言も言及してゐないのだ。「當面的全闘争」などと言ふ言葉で、この問題を回避しようとするのだ。「横断左翼」とは、フラクションのように聞える。「工場に農村に及びあらゆる大衆團體内に」あらうといふのだから。それでは、何のフラクションか？ 一體誰が指導するのか？ 何處に組織の基礎單位があるのか？ 何處に中央部があるのか？ 一體、如何なる活動をしようとするのか？

問ひ來れば「横断左翼」とは、社会民主黨派内の、果敢ない傾向としての左翼に過ぎない。行動しない左翼、右翼の尻尾にくっついて行くだけだ。左翼である。ダラ幹の除名一つ要求し得ない左翼である。彼等自身、別の所で『左翼傾向』と言つてゐる。彼等には、人に裏切者と思はれまいとする心持があり、そのために「横断左翼」だなどといふ名前で自己を瞞着し、また人を偽瞞するのである。

第三に、彼等の合法主義については、いふまでもあるまい。彼等自らそれを振りまはしてゐるのだから。

五

労働者諸君！ 農民諸君！ この女郎みたいな左翼社会主義者の言葉に瞞されてはならない。一體、誰が指導するのか、如何なる政策を實行しようとするのかも、分らない組織ではないか。一山川一猪俣の頭から出るベテン政策に引廻される勿れ！ プロレタリアートは二二の「大御所」の意見や忠告に引づり廻されてはたまらない。組織内の眞實のデモクラシーは、プロレタリアートのものである。組織内のデモクラシーと中央集権と鐵の規律と反動に詰抗し得る鞏固な地下建築と生産點に基いた組織單位とを體現し得るものは、×××の外にない。之のみがプロレタリアの×である！

攻撃の言葉に窮した彼等は、「勞農同盟」の方針を見て、あれが解黨主義だ、合法的結黨主義を呪つたなどと言つて居る。この調子で行けば、日本だけでなく、多くの後進諸國に於ける労働者農民黨の組織を批評し、警告したコミンテルンもわが『勞農』派から解黨主義の非難を蒙らざるを得ない。

誰がプロレタリアートの敵か？ 誰が解黨主義者か？ 事實は雄辯に物語る。

「京都のメンシエヴィーキ」と綽名ある男は、××黨なんて恐い／＼と口ぐせのやうに口走つてゐる。「勞農派」の「先進分子」なる水長、神兵の徒は、××黨には大反對だと大見得を切つてゐる。彼等の或る者は議會解散運動は、「勞農同盟」を支持することになるから反對だといつてゐる。わが『無産者新聞』や『マルクス主義』を、「誇大妄想新聞」「暴論雜誌」と罵つてゐる。問ふに落ちずして、語るに落ちるとはこのことだらう。

六

彼等がかうも言つてゐる。――

「解黨派分裂主義——福本主義——の嫡出子、縦断左翼主義は致命的日和見主義理論として、最後のにその破綻を普く暴露した。舊勞農黨、舊青年同盟内に於ける解黨的分裂に基く縦断左翼主義者の實踐的敗北を見よ、」と。

* 前掲『勞働新聞』の社説——編者。

借問す、以上三團體の成立は、福本主義の發生以前ではなかつたか？ 舊勞農黨については、この正しい方向を吾々は既に指示した。舊青年同盟については、吾々は言ふ、××青年同盟こそが之に代るべきであると。

勞働組合に於ては、強大なる左翼の全國的中心なくしては、決して組合の全國統一も、右翼及び中間派大衆の左翼化傾向を組織に克ち取ることもあり得ない。

プロレタリア黨は、決してその指導の及ぶ大衆團體のみに満足しない。あらゆる大衆團體内に、或は反動的勞働組合に、或は左翼の「横断左翼」内に、そのフラクションを形成して行く。この黨のみが、プロレタリアートの階級的統一の立場に立つ。社會民主黨派の統一のために舊勞農黨を分裂させ

たり、群小組合を集めて「勞農」派組合を作らうとするやうな、「解黨派分裂主義」に對して斷乎として宣戰する。プロレタリア黨は、「縦断左翼主義」の立場には立たない。その必要がないから。その代りに、その階級の大多數と、革命の同盟者とを自分の側に獲得するために努力する。

彼等は、吾々の立場を以つて「公式的な極左理論」と悪口を言つてゐる。社會主義の、公式的な凡俗的理解しか持たなかつたのはそも／＼彼等である。彼等は、自分達がまさにそれに値する故に頂戴した言葉を、何とかして投げ返したく／＼してゐる。

よろしい！ 彼等が「我國の國情に即し」てその排外主義を振り廻し、「特殊性」のかけにかくれて、解黨主義と合法主義と日和見主義とを傳播すればする程、吾々は、ヨリ大膽に、「公式的に」革命の正道を歩む必要がある。そしてプロレタリアートは歴史の「公式」通り、ブルジョアジーとその代理人——左右の社會民主主義者——とを片附けるだらう。——（一九二九年二月二十日）——

——署名「大畑徹」、「マルクス主義」一九二九・四、第五六號——

民主××のための闘争に於ける
議會解散運動の意義

今や労働者及び農民の痛憤のうちに第五十六議會——帝國主義××を準備し、プロレタリアートの戦士を絞×し、労働者及び農民大衆の收×を増大せしめる帝國議會が進行してゐる。

一八二九年の初頭において、日本に於ける階級闘争はらさにヨリ激烈になつて行かうとしてゐる。帝國主義の代理人たる社會民主主義者は、兇暴飽くなき白色テロルの下に労働者のストライキと農民の小作争議とが壓伏され、鎮壓されて、その數を減じたことを内心喜んでゐるが、同時に彼等は大衆の××化して行く傾向を無視することが出来ぬ。ブルジョアジも社會民主主義者も、プロレタリアの××運動が益々「潜行的」になつて、彈壓と迫害とをくりながら、地下にその力を延ばして行くことを認め、半ば恐怖を以つてその對策に腐心する。支配階級は徹底的な彈壓、革命戦士の死刑を以つて脅かす。社會民主主義者は献策する、——も少し柔かに懐柔といふ手段によつて！と。

この國內に於ける警察的テロルと國外に於ける武力的侵略にも拘らず、日本の經濟状態は「良くならぬ」。一九二八年の輸出總額は約十九億七千二百萬圓、輸入總額は約二十一億九千六百萬圓、入超二億二千四百圓餘であり、植民地を合算すれば、入超は四億四千萬圓に上る。原料用製品と全製品とが輸出においては減少し、輸入においては増大してゐること、綿織糸、綿織物、生糸等の輸出が減少した

民主××のための闘争に於ける議會解散運動の意義

こと等は、まさに日本資本主義の苦しみの程を物語るものであらう。Xの侵Xにも拘らず、海外投資の利益は減少し（一九二七年一億一千萬圓、一九二八年九千萬圓）、反対に外資輸入は増してゐる。その埋合せは、労働者に對するより一層の攻撃である。資本主義的な産業合理化の過程は進行し、資本家は擧つて労働能率の増進（労働者のより一層の搾取）を圖り、賃銀は減り時間は延長されて、至る處、労働者が街頭に投げ出されてゐる。

日本資本主義の經濟的危機、増大した生産力と縮少した市場との矛盾、國內資源不足の苦惱等を克服せんがためには、ブルジョアジーの標語は一致する。曰く産業合理化による生産力引下げ、曰く労働者農民に對する徹底的弾壓、曰く支那革命及び植民地の解放運動の鎮壓。そのために〇〇帝國主義は益々X政策を恣にし、帝國主義戦争を準備し、田中政府の反動的施政を通じ、而もX X X Xにおいて公然たる反動的ブルジョア獨裁を樹立しようと努力してゐる。

まさに第五十六議會は、帝國主義戦争を準備し、労働者農民をX X するための議會である。老大な十七億五千萬圓の豫算中、軍事費は實質上その過半を占めてゐる。アジアに於ける反動の支柱としてサヴェート同盟に對し、反亂する植民地及び半植民地（支那、滿洲）に對する反動的戦争の準備を怠たらぬ〇〇の帝國主義者共は、この老大な軍事費には双手を擧げて賛成するのである。

税制整理案（兩税委讓と所得税法の改正等）では、一方に地租及び營業稅の地方委讓によつて地主

及び資本家の負擔を軽くし、彼等の手中にある市町村の利己主義を満足させ、それについて中産者を若干の負擔軽減によつて彼等の側に獲得すると共に、他方、所得税法改正に當つては、似而非累進稅法と詐僞的比例稅法によつて中産階級の負擔の比重を増大せよとする。自作農創定案では地主の土地を高く買上げて農地債券を給附し（元金償還の際、較差利益は一割七分五厘にも達する）、彼等を貨幣資本家に轉化すると共に、土地を欲する貧農及び小農を永久に國家の高利貸的農地金庫に隷屬させよとするものであり、而もかゝる方法により土地に對する農民の熾烈な欲求を利用して、部分々々からそのX X 的擡頭を切り崩さうとするものである。貧農は本來無代の土地に高い代價を長年月に亘つて支拂ひ、無限の彼方において僅少の自己所有地（自作農地）を得ることを望み得ても、斷じて「自作農」となることは出来ぬ。

緊急勅令による治安維持法改惡の事後承諾——これこそは、新戦争を前にして彼等支配階級が、労働者農民、及び一般勤勞大衆の日常要求をX 闢し、その革命的闘争を壓伏するために、X 亂する植民地解放運動を鎮壓するために、その先鋒に立つプロレタリアのX X 的組織と戦士とを絞首臺上の犠牲に供しようとするものではないか。治安維持法發布以來數ヶ年、日本、朝鮮、臺灣及び關東州において數千の眞摯なるX X 家がその罪を問はれ、斷罪され、牢獄に呻吟して居る。ブルジョア諸黨は議會内部で反動的政權を中心とする種々様々の芝居を打つてゐるが、彼等の階級利害をプロレタリアート

民主X X のための闘争に於ける議會解散運動の意義

の脅威から保護するためには完全に一致する。ブルジョア反対黨はたゞ手續と處罰の程度とを云々する。けれども主義においては大賛成なのだ。

階級意識あるプロレタリアートの立場は、かくの如き議會、帝國主義戦争を準備し労働者農民をXする議會を、解散しろ！ でなければならぬ。

二

プロレタリア黨は厳しい迫害と追求との只中にあつて、その政策とスローガンとを公表して、その闘争をつゞけ、大衆に呼びかけて居る。議會を解散せよ！ この聲は下から、大衆の間から呼應してゐる。戰鬥的な労働者團體はすべてこの目的のために起ち、「議會解散闘争同盟」が作られやうとしてゐる。

この大衆な議會解散要求運動に於ける革命的プロレタリアのスローガンは次の如くでなければならぬ。

- (一) 帝國主義戦争を準備し、労働者農民を彈壓する第五十六議會を解散せよ！
- (二) 反動的田中内閣を倒せ！
- (三) 資本家地主のXXXXX！

(四) 労働者農民XXXXX！

此處で吾々のスローガンは、帝國主義の代理人たる社會民主主義者のスローガンから判然と區別される。彼等には本來スローガンはない。大衆を偽瞞するための空文句があるばかりである。彼等にとつては民政黨と同じくたゞ政友會の内閣、田中政府が倒れればそれで可いのである。しかも、彼等は眞面目に田中政府を倒すことを考へて居らぬのだ。彼等は四名(社會民衆黨)と二名(日本大衆黨)との代議士にあらゆる望みを託し、少くとも望みを託し得るかのやうに大衆を欺き、「我が黨何々代議士の奮闘」などいふ誇大な文字を使つては議會主義の幻想を振りまいてゐる。彼等はいかゝる議會を解散しろ！ といふ要求と闘争の方へ大衆を導びかす、ひたすら大衆の耳を塞ぎ、眼を覆ふことに腐心してゐる。彼等は、ブルジョア反対黨と同様に上野の山で「倒閣」の叫びを上げて居れば、それで可いのだと大衆に説教してゐる。

議會解散の闘争なしには、打倒田中政府の言葉は一の空語である。議會解散の闘争なしには、帝國主義戦争反対は一の飾り文句である。議會解散の闘争なしには、治安維持法撤廢の聲は、大衆の力に媚びて之を欺くものである。

吾々は廣大な大衆に向つて吾々はこの一政府にのみ反対なのではなくて、一切の資本家地主政府にXXであることを告げなくてはならぬ。吾々の反対の立場は、政府の階級的性質、それが資本家地主

民主XXのための闘争に於ける議會解散運動の意義

の政府だとしてふことに存することを明らかにしなければならぬ。何者がそれに代るべきか——吾々は××的な目標、労働者農民××××を叫ばねばならぬ。

ブルジョア民主××のための闘争に於ける議會解散の運動の意義を究めるには、大衆的な議會解散要求運動の歴史を見る必要がある。

一九二六年春、労働運動左翼の退却主義の結果として労働農民黨は改良主義者の黨として生れ、數ヶ月間、何等の政治的活動をもする所がなかつた。その時、農民の政治的欲求は益々熾烈となり、戰鬥的な労働者も亦行動を欲してゐた。それは黨とは別箇に議會解散請願運動といふ大衆的な運動となつて現れた。「言論集會出版結社の自由！ 團結權罷業權の確立！ 八時間労働制の實施！ 土地立入禁止、立毛差押反對」といふ諸要求を掲げ、議會解散、普通選挙法の實施を中心スローガンとした。この闘争のうちに「議會解散請願運動」の地方同盟及び全國同盟が出来た。これこそは、日本において、ブルジョア民主××のための闘争が初めて大衆な規模において開始され、労働者農民の同盟の素地を築いたものであつた。何故なら、運動の要求項目は明白にブルジョア民主々義的なものであつたから。數十萬の労働者農民の請願署名を以つて日本に於ける階級的政治闘争は出發したのだといふことが出来る。この運動——ブルジョア民主××を目ざした大衆的闘争が眞實の端緒となつて社會民主主義者との分裂が生じた。労働農民黨は戰鬥的指導の下に立つに至つたのである。

一九二七年、政府が金融恐慌に際して九億の巨費を労働者農民から搾り上げて破産した資本家を救はうとし、ブルジョア諸黨が擧つてこれを支持した時、再び議會解散要求の運動は力強く闘はれた。注目すべきことは、運動がより労働者的なつたことである。

一九二八年の初め、舊選挙法による議會を解散せよの要求は益々盛んになつた。議會は解散され、新選挙法によつて總選挙が行はれた。

この總選挙戦の歴史的意義は、プロレタリアの黨が初めてその綱領と政策とを公表して、戦ひの舞臺に立つたといふことである。

議會解散運動は、日本に於ける大衆的な民主××のための闘争の最も有効な運動形態であり、また實にその成長は同時に後者の成長を意味するものであつた。

吾々は現在前述の中心スローガンの周圍に言論集會出版結社の自由、團結權罷業權の確立、七時間労働制、國庫負擔の失業保險、立禁止毛差押反對、等々の諸要求を掲げて、精力的に現在の闘争を遂行しなければならぬ。農民のためのスローガンとしては吾々は、「土地×農民×！」を煽動しなければならぬ。

三

それは何故に議會解散の要求がブルジョア民主XXのための闘争において意義を持ち、特別の地位を占めるのか？ それは、帝國議會とは現在の資本家地主の國家の機關に外ならず、資本家地主の代表の會合だからである。支配階級の反動的プロツクの協議會だからである。

帝國憲法によれば、帝國議會の役目は、法律に協賛すること、即ち政府提出の法律案を議決し、法律案を提出すること、また法律又はその他の事件について意見を政府に建議することである。明治の一學者が言つたやうに、それは憲法を生む議會ではなくて、「憲法から生れた議會」である。何等の民主主義的傳統をもつた議會である。

見よ。またその壇上において政府が在野黨を攻撃する場合、在野黨の政策を急進的なりとし、XXの名において反對黨を壓しようとする試みがないものがあるか？ また在野黨にして政府を攻撃するに際しては、政府の「至誠至忠」を疑ふと言ひ、「輔弼」の責を怠るものといふ口實を持ち出さないものがあるか？

反動的政權をめぐるブルジョア諸黨は常に必ず反動的な材料を以つて政府を攻撃し、政權にありつかうとする。最近の數議會を回顧しても、第五十二議會において政友會が憲政會内閣を攻撃したのは、「大逆犯人」を優遇したといふことであつた。その憲政會内閣が倒れた後は、鈴木内相がブルジョア議會主義否認の聲明をした。第五十五議會では田中首相は共產黨事件に言及して「惡逆無道言語に絶

す」と言つた。國難決議なるものが行はれ、民政黨は總選舉の結果に對する虚偽上奏事件を問題した。五十六議會では、さらに「人民の名において」が問題になり、優待問題が政府攻撃の題目になつてゐる。レーニンは早く日本のブルジョアジーを特徴づけて君主主義的ブルジョアジーと言つた。（『帝國主義論』）。その議會も亦君主主義的ブルジョア議會と言はるべきである。

* レーニン『資本主義の最高段階としての帝國主義』（希望閣版）第一九一頁——編者。

治安と私有財産とX體と、——これが支配階級の共通の合言葉である。

四

社會民主主義者は如何？ 彼等は果して民主主義であるか？ 彼等は労働者及び農民の利益のために闘つてゐるものであるか？

その答へには、議會に於ける彼等の行動と日々の闘争に於けるその態度とを少しく回顧すれば充分である。共X黨檢舉の際、君主主義の立場から、かゝる「犯罪」の勃發に遺憾の意を表したものは、「無産黨」議員の名においてこれを言明しなかつたか？ かのXXの變遷に參列した朝在野の議員中「無産黨」議員なるものは居なかつたか？ 野田大ストライキにおいて、海員ストライキにおいて、その他の労働者階級の日常闘争において、労働者を資本家に賣つたのは誰れであつたか？ 労働組合

會議を蹂躪したのは誰れであつたか？ 労働組合を分裂させたのは誰れであつたか？

右から左に至る一切の社會民主主義の態度は全くの裏切りである。

左翼の社會民主主義者中『勞農』メンシエヴィーキ共は、議會主義の幻想を大衆に植えつける點において決して右翼に劣つては居ない。彼等はブルジョア反對黨と共に、田中政府の攻撃にだけ専心する。「俺達の旗じるしは打倒田中反動政府だ」と。その次に曰く「……ありとあらゆる場合において反動支配を退うして來た田中反動政策は、かくて今や、その反動の武器庫を満開して、一切の反動の武器をもつて、議會を占領し、絞殺しようといひかゝるのだ。」「傍點引用者」

* 『勞農新聞』一九二九・一・二〇、第六號——著者。

まさしく特徴的な社會民主主義者の偽瞞的文句である。彼等は「一切の」煽動的な文句を動員してゐる。けれども、よく注意して見よ！ 彼等は田中政府が議會を絞殺するといふのである。それでは社會民主主義者諸君は議會防衛の十字軍を起すといふのか？ 彼等こそは骨の髄からの議會主義者である。反動的行政權に民主的立法權が對立してゐる位に心得てゐる。彼等こそはこの君主主義的ブルジョア議會の擁護の立場に立つものである、政府と議會とは、本質上、一身同體である。政府は議會に對して「占領」とか「絞殺」とかの手荒な手段を必要としない。若干の議員を買収すれば、こと足りる。昨年中は一寸高値で陳笠の身代金、手付だけでも五千圓や一萬圓を呼んだが、昨今は下落

してゐる。

田中反動政府が「占領し絞殺しようとしてゐる」のは、議會ではなくて、×那領土であり、國內及び植民地半植民地の革命家である。

同志ブハリンはかういふ連中を一括して「日本の君々主義的社會主義者」と言つて居る*。

註 参照、『共産インタナショナル第六回世界大會綱領委員會議事録』——著者。

五

プロレタリアートこそは、日本に於ける壓伏され、流産させられたブルジョア民主××運動の正統なる相續者である。この階級のみが、この國の急激なるデモクラシー化のための闘争を組織し、農民その他の之に利害關係を有する一切の階級を動員し、之と同盟して、この闘争に於ける主導的地位を占めることが出来る。そして、同時にこの××のプロレタリア××への推移の機運を促進し、そのために準備する。

大衆的な議會解散運動は、この運動はこの運動の成長のパロメーターである。

プロレタリアの黨は、この國に於けるあらゆる民主的闘争の先登に立ち、一切の××的勢力の中心とならねばならない。至る處においてブルジョア諸黨及び社會民主黨派と拮抗し、プロレタリアの地

位と利害を擁護しなければならない。闘争のうちに、労働者と農民のXXを形成するために努力しなければならない。

社会民主党派は今日、「統一」——彼等の「統一」を策してゐる。プロレタリアの革命的組織に對する支配階級の彈壓のおかげで、彼等は一時的に表面上労働運動内部にその比重を増した。彼等はこれから先、常に躊躇、優柔不斷、不活潑の態度をとり、あらゆる偽瞞的政策を以つて労働者を自家藥籠中のものにし、労働者に闘ふ勿れ！ XXの煽動に乗るな！ と戒めるであらう。それ故に下から協同戦線の戦術を適用し、改良主義者、日和見主義者の正體を暴露しつゝ大衆の階級的動員を實現することは、今日の急務である。議會解散要求運動は、組織と未組織とを問はざる労働者及び農民大衆を動員しなければならない。

總選舉のある度毎に社会民主党義はより多くの議席を帝國議會に占めるであらう、——労働者大衆の一部分が彼等に幾分でも信頼をおいて居る限りは。それ故にこそ、また吾々は議會の解散を要求するのである。何故なら、ヨリ多くの「無産議員」——社会民主党義代議士をば、ヨリ急速なる大衆の幻想の破壊、より急速なる社会民主党義者への信頼の消滅を意味するものになくはならぬからである。いはゞ歴史の車輪をより急速に回轉せしめんとするのだ。プロレタリアの黨は彼等の成長よりは遙かに早く自己の力を強大化し、彼等の増長を困難ならしめ、その大衆と結びついて、彼等の基礎

を崩り崩し、その表面的成長のうちに「没落の種子を胚胎」せしめなければならない。

右翼社会民主党義者はブルジョアジーの攻撃を機會に、その階級協調策を推し進めてゐる。左翼社会民主党義者は現在の時期をひたすら反動期と表現して、それ以外の如何なる底流をも、大衆の反作用をも見ようともせず、たゞ忍従と屈服とを説教してゐる。

危機は切迫してゐる。一大帝國主義戦争の危険が。戦争の切迫こそは、また大なるXX的危機の將來を、社会主義以外に出路はあり得ないところの危機の將來を告げるものに外ならない。

プロレタリアートは準備しなければならない。「帝國主義戦争を準備し、労働者農民を彈壓する第五十六議會を解散せよ！」

「資本家地主の政府XXX」 労働者農民XXX（一八二九年二月十一日）

——署名、「内田隆吉、『マルクス主義』一九二九・三月第五五號——

工場内の組織及び
大衆動員の諸問題

- 一 頑強且つ執拗なプロレタリアの闘争
- 二 工場内の組織
- 三 工場への喰ひ込みの必要
- 四 カムバーニヤの諸形態
——大衆の意志表示とデモンストレーション——
- 五 大衆動員の組織と恒常的大衆團體
- 六 労働者農民の會議
——並びに「労働同盟」の方向について——
- 七 サヴェエート及び農民委員會について

一 頑強且つ執拗なプロレタリアの闘争

プロレタリアートの闘争は、その決定的××——たゞに一國のみならず世界的な——に至るまでは頑強な、苦しい且つ執拗な闘ひを続けねばならぬ。戦ひには一勝一敗がある。その進む途は決して坦々たる「ネヴスキーの大通り」ではない。前進と退却と、攻撃と防禦とが相互する、迂余曲折を極めた難路である。その過程には、合法と×合法と、公然と秘密との、組織並びに活動が相互に結合され、發展させられる。その闘争の發展も亦、均一の平等的發展の形をとらぬ。進歩した部分と後れた部分とがあり、既に早くから労働組合に組織され、幾たびか大ストライキを経験した産業部門の労働者と、未だ殆んど自覺して居らず態に×取され、收×されてゐる産業部門の労働者大衆とがある。既にプロレタリアートの××が實現されたサヴェエート同盟があり、未だやつとプロレタリアートの階級的政治闘争が始まつたばかりの國々がある。所謂「ジリ／＼と闘争を組織して「潜行運動」から防塞の××に至るまで、プロレタリアートの勝利のためには無数の犠牲と測り知れぬ程の努力とが要求される。

プロレタリアートの闘争が、在來一切の被搾取階級の闘争と異なる所は、近代大工業に養成されたその集團的存在、それに因する組織力と規律と訓練とになければならぬ。闘争の持久性とねばり強さ、

即ち頑張りと執拗さになければならぬ。これらがまた今日においても農民その他の階層に比較しての長所たるべきものである。プロレタリアートは本来徹底的な革命階級である。動搖と躊躇逡巡とは、本来この階級に無縁である。僅かばかりの壓迫にヘコたれぬこと、否、一たびその軍勢を粉碎されてしまつても、二たび三たび立ち上つて闘ひを再開するのがプロレタリアの特徴である。勇氣と果斷と犠牲的精神——ヒロイズムはその特徴である。思ひ上りや失望落膽はまたプロレタリアの闘争に禁物である。

プロレタリアートの組織と闘争の形態及び方法も同様の原則の上に立つ。

プロレタリアの政治闘争には、黨——階級の前衛であり、戦闘隊であり、プロレタリアの諸組織の最高形態、即ち頭部たる——×××を必要とする。その組織原則たる、中央集權と集中的組織と組織内のデモクラシーと鐵の規律と生産點（工場、職場等）に根をおく組織單位（即ち工場細胞）とは、プロレタリア階級の特徴と長所とを、組織の形において最大限に實現したものに外ならぬ。

黨と並んでは、種々の恒常的大衆團體を必要とする。就中、労働組合が最も重要である。

労働組合は資本と賃労働との衝突の間から生れた、闘争を通じて労働者大衆を組織する、最も自然な大衆團體であるばかりでなく、不斷に労働者を××的闘争に結合し、動員し、教育する××主義の學校である。プロレタリアート××のために準備すべき現在の段階にあつては、労働者大衆の日常的

要求のための闘争、労働組合の強大化、組合内に於ける組織的な且つ執拗なる活動、改良主義官僚に對する假借なき闘争、大衆の階級的動員及びその獲得、階級的な戦線統一は、××的プロレタリアにとつて最も主要な任務である。

プロレタリアの運動には決つて「斬新奇抜」はない。黨とその他のプロレタリア組織が不斷に頑強、執拗な闘争を続け、その組織を強大にし、ヨリ近く敵に肉薄して、闘争を激化し行くのである。闘争の様式、形態及び方法は、状態の必要に応じて變化する。躊躇なく、最も敏速に、レーニンの戦術に従つて變へられねばならぬ。けれども、それは單なる移り變りではない。一の段階から高い段階への推移、變化である。そして、あらゆる闘争の段階を通じて、プロレタリアの黨と大衆團體との組織はヨリ強大になり、ヨリ經驗を豊富にし、ヨリ訓練されねばならない。

最近において、プロレタリア黨の活動と状態の變化——就中、殆んどすべての戰闘的組織を地下に追ひ込まうとしてゐる兇暴な白色テロと、それに對する組織的準備を告げ知らせる戦争の切迫と、社會民主主義者の裏切的「統一」と、廣大な大衆動員の中心組織たらんとする「勞農同盟」の再組織運動とは、合法と×合法、工場細胞の組織、工場委員會、大衆動員の形態、時々刻々の運動（カムバニーヤ）の方法、ストライキ術の等について、最も眞剣な論議を生んでゐる。工代を開け！ 農代を開け！ と叫ばれてゐる。

これについて僕は一つの偏向——若しそれが言ひ過ぎならば片手落——について、労働者諸君の注意を促さざるを得ない。多くの人々が大衆動員について、「工代及び農代」について論議し、否、その関係、実行について努力してゐる。しかし、吾々は自問しよう。一體、大衆動員は何を目的にするか？ それは××準備期において、廣大な大衆を××的スローガンの下に現在の支配階級に反対して動員し、巨大なる大衆行動に習熟し、プロレタリアートの組織（黨及び大衆團體）並びに階級自體を訓練するためではないか？ 下からの大衆の結合、統一を實現するためではないか？ 大衆を獲得して、プロレタリアートの組織を強大にするためではないか？

巨大なるカムバーニヤの組織、大衆動員のためには、不斷にプロレタリアートの組織を擴大、強化する努力が先行しなければならぬ。強大なる労働組合なくしては、ストライキ戦術もなければ、工場代表者會議の問題もあり得ない。工場に基礎がなくて、大衆動員はあり得ない。

黨について、かつての解黨主義、セクト主義の思想は戰闘的労働者の間に殆んど一掃され、正しい理論は漸く普及し、その建設のための努力がなされてゐる。

労働組合の方面では、未だ決して充分でない。福本主義の時代には「經濟闘争」が蔑視され、労働組合の役割及び活動も閉却された。一九二七年末からの正しい活動方針の下においてもなほ傾きは免かれなかつた。それは、プロレタリア黨再組織への全努力の傾注のために、左翼労働組合への努力が

反作用的に不足した。現在、新黨準備會の解散後、「労働同盟」の新たな方針が論議され、實行されようとする時に當つても、工代を開け！ といふ呼びかけが先んじてゐる。工場代表者會議、農民の會議等は、労働組合、農民組合に取つて代るものであるか？ 斷じて否！ それは、何か目新しい「斬新奇抜」な運動方針であるか？ 斷じて否！

××的目標を持たぬ『労働』メンシエヴィーキ共は、吾々の運動方針を「デマと空騒ぎ」と中傷してゐる。しかし、吾々の陣營にあつても、若し工代、農民會議による大衆動員の戦術を何か「斬新奇抜」なものと考え、地味な、苦しい、且つ執拗な持久的組合活動から、時々刻々の、調子の好い大衆「動員」——そいふ方法では決して動員でも何でもないのだが——への推移だと考へるものがあるならば、否、さう考へなくとも執拗な持久的組合活動を少しでも疎かにして、工代へと急ぐものがあるならば、それこそ、大衆動員自體の意義を理解しない者、まさに勝利のために必ず踏破さるべき難路を避けて「ネヴスキーの大通り」を求めんとする者と言はざるを得ない。僕は卒直に言ふ、強い「斬新奇抜」を求めるなら、東京のネヴスキーたる銀座通りでもブラつき給へ、と。日々に趣向を變へた小ブルジョアの「斬新奇抜」を望み通りに求めることが出来るだらうから。

けれども地味な、ねばり強い運動につかねばならぬ。大衆動員のためには、労働組合の力を強めねばならぬ。工場に喰ひ込まねばならぬ。

【註】註ネヴスキーはレーニングラードの大通りの名。ロシアの革命家チエルニシエフスキーは、革命運動はネヴスキーの大通りではないと言った。この句は同志レーニンも愛した。

二 工場内の組織

けれども吾々の現在の運動方針は、或る意味においては、労働者大衆にとつて新しいものである。それは無黨の運動が、黨に率ゐられた運動に變つたといふ意味において、かつて意識の上に立つてゐたのが、今や顛倒されて正しく闘争の上に、工場の中に立脚しようとしてゐる意味において、従つて黨の立場からの大衆獲得と大衆動員が論ぜられつゝある意味において、新しいのである。

現在「勞農同盟」は工場代表者會議、農民の會議等の廣大な大衆動員形態の核心たるべく再組織されてゐる。闘争渦中に於けるその×××への再組織といふ豫想が論じられ、「工代、農代」への呼びかけがなされてゐる割合には、労働組合的活動への援助と工場内に於ける「同盟」の組織の確立とが、論じられてゐない。吾々は、こゝでも正しく基本的な大衆團體たる労働組合の重要性と工場に基礎をおく（工場班の組織）必要とを力説しなければならぬ。「勞農同盟」がその使命を光榮の中に遂行し終るためには、労働者農民の日常要求のために最も精力的に戦はねばならぬ。日々の闘争の中に労働者と農民との同盟を形造るために努力しなければならぬ。工場代表者會議召集のためには、同時に労働

組合の活動の援助と、工場内の煽動、宣傳及び組織運動とを盛んにしなければならぬ。

「勞農同盟」組織の意義は大きい。その全員は、新しい運動方針を理解して、最大限にその創意を發揮して、工場、鑛山及び貧農の結集してゐる所で活動しなければならぬ。どしどし戦闘的分子のグループを作り、研究會、讀書會等で種々の出版物を利用して討論し、自己教育し、大衆の間にその闘争目的とスローガンを×動し、未組織者を組織し、労働組合及び農民組合の闘争に積極的に参加し、之を指導しなければならぬ。議會解散運動や東京市會選舉戦や健康保險委員の改選や日々の賃銀闘争等について工場代表者會議を開催し、農民の會議を召集するために努力しなければならぬ。

工場細胞はプロレタリア黨の組織の基本單位である。そのことは、細胞が一切の黨活動の出発点だといふことを意味する。工場細胞は、黨の×動と宣傳を遂行し、労働者の日常要求のための闘争の先頭に立ち、政治的闘争に労働者を動員し、工場内に不斷の活潑且つ巧妙な組織運動を行ふものである。舊労働農民黨も工場班、農村班、街頭班の組織方針を採用した。「勞農同盟」の活動分子の任務はこの方針の下に、生産點に根を張るための最大の努力をすることである。この努力なくして何の工代、農代運動ぞ！これは東京、大阪等の大都市について然るのみならず、地方の中心都市や農村においても同様である。地方では労働組合（多く一般労働）、「勞農同盟」支部、「無産者新聞」支局、救援會支部、時には農民組合支部まで一ヶ所に寄合世帯をしてゐるのがある。この状態は打破されねばならぬ。

それは若干の活動分子が一切の活動を兼ねてゐることを意味し、仕事の分擔と運動の分化とが充分に行はれてないことを意味する。そしてヨリ重要なことには、かういふ状態は合法的活動と×合法的活動との結合が殆んどないこと、一の組織の破壊または活動分子の檢舉は、他の一切の全滅を招くことを意味する。かやうな「原始主義」は揚棄されねばならぬ。人口十萬以下の中都市、まして一萬以下位の所では、今のところこれ以外に方法はないといふ同志があるなら、それは間違つてゐる。町が小さければ小さい程、現在の方針の下では、警官に顔を知られ、行動を察知される可能性が多いと同時に正しい方針の下では巧妙な×合法活動乃至「潜行運動」の便宜を最大限に利用出来るのである。警官に顔を知られてゐると共に、町の者にも知られてゐる。後者の大衆の支持といふことは、吾々の活動に非常に重要な役割を演ずるのである。若し強いて地方の同志諸君が地域の狭小といふ理由から反駁されるなら、私は海をこえていろ／＼の實例を持つてくる事が出来る。バルチツク海岸のラトヴィアはわが一府縣に當る位の小さな國だ。その工業といつても亞麻と木材で、木材労働者の数が現在でやつと五萬位である。十數年前には小商人と手工業労働者と農民以外には何もなかつた。しかも、このラトヴィアの社會黨（現在の××黨）はボルシェヴィキの側に立てる革命的傳統を有し、多くの優秀な同志——×合法活動に習熟した同志を生み出した。イタリーは決つして工業國でない。ミラノを除いては大工業都市はない。ポーランドもロツヅとワルシヤワ以外は農村だ。ブルガリアは全くの

農業國である。またこんな國々を引合に出さなくとも、ロシア及び支那はどうか？ 小都市であること、農村地方であることは、少しも組織が擴大されぬ理由にはならぬ。わが國でも、全くの小都市であつても比較的運動の進んでゐる所もあるのである。

最も重要なことは、生産點に根をおくこと、工場（鑛山）と貧農の結集してゐる所に地盤を築くことである。中小都市でも、工場に狙ひ打ち式に努力を集中し、さまざまの知己、手づるを求めて、工場内に喰ひ込むことである。全體において、大工場、重要産業の工場に入つて行かねばならぬ。

吾々は工場労働者や手工業職人や小商人やインテリゲンチヤを一つに集めた、小地域の組織單位に止まつてゐては不可ない。よし假に三つの街頭班があらうとも、その一つ／＼は、その狙ふ工場を持つて、工場に基礎をおくように進んで行かねばならぬ。宣傳と×働とを、全體の協力と適當な仕事の分擔によつて行ふべきである。官憲の追求は猛烈になると共に、集會の場所、時間、文書の印刷、配布方法、必要書類の保存方法等について各自のイニシアチヴを發揮し、諸經驗を攝取して巧妙に習練しなければならぬ。地方、地區、班の各々について、書記（兼オルガナイザー）、アヂテーター、婦人オルガナイザー、青年係といふ風に分擔のあることは極めて必要である。

吾々は、労働者農民の日常要求のために先頭に立つて闘ふこと、革命的政策とスローガンとを大衆の間に浸透させ、大衆を政治的闘争に率ゐると共に、労働組合及び農民組合の活動を援助しなければ

ならない。現在、組合活動への援助は「勞農同盟」の重要な任務であつて、これによつて戦闘的分子は組合内に勢力を扶植しなければならぬ。一の組合又は支部を牛耳ることの出来る地方だけが勝手に前進しないで、全體に於ける協力、強大なる左翼の協力を實現することが必要である。これは特に農民組合について言へることである。

工場へ！ 大鑛山へ！ 大經營へ！ 貧農の結果する部落へ！ 「勞農同盟」の活動分子は斷じて足踏みをしてゐてはならぬ。

【註】 最近年、××黨の組織問題、特に工場細胞に關するものが盛んに出版されるやうになつた。(中には譯文の不充分なものがあるが)。その熱讀、應用は絶対に必要である。

三 工場への喰ひ込みの必要

私は進んで時々刻々の運動(カムパニーヤ)の形態、大衆動員の形態について述べる前に、カムパニーヤの必須條件——この工場への喰ひ込みと、合法的及び×合法的活動の結合と、最大限の階級動員との重要性を二三の例を以つて示したい。「無産者新聞」は發行禁止を宣告された。既にその前から發賣禁止を連續的に被つてゐる「無産者新聞」を防衛し、その日刊計畫のため基金を募集するカムパニーヤが起された。今や發行禁止を前にして、一大衆的抗議運動が起されて居り、第二の日刊無産者

新聞發行の準備しろ！ と呼ばれてゐる。それでは、この「無産者新聞」防衛のカムパニーヤは如何に組織されてゐるか？

先づ吾々は全國に亘る支局並びに取次部が果して充分な基礎を有し、活動をして居るかどうかを見る。讀者諸君も知つてゐられやうに、決して充分でない。「無産者新聞」は絶大な大衆の支持を持つてゐる。けれどもその組織は、未だ直接工場に根づいてゐない。多くは支局又は取次所から、直接に讀者に配布されるか、又は團體の線に沿ふて配布される。それから工場、車庫、鑛山等に配られる場合でも、便宜上、讀者のグループとして配布されるのである。新聞讀者の工場班を確立し、これを基礎にして行くことは、大勞働者新聞建設のために必須の條件である。

さらに支局の係又はレポーターは如何なる活動をしてゐるか？ 支局はブルジョア新聞の支局のやうな配布、集金以上の如何なる煽動的及び組織的役割を果してゐるか？ 支局には、仕事の分擔が行はれてゐるか？ レポーター、オルガナイザー(兼集金)、配布係といふ風に分れてゐるか？ それは大衆の支持を有する、最も好い形態として讀者から選舉された、委員會の形を持つてゐるか？ 勞働(農村)通信員(即ちレポーター)の任務はブルジョア新聞の特派員がたゞに市井の日々の出来ごとだけでなく、各種人口の生活に關するブルジョアの觀察に基づいて通信をするのに對して、階級闘争に於ける日々々の事件だけでなく、プロレタリアの見地からした目標工場(鑛山)の暴露、種々なる勞働者

生活の記録、労働者街及び農村の生活に於ける悲喜劇の通信等々を書き送るべきものである。一支局でレポーターは決して充分でない。壓迫に對して第二、第三のレポーターが準備されてゐるばかりでなく、工場班、農村班に澤山の通信員が養成されねばならぬ。工場、農村に働いてゐる通信員の組織は、現在のレポーターの任務であつて、このことは多くの労働者、農民に物を考へ、見る方法を教へ、有能の×動——宣傳者を養成する一助となるのである（さらに通信員會議）。

新聞オルガナイザーは、支局及び班の讀者會、懇親會、グループ研究會等を組織し、支局の發行する「ニュース」を新聞と共に工場、農村に持ち込み、より多くの讀者の獲得、工場班の確立、班ニュースの發行に努力しなければならぬ。

新聞支局は、官憲に對して新聞を守るためにあらゆる努力をし、その受取、配布、煽動、組織において充分、合法的及び×合法的活動の結合に習熟しなければならぬ。

かやうな基礎があつて、新聞防衛のカムパニーは有効に組織され得る。基金募集も工場に基礎をおいた運動でなければならぬ。基金募集者氏名を一寸見ても、支局扱、個人、組合有志、組合その他大衆團體の集金並びに學生の團體が多数を占めて居り、工場班からの應募は極めて少い。

工場に基礎をおいてこそ、廣大な労働者大衆に『無産者新聞』を知らせ、巧妙に官憲の壓迫に太刀打し、社會民主々義者の諸新聞を打破して、『無産者新聞』防衛の叫びを上げることが出来るのである。

そ、

そして一たび防衛運動が起るや、工場の内外に煽動し、ピラやポスターを配布し、工場の内外に臨時の演説會を開いて『無産者新聞』防衛を煽動しなければならぬ。このために一切の大衆團體を動員し、労働者及び農民の會議開催を煽動し、右翼中央派の労働者から未組織の労働者までストライキ、示威運動等に動員しなければならぬ。下から協同戦線を布くこと、最大限の階級動員を達成することは飽くまで必要である。

さらにメーデー宣傳を例に取らう。メーデーこそは下から大衆の協同一致を達成する絶好な機會である。しかも従来メーデーは單なる年中行事の一つとして取り扱はれた觀がある。メーデー煽動のカムパニーには先づメーデーのスローガンが決定されねばならぬ。各團體の共同の標語も好い。同時にプロレタリア黨と××的労働組合とは獨立の立場から、内外の狀態の必要に應ずるメーデーのスローガンを出し、その年度のメーデー示威運動の意義を煽動し宣傳しなければならぬ。労働者の階級的連帶感情、支配階級に對する闘争で、社會民主々義者の裏切りの痛撃、萬國労働者の團結の意識の鼓舞等はその主要眼目でなければならぬ。吾々は組合員以外の参加を拒絶する官憲の政策に闘争し、組織と未組織とを問はざる一切の労働者の大衆動員のために闘はねばならぬ。従つて、工場に×動を集中することは極めて肝要である。而もメーデーの煽動すら公々然とはやれぬわが國においてをや。

吾々が現在繰返しつつある議會解散運動、共産黨事件公判公開、犠牲者釋放の運動、東京市會選舉戦、「渡政」労働者葬基金募集運動等についてもまさに同様のカムバーニヤの必須條件が守られねばならぬ。

四 カムバーニヤの諸形態

——大衆の意志表示と大衆のデモンストレーション——

カムバーニヤは種々の形態と方法とを取る。曰く演説會、曰く示威運動、曰くストライキ、曰く工場内の集會、曰く工場代表者會議、曰く屋外の大集會、等々。肝要なことは、狀勢に適した、そして最も有効な形態を取ることである。勢力を分散しない、集中的な大衆を動員する形態を取ることである。そこで單なる決議文發表や郵送の方法ではなしに、大衆的闘争の形態（ストライキ、示威運動、屋外の示威的大集會等）が極めて重要なものになる。

同志小泉も論じたやうに、上級官廳に「決議文を送る」こと、「官憲の暴壓糾弾の演説會」を開催すること、「當局に團體の代表が詰問或は抗議に行く」こと、「無産代議士によつて議會で問題にすること」等々が何故に有効ではないか？ 何故に労働者ではないか？ それは、生産點から發足しないからである。大衆闘争の形をとらないからである。それは、本質上、社會民主主義者の運動の形態である。

ある。

* 小泉保太郎「官憲の暴壓に對する抗議は如何に行はるべきか」（『無産者新聞』一九二九・二・一 第二〇四號）、同氏著『左翼労働組合運動』（マルクス書房版）第二〇五頁、——編者。

勿論、上述の形態でも大衆の意志表示（マニフェステーション）だけは出来る。しかし、これは決して力の示威（デモンストレーション）ではない。しかも、その意志表示は、歪められて表現されてゐる。労働者本来の武器によつて表明されてゐない。大衆の意志の表示は、大衆的闘争力の示威の形を取つて最も明白に表現されるのである。

大衆動員とは、まさに闘争への大衆の動員でなければならぬ。所謂「労働者大會」なるものが、攻撃されるものは、それが歪められた意志表示の形であるからである。大衆闘争の形に發展されるべきものを、抜き出して「労働者大會」といふ形で大衆のエネルギーを發散させて了ふ。それは、また先づ可能なる手段を選ぶといふ合法主義のやり方である。

かやうな方法では、カムバーニヤが一定の政治的組織的成果を收めることが難しい。フランスでは反軍國主義の運動はなかく盛んだ。示威運動が出来ぬので、労働者をこの大會に集めて、×軍國主義その他の×動をやつた。その結果、労働者はこの闘争方法を以つて能事足れりと思ふやうになつた。即ち労働者は大衆的闘争に訓練されなかつた。巴里の大通りブヴワールに示威運動は禁止されてゐて、メー

工場内の組織及び大衆動員の諸問題

デ―は屋内か郊外かで行ふ。そしてたゞ少數の者が市内に示威運動をやらうとすれば、官憲に散らされて全くの敗北を被るのである。

吾々は、一聯のカムバーニヤは××準備期にあつて、闘争の低い段階からヨリ高い段階へ推移させる槓杆の役目をするものであるといふ。その槓杆たる役割は、カムバーニヤが大衆的闘争の形をとり、カムバーニヤにおいて最大限の階級動員が實現され、階級全體が訓練されるからこそ成就されるのである。吾々は「組織の合法性」に執着することが出来ぬやうに、「行動の合法性」に閉ぢ籠るわけには行かぬ。

労働者會議——工場から選出された代表者の會議ではなしに、一つのカムバーニヤの委員等によつて召集された一定議題を有する労働者の會議——も、ストライキ、示威運動等に移る一場面としてさらに此等の大衆的闘争の途中に召集されて、就中、屋外に於ける示威的大集會、例へば反帝國主義戦争の大會等の形をとつて、その効用を發揮出来るのである。カムバーニヤの展開に當つて必要なことは労働者農民の日常闘争激發の方針をとることである。一般的なストライキの波は、政治的ストライキ組織の好背景であり、政治的問題について一大大衆闘争を展開する可能性を増大させるものである。

五 大衆動員の組織と恒常的大衆團體

時々刻々のカムバーニヤに於ける大衆動員の組織もさまざまある。労働者のそれについて見れば、従業員大會があり、工場委員會運動（工場委員會の地方的及び全國的大會）があり、工場代表者會議がある。カムバーニヤの性質、スローガン、要求の異なるに従つてその組織形態も異ると共に、或は經濟的性質を帯び、或は政治的性質を帯びたものになる。組織形態も、範疇的に一つの形態をとるのではなしに、さまざまの動員形態がとられ、しかも發展的に動員されねばならぬ。

一つのカムバーニヤを成功的に收めるには、組織上に成果を獲得しなければならぬ。大衆動員と交互して労働者の闘争が發展すると共に、その過程で×とその他の大衆團體とが組織を擴大しなければならぬ。

大衆動員の組織と労働者農民の恒常的大衆團體とは區別されねばならぬ。恒常的大衆團體とは何ぞや？ それは労働組合（工場委員會）であり、農民組合であり、青年の大衆組織であり、協同組合であり、プロレタリアのスポーツ團體であり、救済會であり、労働者農民の自衛隊である。それらは時々刻々の運動のための組織ではなくて、工場、農村に基礎單位を持つべき恒常的組織である。議會解散闘争同盟や選挙聯合等のやうな一時的結合ではない。この區別は重要である。

例へば戦争反対同盟は、決して一時的結合ではなくて、恒常的大衆團體たるべきものである。「戦争反対同盟の運動及び組織について」と題する方針には多くの混亂が表はれてゐるが、同盟の目的自體

についても混乱した考へ方に導かれてゐる。同盟は戦争反対の意志表示とデモンストレーションを組織する團體であるが、決つて帝國主義戦争反対の組織的準備には立ち入らない。言はゞ煽動し宣傳の範圍に止まると言ふやうである。この方針書の起筆者は戦争反対といふ政治的問題についての大衆的闘争展開の可能性を充分に信じてゐないのではないかと思はれる。僅かに「他の諸團體の指導によつて経済的又は政治的闘争の起されてゐる場合、その闘争が何等かの形で戦反のアチプロを強力に展開し、非常に成功した場合には、戦反の政治的闘争にまで發展せしめ得るであらう」と。「傍點引用者」何といふ自分自身に自信のない表現だらう！戦争反対同盟は斷じて工場、農村に基礎をおく大衆團體となり、戦争の危険に反對して大衆的カムバニーヤを組織し、帝國主義戦争に對する組織的準備を整へねばならぬ。而も方針書はいふ「かゝる闘争の主體が戦反同盟であることは間違ひだし、また出來ないことだ。……戦反同盟は單にさきにかゝれた闘争目標に賛成する人によつて（民族主義者をも含めて！）組織された一つの同盟に過ぎないのであつて」、「戦反運動を全體的に組織するものではない」、「傍點引用者」云々。戦争が始まつてからではもう遅すぎるのだ。戦反同盟は、單に煽動—宣傳に従事するばかりでなく、戦争反対の大衆的闘争を組織しなければならぬ。戦反同盟は、カムバニーヤのための一時的同盟たるべきではなくて工場、農村に同盟員を持ち、班を持ち、上から下までの組織を持つ、戦反運動の組織者であり、帝國主義戦争の渦中にあつては人民大衆の間にX争に反對して

X動すべく、プロレタリアのX利の後には、プロレタリア國家防衛並びにプロレタリア的軍事知識普及のための大衆團體たるべきものである。

* 戦争反対同盟準備會「戦争反対同盟の運動及び組織について」（参照『インタナショナル』一九二九・一月號 資料の一）——編者。

これに反して、議會解散闘争同盟や労働者農民の選舉聯合は、一時的の結合である。それは最初のうち組合その他の代表者によつて作られやうとも、やがて展開し來るべき従業員大會、工場代表者會議、農民の會議並びに町市民大會を基礎にしその代表によつて組織さるべき、一時的な労働者農民の會議、協議會又は委員會の形をとるべきものである。それは一つの行動委員會である。

それと同時に吾々が注意すべきは、現在吾々は以上の何れでもない組織を持つてゐることである。例へば檢閲制度改正同盟がそれである。團結權獲得同盟もそうである。檢閲制度の徹廢や團結權の獲得は、黨の不斷の政治闘争の要求題目であり、決して一時的カムバニーヤの性質のものではない。吾々は「労働同盟」の過渡的性質を論ずる場合には、此等の組織をも想起しなければならぬ。

農民の大衆動員の組織については、吾々は特別の注意を拂はなければならぬ。其處では農民代表者會議といふ形よりも、寧ろ村々に於ける農民會議又は農民大會の形を取るであらう。一郡に亘る農民の代表者會議の開催すらもなかく困難であらうが、而もそれに大衆動員を伴はさせることはより困

難である。農民はストライキの武器を持たず、一郡又は一縣といふ廣大な地域に分散した農民の示威運動は出来難いからである。村々に於ける農民會議又は農民大會を以つて中心的な動員形態とし、それに附随せしめるに示威運動を以つてし、それが基礎になつて代表者會議が開かれ、都市に於ける労働者との共同の協議會、委員會となり、共同の示威運動となるべきものであらう。

吾々が特に注意すべきことは、カムバーニヤに於ける力の集中である。敏速に指令が傳へられ、行動が開始され、逸早く全國的中心が形造られ、集中的指導がなされねばならぬ。一つのカムバーニヤを精力的に戦ひ抜くことが必要である。あまりに多くのカムバーニヤ、あまりに多くの同盟、あまりに多くの準備會は、決して全體の闘争力を大ならしめるものでない。吾々は可能な限りカムバーニヤを相結合し(例へば議會解散運動と東京市會選舉戦との結合)、勢力の集中を圖らねばならぬ。

六 労働者農民の會議

——並びに「勞農同盟の方向」について——

成功的な全國的運動とは、従業員大會、工場代表者會議、農民の會議(大會)等を基礎に地方的及び全國的な労働者農民の會議、全國大會に結成されたものでなくてはならぬ。そして、全國的ストライキと全國的示威運動とが舉行されねばならぬ。

「勞農同盟」は、或は議會解散運動、或は暴壓反對運動に於ける全國的労働者農民の會議、同盟の核心とならねばならぬ。自ら工場代表者會議及び農民の會議に基礎をおく動員組織の方向に發展にしなければならぬ。

「勞農同盟」の前途について、プロレタリア黨への再組織を期待し、強調することは正しい。けれども之を「セクト主義解黨派組織によつて生産された最後の畸形兒」と難じ去ることは決して正當ではない。舊労働農民黨はたしかにさうであつた。そして吾々は労働者農民の合成黨といふ觀念を批評した。同盟又は聯合は黨でない。よし、如何に政黨らしくてもそれは黨ではない。それは、綱領を持たずに、たゞ當面の行動綱領、諸要求項目を持つてゐる。現在の「勞農同盟」は舊労働農民黨の後身であらうとも、かゝる組織を存続させてゐるのは、セクト主義乃至は解黨主義の思想ではなくて、大衆のX、X的壓力と黨の組織がこの間の大きな差異といふ客觀的事實である。逸早く大衆的プロレタリア黨が公然と活動する正常状態を望むことは正しいが、そのために吾々は現實の力の關係を度外視しては不可ない。それは極めて危険な結果しか招來しないだらうから。プロレタリアの黨が未だ弱小であるか、又は極度の迫害の裡にある場合には、それと並んで、一時的な「労働者農民同盟」が存在することは有り得るのである(例、南米、ブルガリヤ、ポーランド等)。

● 谷村博「政治的自由獲得労働同盟とその方向」『マルクス主義』一九二九・二月第五四號(第四頁)——編者。
工場内の組織及び大衆動員の諸問題

必要なことは、可及的に速かにプロレタリアの大衆化を實現すること、かやうな同盟を一時的な労働者農民の大衆動員(會議)の全國的結成——同盟又は聯合として發展させることである。従つて「労働同盟」は足踏みをして居るべきではなくて、發展的に次のやうな過程を経て、その使命を終了するに至るべきであらう。

(一) 工場及び農村に基礎をおく「同盟」の組織の強化。精力的な組織運動とイニシアチヴの發揮、闘争を通じての活動分子の訓練。プロレタリアへの再組織(より正確に表現すれば、××黨が「労働同盟」に追いつき、その大衆を獲得すること)。(註)

(二) 労働組合、農民組合等への再組織。現在、「労働同盟」の成員の大部分は労働組合員又は農民組合員である。こゝにいふ再組織とは、その個々人についてとはなしに、同盟自體が労働組合及び農民組合の組織を助け、その獲得した未組織者を労働組合及び農民組合に組織して行くといふ意味におしてある。

(三) 大衆動員の全國的組織へ。生起し来る政治問題を捉へての種々なカムバーニヤの組織、その大衆動員組織の全國的結成——全國同盟又は委員会——と等しいものになつて行くこと。

(註) プロレタリアの大衆獲得は「労働同盟」に限らず、社會民主黨派の卒伍(ランク・エンド・ファイル)にも同様に及ぶべきものである。

七 サヴェイト及び農民委員会について

『マルクス主義』二月號、同志谷村の論文は簡潔な、且つ示唆に富んだ好い論文であるが、その中で労働農民黨解散直後に提唱された「労働協議會」に言及してゐる。同志谷村は「全體的な自主的組織」といふ漠然とした表現を用ひてゐるが、サヴェイトのことを意味してゐるのである。そして、「無理矢理にかゝる(労働協議會のやうな)組織を形成するならば少數の××的分子のみの宣傳隊の如きものにならざるを得ない」と言ひ、且つこのことはコミンテルンによつて批判されてゐるといふからには、明白に同君はかつて提唱された「労働協議會」をサヴェイトと同一視してゐる。

註 谷村博、前掲第五頁上段——編者。

昨春、「労働協議會」を提唱した當時の文献を見れば決してそうでないことがわかる。其處には混亂した表現がある。けれども、その中には、労働農民黨の組織形態を否定し、労働者農民の會議を基礎にした一時的な動員組織に赴かうとした健全な思想がある。その破綻は、第一にわが國プロレタリアートの最初の大衆黨、労働農民黨しか知らぬ大衆の旺盛な解散反對再建のカムバーニヤと結びつかず、その組織とならずに、それに代る別箇の組織として提唱された點にある。吾々はこゝで大衆の現實の要求を評量するレーニンの政治的眼光が如何に必要であるかを痛感させられる。従つて第二に

工場内の組織及び大衆動員の諸問題

サヴェートに似通つたものが生れるかのやうな謬見に導いたのである。支配階級は斷じて二三の合法的大衆團體を解散して、その代りにサヴェートを生むやうな愚を敢てせぬであらう

吾々は過去の失敗から、正しい必要な教訓を引き出さなくてはならぬ。宣傳によつて、その他の人為的手段によつて、××的昂揚の存在せぬ場合に、サヴェートを形成しようとする努力は前衛主義に陥らざるを得ない。そして平常の大衆動員組織を進化的にサヴェートにならしめようとするのは、宛も「労働者管理」のスローガンが革命的状態の存在しない場合には、資本主義制度の成長のスローガンと轉化するやうに、實は全くの日見和主義に墮するのである。

それでは、サヴェートは如何なる條件の下に生れるか？ 工場代表者會議や工場委員會に無關係の、全然別箇なものであるか？ 否！ 同志谷村は、革命的昂揚の存在以外には具體的に説明してゐない。それは、天から降るのでもなければ、地から湧くのものでもない。生産點から、工場から農村から生れるのである。一九〇五年イワノ・ウオズネンスクその他にサヴェートが生れた時、それは工場労働者の評議會からであつた。近い例で一九二六年、廣東反亂でサヴェートは工場代表者會議から生れた。全廣東の工場から秘密に（當時の條件の下に）召集された六十名程の労働者代表こそは、廣東の歴史的反亂を率ゐた英雄となつたのだ。サヴェートは、工場委員會運動を背景にして生れることもある。一九二三年の獨逸がさうであつた。ブランドラー、ラデツク等の過失は、かの絶好の革命的状態

の中にありながら×裝×起とサヴェート組織とを問題にせず、捲き起つてゐる工場委員會運動をその方向に導かうとしなかつた點にある。

註 共產インターナショナル第六回世界大會の席上、植民地問題に關する中國の同志ストラツホフの報告演説を

参照、——著者。

此處で吾々は事物の辯證法的發展の生き／＼した實例を見る。状態の正しい分析と、それに應じた戦術、闘争様式及び形態の必要を教へられる。そして、××準備期における生産點に根ざした大衆動員の絶大なる政治的意義を見る。

農民（貧農）委員會についても同様なことが言へる。それは、大土地所有×收の直接の行動が開始され、處々の農民の××暴動が全国的農業××の形を取り始める場合に、大衆行動の機關たるものである。現在にあつては、吾々はそのための×動宣傳と、農民の大衆行動の最大限の發展、農民の組織の大衆化、會議による大衆動員に力を注ぐべきである。吾々はプロレタリアートを、勝利ある××に準備しなければならぬ。そのためには、×とその他のプロレタリアート階級自體を日々その闘争の裡に、大衆動員の裡に訓練しなければならぬ。

——署名「永田幸之助」、『マルクス主義』一九二九・三月第五五號——

プロレタリア青年運動の急務

- 一 プロレタリア青年運動の狀態
- 二 當面の急務——組織の確立
- 三 當面の重なる仕事
- 四 新しい活動方針
- 五 組合青年部と農村の活動
- 六 協同戦線、青年女子へ！ 少年少女へ！

一 プロレタリア青年運動の狀態

わが國のプロレタリア青年運動は現在どういふ状態にあるか？

(一)、一大帝國主義戦争の切迫。支那で進行してゐる殺戮戦。〇〇帝國主義の懸命な戦争準備。
(二)、資本の攻勢と労働者を犠牲にした産業合理化の進行。(三)、無産青年同盟を含む三團體の解散と、政府の壓迫、テロル。(四)、農村に於ける危機と闘争の深化。(五)、青年労働者の産業に於ける相対的重要さの増大とその劣悪な條件。(六)、青年を支配しようとする支配階級の必死の努力と社會民主主義者の積極的な青年獲得の試み。

前述の客觀的状態の下に、プロレタリアの青年運動は、極めて困難な地位にある。

第一に、M×青年同盟は、一九二八年春から積極的に活動を始め、組織を進めたが、「再三の檢擧に殆んど粉碎されてしまつた」。少くとも、一時その事業を絶たれてゐる。

第二に、解散された無産青年同盟は、新青年同盟準備會を作つて勇敢に戦つて來たが、引續く彈壓のために非常な打撃を受けてゐる。同盟準備會はその陣容を鞏固にするために、未組織の青年を獲得するため、さらに局面を轉回するために、いろいろの努力をして來たが、充分な成功を収めてゐない。

第三に、最近に漸く組織されて來た組合青年部は、未だ主として左翼組合内に限られてゐるが、活

激な闘争を開始して来た。

農村の方を見れば、農民組合の青年部がある。けれども、全国的な統一ある指導はなく、その活動も前衛隊のやうなものに近い。老大な官製青年團に比すれば、未だく弱いと云はねばならぬ。地域的な青年團體協議會が、共同戦線の一形態として出来てゐるが、その性質は制限されてゐる。社會民主主義指導者は、自己の傘下の青年を社會民主主義的政策の組織に追ひ込まうとしてゐる。青年卒伍は戰闘的であり、自然發生に幹部と衝突してゐるが、未だ官僚幹部の正體を認識せず、それに對する闘争をも始めてゐない。

二 當面の急務——組織の確立

かゝる状態において最も切實に要求されてゐるものは、XX的な、力強い青年の組織である。鞏固な地下組織を持つて、充分に白色テロルとX事的獨裁とに對抗し得る組織の必要である。それは、戰闘的な青年労働者と貧農青年とを共通の階級の戦ひに動員し、XXXの精神を以つて教育し、訓練するものではないならぬ。そして、それは、XX青年同盟以外の何ものでもない。

XX青年同盟は、非X員の團體である。それは大衆團體である。それは、XXXの旗印の下に青年を糾合し、その精神を以つて鍛え上げる、大きな教育的任務を持つた大衆團體である。

同時に、それは、壓迫され搾取されてゐるあらゆる階層の青年の利益のために戦ふ。工場、鑛山内に於ける青年労働者、徒弟、幼年工、年若の女工、農村に於ける貧農の青年の政治的、經濟的利益の伸張と解放のために戦ふ闘争部隊である。それは、就中、青年の肩に降りかゝる軍國主義の負擔に對して闘ひ、帝國主義戦争反對の決定的闘争を遂行する。

それ故に、XX青年同盟は、プロレタリアートの黨に取つて、格好な新しいエネルギーの供給所、補充隊となるのである。

わが國に於ける青年運動は、既に數年の歴史を持つてゐる。舊無産青年同盟は、青年の教育に、その日常闘争への動員に、また反軍國主義の闘争に、實によく闘つた。けれども、最大の缺陷は、強い大衆的なXX青年同盟が無かつたといふことにある。舊青年同盟のあらゆる弱點と矛盾とは、このXX青年同盟が無かつたといふことに基づくものである。

何故か？

第一に、舊無産青年同盟は決して正しい組織形態ではない。比喩的に云へば、舊労働農民黨と双生兒であつた。こゝで、青年同盟が青年の組織であり、しかもその方が先きに生れたといふことは問題にならない。その成立の根底に横はる諸條件、就中、當時、プロレタリア前衛の間にあつた支配的思想（解黨派的セクト主義）といふ點から見れば、同一の根源から發してゐる。他方で、XXXなしに

労働農民黨でボカそうとしたやうに、こゝでは××青年同盟の独自の活動なしに、すべて無産青年同盟でやつて行かうとしたのである。明白な階級的區別なしに、プロレタリア青年も、農民の青年も、小ブルジョアの青年も、學生も、すべて一つに「無産青年」として糾合したのである。従つて、その掲げた行動綱領に中心的なものがなく、これは闘争の形にも影響し、同盟の組織上の變動——同盟員數の減少、青年労働者より農民青年の比重が重くなつたこと等——を齎した。

第二に、その指導方針である。それは戰闘的であつた。けれども、××青年同盟ではない。だから或る限界以上に出ることが出来ない。行動綱領以上に出ることが出来ない。しかも、闘争の中に成長した同盟員は、それ以上のものを欲してゐる。同盟自體は、これを如何することも出来ず、闘士は自分でマルクス主義レーニン主義の本で學んで行くのである。

第三に、その闘争力。今日のやうに資本の攻勢と警察の迫害とが激しくなつてゐる時に、在來の組織では、どうしても太刀打して行くことが出来ない。このことは、新同盟準備會員が身を以つて痛感してゐる所である。

舊青年同盟は、一九二五年頃に、初めてプロレタリア青年の大眾を、共同のスローガンを以つて糾合し、結成するためには、なほ有効であつた。そして、それには××青年同盟の精力的な活動と組織とが従ふべきであつた。然るに、現實にはそれが無かつたのだ！

××青年同盟の方はどうか？ 最初の組織運動は一九二三年に始めてゐる。東京地方の諸労働組合の青年が、自分達の利益のために運動を起さうとし、それを基礎に組織運動が始まつたが、これは震災で潰れてしまつた。同志川合義虎君その他の犠牲者を残して。一九二四—二五年の總同盟内部の左翼運動は、左翼全體に、官僚幹部に闘ふエネルギーとしての青年の重要を知らしめた。それから、二五年に無産青年同盟の組織が始まつたが、××青年グループは、永く一小グループとして止まり、その表面に出たのは僅かに一九二八年なのである。

當面の急務は、××青年同盟を急速のうちに建設し、強大化して行くことでなければならぬ。××青年同盟の意義と目的とが宣傳され、×動されねばならぬ。それは決して前衛隊ではない。大衆的青年同盟の建設を目標にして、戰闘的な青年労働者と貧農とをすべて吸収するやうにしなければならぬ。そのためには、またプロレタリア黨に、最大限の援助と協力とが要求されるのである。

三 當面の重要な仕事

新青年同盟準備會の運動も、かゝるプロレタリアの青年組織の建設に役立たせられねばならぬ。新同盟準備會はいろ／＼の仕事をした。暴壓に抗して青年の結束を固めること、再建運動、「無産青年」防衛、工場安全週間反對、封建的徒弟制度撤廢週間、組合青年部組織の宣傳と實行、戦争反對、×軍

國主義の闘争、勞農黨及び評議會再建運動等に活動した。新青年同盟準備會は、壓迫に對して抗争し、青年エネルギーを分散させぬために、同盟を再建する必要があことを正しく力説した。

今や、そのエネルギーを、眞實のプロレタリア青年組織に獲得するために最大の力が致されねばならぬ。

同時に、新同盟準備會は、その戰闘的スローガンを掲げて、益々勇敢に闘つて行かねばならぬ。益々大衆的な活動方針を以つて、廣大な青年大衆を獲得することを目的にしなければならぬ。その擴大と闘争とは、XX青年同盟の宣傳、煽動及び組織の、最適な地盤をなすものである。『無産青年』第六號（十月十一日）で論ぜられた「青年同盟の消滅」の時期の如きは、實に、闘争と事物の進行とが決定するのであつて、頭の中で状態をひつくり返すことは出来ぬ。新同盟が最も果敢に闘争し發展し行くことが、またその使命を光榮の中に終了する時機を早めるだらう。

プロレタリアの青年組織は、直ちにその活動を始めなければならぬ。青年勞働者及び貧農青年の集結してゐる所に働きかけ、宣傳し、グループを作つて、次第に結成して行かねばならぬ。

XX青年同盟は、その闘争を開始しなければならぬ。反動に對して、青年勞働者の劣悪な勞働條件改善のために、徒弟の利益のために、貧農青年の負擔の軽減のために、青年の政治的權利獲得のために、戰爭準備に反對して、また兵卒の權利の伸張と利益のために。それは活潑な教育事業を行はな

ればならぬ。

青年の政治的權利の伸張並びにその政治的訓練のために、政治的活動には充分な力を注がねばならぬ。政府の警察的テロルに反對して青年大衆に訴へ、X動して、これを反動政府に對する闘争に動員することが必要であり、そのためには、政治的事件を日常の經濟的利益の問題と結びつけることが必要である。青年大衆を、大きな運動に、共同の階級動員に動かすことが必要である。その動員の形態としては、青年勞働者の工場大會及び工場代表者會議であるべきである。

反戦争、X軍國主義の闘争は、永久的な、執拗なものにしなければならぬ。何等かの期間のピラ撒きにのみ終始してはならない。例へば、春夏の候にXX検査がある。一月頃には豫備検査がある。もうこの時から活動しなくては不可ない。村、町、地區、工場でX兵適齡者の會合を開く。しかも初めには、豫備検査について知識を得るため、軍隊の話を書くためといふ名前である。吾々の活動はそれからである。XX内でXXを獲得するためには、XXの訴へるあらゆる問題を把えなければならぬ。Xの辛さ、不公平、強行軍、耐寒行軍、耐熱行軍の日射病、體刑、將校が軍務以外に命ずる勞働（妻君のX巻を洗はせるが如き）、等々の問題を捉へることが必要であり、XX内の厳しい差別等、即ち兵卒の間の人爲的XXの撤廢（例へば、初年兵の懇談會）のために闘ふことは、共通の不平の統一のために極めて有効であることを知らねばならぬ。また入營中の家族の窮迫した生活、兵卒自身の僅か

な手當をも問題にしなければならぬ。かうした端緒から始まつて、××の政治的權利獲得の要求もスローガンも、役立つに至るのである。

×軍國主義の闘争は、青年團や在郷軍人會の中にも及ぼさるべきであり、青年訓練所内の青年を特に目當てにしなければならぬ。一般に、×戦争、×軍國主義の××と××とが、廣大な青年大衆の間に行はれなければならぬ。

××青年同盟は、學生の運動にも、充分な關心を持たねばならぬ。

四 新しい活動方針

組織の問題と共に、當面してゐる急務は、新しい大衆的な活動方針の問題である。

舊青年同盟も、この點では満足すべき成功をしなかつた。青年運動は、何よりも、青年らしいこと、青年の心に強く訴へる、共鳴し易いものであることが必要である。夥しい青年の群が、映畫につられてゐる。野球で夢中になつてゐる。カフェー遊びをしてゐる。田舎では辨當を持つて、衛生課の宣傳映畫を見に行く。宮角力やマラソン競争に力こぶを入れる。居酒屋で飲むことを覺える。この無自覺の青年を吾々の方に獲得するためには、吾々は大衆的、青年らしい運動方針を持たねばならぬ。

先づ、吾々の×傳、×動を常に、青年の日常利害の問題と結びつねねばならぬ。それは、青年労働

者の賃銀の問題だけに止まらぬ。徒弟(見習)が監督に頭をハラれて、倒れたといふことを取り上げねばならぬ。宮角力で足を折つたのに、金持の世話役が挨拶もせぬといふことをキツカケにしなければならぬ。大小の不平、不満を取り上げて、吾々の活動の端緒に利用しなければならぬ。

廣大な青年労働者を、労働組合にも這入つて居らぬ青年労働者を、労働組合青年部に獲得することが必要である。農村では農民組合青年部が活動しなければならぬ。

吾々は、廣大な青年大衆に近づくために、また、ブルジョアジの組織に對抗するために、さまざまの方法を取らねばならぬ。青年を結合する場所を求めなければならぬ。

青年労働者のスポーツを盛んにし、労働者のスポーツ團を作ること、このために非常に有効である。資本家は、このことを知つてゐて工場野球團等を自分の目的にこしらへてゐるのが澤山ある。球やバツタの代は資本家から取るがよい。吾々はこれを自主化して、労働者の團體にしなければならぬ。ない所ではドシ／＼廣告し、募集して、スポーツの好きなものを組織して作る。ストライキの場合、特に持久戦に入つた時、スポーツ團組織の好機はいくらでもある。

素人芝居、工場附近空地の野外劇、ピクニック、工場雄辯會の組織等も、この目的のために有効である。プロレタリア漫畫展覽會といふやうなものも面白い。空地の野外劇が禁止されたら、期せずして暴壓反對の演説會となり、デモとなるやうなこともあるだらう。

都會でも、場末や接續市町村では、青年團が幅を利かしてゐる所がある。そんな所では、青年労働者はその中に入り演説の舞臺に使ひ、有利な施設を強要し、それを労働者のもにしなければならぬ。新聞の讀書會も可い。新聞の内容を説明したり、討議するだけでなく、小學校もロクに出て居らぬ青年労働者に、吾々の新聞に使はれてゐる難かしい漢語や、スローガン、コミンテルンといふやうな外來語を説明しなければならぬ。それは學力の足らぬ者、幼年工に取つては、讀むことを教へ、而白くて爲になる、階級的な學校であるべきである。

實業補習學校等に通つてゐる者の利益のためにも闘ふ必要がある。

既に労働組合に組織されてゐる青年労働者をより闘争の中に鍛え上げるために、また當面の心要として、青年の防衛隊を、工場の中から作つて行かねばならぬ。警察的テロルに對して、ファシストに對して、吾々の組織と運動とを衛るためには、この組織は、今や絶対に不可欠のものである。

吾々の新しい方針では、スローガン等も再吟味さるべきである。成人の闘争題目に直ちに「青年」の字を冠したものはなしに、青年の必要と要求とにピッタリ合つたものでなくてはならぬ。この意味で、一昨年青年請願運動は十分な成功をしたものとは思はれない。青年の要求を一般の請願運動の要求項目に入れると共に、その青年的要求のためには青年労働者會議、工場代表者會議を召集すべきであるが、請願運動そのものは共通にすべきであつたと考へる。それは力を一つにすることを意味

するから。

舊青年同盟が地方支部に發した指令、手紙等も十分に親切をつくしたものであつたとは考へられない。闘争の進んだ所と後れた所、分りのよい人と然らざる人とがある。すべては忙しいと申で行はれるが、それでも手を引くやうに親切な指導をしなければならぬ。

五 組合青年部と農村の活動

青年労働者獲得のために、労働組合青年部の必要なことは論議し盡された。各地に、左翼労働組合内部に青年部が設けられて、活動を開始してゐる。青年の日常利益の擁護のためには、精力的な闘争が行はれなければならぬ。

組合青年部の組織について心掛けるべきは、基礎を工場に持つこと、一工場、一地區、一地方、全國といふ風に、下から上まで青年部を設けること（特に左翼組合内で至急に）、青年労働者が青年部で一切の活動の可能を與へらるべきこと、會費を廉くすること、徒弟（見習）、幼年工を含むこと（これなくして青年部の意義はない）、組合内部で成人労働者と密接に協力し、組合指導部に青年代表を持つこと、青年部の指導部はその選挙によること、機關紙に青年欄を要求し、出来るなら青年附録を

持つこと等である。

青年部は、日常闘争への動員、青年の要求のための闘争だけでなく、青年の教育事業を行ひ、スポーツその他青年を惹きつけることに努力しなければならぬ。青年部は、青年を政治闘争に動員することにも力を注がなければならぬ。

中央派、右翼並に中立組合の中でも、青年部設置のために努力し。既にある所では之を青年労働者の自主的なものにしなければならぬ。それは、官僚幹部に對する強力な武器たり得るものである。

農村でも、農民組合内に青年部を成長させねばならぬ。労働組合青年部と同様な構成を持ち、同様な活動をすべきである。従来、農民組合青年部は、その着々として組織された盛んな地方と、まるでない地方とがあつたが、これは普遍的に組織、發展させなければならぬ。後れた農村地方では、前述の新しい大衆的方针を最大限に應用し、青年を惹きつけるために、さまざまの娛樂の要求に應ずるやうにすべきである。

官製男女青年團、在郷軍人會、青年訓練所内の活動が重要なことは、言ふまでもない。「所謂」自主化のスローガンも、青年の日常利益の問題と結びついて、役立ちうるものであり、また自主化した後の運用をうまくしなければならぬ。さうでないと、自主化の後に消滅してしまつたりする。自主化された青年團は、徹底的に青年男女の利益に應じ、それを擁護し、娛樂その他の要求を充たすべきである。文庫の設置などは最も先にすべきである。

六 協同戦線、青年女子へ！ 少年少女へ！

社會民主黨派の青年卒伍が、青年獨目の要求を掲げて動かうとしたのを見て、改良主義指導者達は、之を自分達の利益になる御用青年團體にしようとした。かくして、社會青年同盟が出来、勞農青年同盟が出来たのである。社會青年同盟が生れようとした時、青年卒伍の間の反幹部的傾向を見た、『無産青年』は、誤つて對立的組織であるといふことに捉はれて、直ちに社會青年同盟を排撃するといふやうなことをすべきでないといふが、八月六日付の青年同盟準備會の聲明書と指令とは、正しくかゝる組織の排撃と、青年卒伍との協力の必要を力説した。今や彼等の青年團體は出来て居り、しかも青年卒伍の間には、明白な反幹部的傾向があり、青年らしい闘争心に燃え立つてゐる。そこに少くとも新同盟準備會との間に協同戦線の問題が起る。

必要なことは、諸青年團體の大衆を、共通の要求、スローガンの下に動員し、共同闘争を展開すること、これを抑へつけやうとする官僚幹部に對する青年卒伍の不滿を増大させ、官僚幹部の正體、社會民主主義の正體を知らしめること、かうして新同盟準備會の旗印の下に此等青年を糾合し、獲得することである。

新同盟準備會は、直ちに合同の提唱等に赴くべきでない。社會民主黨が帝國主義國で必然の存在で

あるやうに、その青年組織も或る程度まである。その青年指導者達は、次第に官僚幹部に買収され同化して、單にその取り巻きにすぎなくなる。吾々は統一を欲する。それは階級的な統一だ。資本家と資本家の代理人と、その代理人の取り巻きとに對する統一である。従つて吾々は、今、青年卒伍と結びつぐために、反對派を形成するため、主要な努力をしなければならぬ。従つて、この結びつきのために、協同戦線の適用、共同闘争の展開、大衆動員が必要とされるのである。

青年團體協議會は、かやうな協同戦線の一形態として支持されねばならぬ。

X X X X X X X X X X

青年女子と少年少女とに勢力を持たなかつたことは、從來のプロレタリア青年運動の弱味であつた。しかも、その組織の機會と可能性とは、決して少くない。ストライキ、小作爭議の場合等、殊に然りである。吾々は充分な注意と努力とをこの方面に拂はねばならぬ。

少年少女の組織は、所々に自然發生的に起つてゐる。特に、小學校に於ける授業科、高價な學用品辨當の費用、貧富による生徒待遇の差別、掃除當番、教師の體刑等の諸問題を取り上げて闘ふ必要がある。ポーランドには、X合法のピオネール隊がある。いたいけな少年少女が、太鼓をたゝき、X旗を振りかざして、XX歌を歌ひながら練り歩くに至つた時、その聲は無自覺な母をもゆり起し、その

響きは、犠牲者の遺族を力づけ、わがプロレタリア運動は偉大なる一步前進をなすであらう。

——「署名」永田幸之助、『マルクス主義』一九二九・三月第五五號——

無産婦人運動の諸問題

- 一 無産婦人運動の状勢
- 二 婦人労働者の状態
- 三 婦人の諸要求とそれのための諸闘争
- 四 組合婦人部の職分
- 五 新しい大衆的な活動方針
- 六 婦人のための新聞

一 無産婦人運動の状勢

わが國で、たとへさゝやかな會合であらうと、國際婦人デーが祝はれるやうになつてから、もう數年を閉する。今年再び婦人デーを迎へんとするに當つて、プロレタリア婦人の陣營はどうであるか。

わが國婦人の最大多數はなほ封建的隷屬状態にあり、資本主義的搾取と收奪とにほしきまゝにされてゐる。婦人労働者——女工の殆んどすべては組織されずにある。農村では、支配階級が、農民婦人を百三十萬もの會員を有する女子青年團に閉ぢ込めて隷屬させてゐる。法律と社會的因習とは固く婦人をしばり、殊に無産婦人は奴隸化を強ゐられてゐるのである。さらにブルジョアジーは、俗惡卑穢な記事を以つて満たされてゐる數十萬發行部數の婦人雜誌と、婦人の間に戦争熱を鼓吹する愛國主義的團體とを持つてゐる。

ブルジョア及び小ブルジョア婦人の婦選獲得運動は、少しも力強く發展しない。

婦人の特殊的要求の獲得のために、さまざまの婦人團體が生れた。労働婦人聯盟は、最右翼の改良主義者の指導下にあり、婦人参政權と、同一労働に對する同一賃銀とを主な要求として掲げては居るが、實際の闘争なるものは殆んどない。全國婦人同盟と無産婦人聯盟とが合同して出來た無産婦人同盟は、同じく社會民主主義者の指導下にあり、前の労働婦人聯盟よりも多くの婦人要求を掲げてゐる。

此等の婦人團體は、さまざまな要求を掲げて婦人が結社權を持たぬために特別組織として出来たものであるが、闘争らしい闘争もなく、別々に社會民主諸黨派の婦人別働隊として、即ち婦人の社會民主主義團體と化して行く。

プロレタリアートの婦人組織は、かやうな状態の下にあつて極めて貧弱である。先づ、左翼の關東婦人同盟は昨年春、婦人の特別組織が當然に陥る小ブルジョアの偏向の危険を見、討議によつて、正しい組織形態と運動方針とへ、即ち婦人労働者、農民婦人等をそれ／＼労働組合、農民組合、消費組合を基礎に、その中に組織するために自ら解散したが、檢舉と引きつゞく壓迫、労働農民黨、評議會の解散のために、再組織は充分に行かなかつた。多くの左翼の婦人運動者をも官憲に奪はれた。

労働組合に組織された婦人労働者数は極めて少い。しかも、その多数は右翼及び中央派の組合に組織されてゐる。

農民組合婦人部組織も、若干の地方に限られて居り、その組織された數も云ふに足りないものである。

二 婦人労働者の状態

わが國の産業に於ける、婦人労働者の相對的重要さが非常に大きいことも、誰でもが知つて居ること。

とである。試みに一九二七年來の數字を見ても次の如くである。(内務省社會局統計)

工場、鑛山等労働者數男女別 〔一九二七年十二月末現在——編者〕

工場労働者		鑛山労働者		運輸、交通		日雇労働者		通信労働者		其他		計		合計	
官營	公營	官營	民營	官營	民營	官營	民營	官營	民營	官營	民營	官營	民營	官營	民營
男	一〇四、二三三	六、四九八	九八、九三〇	三六、六六八	三九一、八六六	一、四七〇、六四三	三、二八八、七三三								
女	二九、四四四	一、二七〇	二八、一七四	四、二二七	二六、七五四	四四、四四四	一、五五五、〇五五								

さらに工場法適用工場を取れば労働者總數百七十萬三千五百人のうち、女工は九十三萬八千九百人の多きを占めてゐる。各産業別で男女労働者の比例を取れば略々次の如し。染織工場——男一割八分、女八割二分。機械工場——男九割三分女七分。化學工場——男七割三分、女二割七分。飲食物工場——男七割五分、女二割五分。雜工場——男七割一分、女二割九分。特別工場——男九割六分、女四分。就中、染織工場に働く女工場は、八十萬餘、即ち全女工數の八割七分以上を占めてゐる。婦人労働者の労働條件は極めて劣悪である。賃銀は廉く屢々男工の半分乃至三分の一しか受取らぬ。女工の賃銀は、製絲で五〇—七〇錢、紡績一圓—一圓三〇錢、絹織物六、七〇錢—九〇錢、綿織物五、六〇錢—九〇錢、メリヤス一圓内外、マッチ七、八〇錢、所によつては一圓五〇錢ほど、金屬、印刷各一圓—一圓二〇錢、電車一圓と少し、炭坑一圓三、四〇錢(所によつては七、八〇

錢)位である。労働時間は長く、製絲工場では十三時間から十五時間に及ぶ。

年期契約と寄宿舎制度とに縛られてゐる女工の労働條件は、酷悪であり、その生活は悲惨である。女工は賣られて来る。契約金は百圓から二百圓位であるが、その殆んどが貧農の親に前借されてゐるので、長年月の労働を強ひられる。時には五、六年から十年近くも働く。休日もなければ休憩時間も祿々なく、夜の労働を終てなほ掃除や洗物をさせられるのがある。夜は暗黒の屋根裏「寄宿舎」に横たはる。月の手當は一圓がせい／＼で、空腹に堪え兼ねた女工が蒸して食ふための芋が、蛹の下から発見されたりする。製絲地方では、いまだに法規で禁じた幼年を使用する工場があつて、その幼年工場監督官でも来た場合には、工場主と言ひつけられた通り、用意の床板をはねのけて床下にかくれる非合法の仕事に哀れにも習熟してゐるのである。實に其處では、マルクスが「資本制蓄積の一般的法則」のうちに述べた悲惨な状態がまさ／＼と展開されてゐるのである。

紡績女工の多數も同様な寄宿舎制度に悩んでゐる。

産業合理化の結果として婦人の失業者は夥しく増大した。製絲工場を除いて、一九二六年の労働人員を一〇〇とすれば、今年の男子労働人員は、九六―九七の減少であるに對し、婦人は昨年一月は八五・一、七月は八二・二、九月は八三・〇といふ著しい減少を示してゐる。

他方、吾々は近年急速に激増した職業婦人の群に眼を轉じよう。内務省社會局發表に所謂「智的方

面の」従業婦人數とは何を指すのか明白でないが、兎に角、その數は三十萬に近い。注目すべきは職業婦人の最大多數が、婦人の俸給生活者に相當するものではなくて、事務員級の、その地位は全くプロレタリア化したものだといふことである。事務員、店員、外交員、タイピスト、交換手等、何れもそうである。

かやうな状態は、今さらに婦人の間に於ける吾々の活動の必要と、その組織の急務とを告げるものである。

三 婦人の諸要求とそのため諸闘争

婦人労働者の間の左翼の活動は、これまで充分なものではなかつた。いろ／＼の傾向をも含んでゐた。例へば一九二六年四月、評議會第二回大會に於ける全國婦人部設置の件についての反對論、また關東婦人同盟成立の背景をなした日和見主義的戰略と、誤つた婦人の間の活動方針等がさうであつた。けれども左翼は一たび過失を認めたから、勇敢にそれを訂正し、正しい方向へと進んで來た。然るに、『勞農』一派の左翼社會民主主義者は、その左翼の過失に對して飽くことなく攻撃を繰り返へし、數年の昔に溯つて未だ福本主義が出て來ぬ頃の失敗をもすべてその故にし、わが國の、無産婦人運動が振はぬのをすべて「極左的婦人指導者」の責任にしようとする。山川氏夫妻が婦人の問題に注意を怠ら

ず、常に人々の注意を喚起して奮闘し來つたのは人の認める所であるが今や、その一切の論調は「極左翼」に對する憤懣と非難とに禍ひされて全く損はれてゐる。事實、打倒極左翼を叫ぶ以外には何等の具體的な方策をも示してゐないのである。かつては關東婦人同盟を笑ひながら、その解散の後には無産婦人聯盟を作り、『勞農』とその婦人版とを以つて、牢獄に呻吟する婦人同志——彼等の「極左婦人」を罵ることをその仕事としてゐるのである。このことを、コミンテルンから追放されたあばずれ女、真正正銘の「極左婦人」、ルート・フィッシャーが聞き知つたなら、果して身をXXのために委ねた婦人の闘士——わが「極左婦人」に共鳴するであらうか、それとも正統派を以つて任ずる『勞農』メンシエヴィーキの婦人指導者の態度に歡呼の聲を發するであらうか。

先づプロレタリアートのXは、精力的に婦人の間に活動を始めなければならぬ。それは、活動の特殊團體といふ形に戻るべきでもなく、また活動の對象は、婦人労働者、就中、紡績及び製糸女工に集中さるべきである。

XXは上から下まで婦人部及び婦人オルガナイザーを以つて活動しなければならぬ。労働組合、農民組合、消費組合等の本來の階級的大衆團體に廣大な勤勞婦人を組織し、共同の階級闘争場裡に引き出してその自覺を促がし高め、階級連帯の感情を植えつけて、闘争のうちに教育し、訓練して、精銳をXXに獲得するやうにすべきである。

プロレタリアートのXは、婦人労働者の特殊的利害を擁護し、その特殊的要求のために先登に立つて闘はねばならぬ。同一労働に對する同一賃銀のスローガンの下に於ける婦人労働者の賃銀條件の改善、婦人及び小兒労働者の労働時間短縮、休日休憩の設定、夜業禁止、有害危険なる作業及び坑内の婦人労働廢止、全額賃銀支拂の産前産後の休養、以上の項目を含む婦人労働保護法の設定、女子の人身賣買の禁止、寄宿舎制度の撤廢の諸要求を宣傳し、特に賃銀、時間、誠首等についての日常の問題、動搖、紛議、ストライキ等と結びつけてX動し、日常闘争においてかゝる要求を掲げ、その一つづつを獲得することに努力しなければならぬ、一般のプロレタリアートの政治的經濟的闘争と結合されることは極めて重要なことであつて、婦人労働者の特殊な諸要求は、全プロレタリアートの闘争となつて戦はれてこそ初めて貫徹され得るものである。

婦人の特殊的諸要求、結社權や選舉被選舉權のための闘争は、も早や婦人だけの運動であつてはならない。吾々は「言論出版集會結社の自由」、「男女十八歳以上の選舉權被選舉權」の獲得を叫ぶ。それはまさにXXが闘ひ取らんとし、また勞農同盟がその行動綱領に掲げてゐるものである。婦人だけの特別組織と、運動形態とは必然に多くの偏向を伴ふ危険がある。吾々はかゝる方向には行かない。吾々の全運動がかゝる婦人の特殊的要求を含む。従つて、吾々は廣大な勤勞婦人の大衆に向つてその要求すべきものは、かく／＼の要求でなければならず、そして吾々がその諸要求を掲げて闘つて居る

のだといふことを告げなければならぬ。また、さしずめ労農同盟は活潑に婦人の間にその宣傳——X
 動及び組織の事業を擴げなくてはならぬ。労農同盟は、實に廣大な男女の労働者、農民その他の勤勞
 大衆の動員組織、闘争團でなければならぬのだ。

吾々は、婦人の特殊の諸要求貫徹のために、時に必要に応じては前述のブルジョア、小ブルジョア
 の婦人團體（婦選獲得共同委員會を形成せる）や、社會民主主義婦人團體と協同することもあり得る
 が、その態度は常に婦人の選舉權獲得等が何等婦人の地位の改善を齎すものでなく、その獲得は、ヨ
 リ激しいより露骨な闘争のための舞臺に過ぎず、眠つてゐる婦人大衆をより早く自覺させ、より早く
 その幻影を打破せんがためにのみ有効なのであることを理解して、婦人の大衆に説明し煽動し、また
 此等團體の中途半端と、その事實上の裏切りとを徹底的に暴露する立場に立たねばならぬ。メンシエ
 ヴイーキの婦人指導者は言ふ、「無産婦人團體」の統一が「最も重要にして、最も緊急な任務である」と。
 吾々は答へる、それは婦人社會民主主義團體の統一だと。必要なのは、プロレタリアXの精力的
 な婦人の間の活動と、婦人の諸要求のための闘争である。

四 組合婦人部の職分

婦人労働者の組織率が云ふに足りぬ程に低いわが國にあつて、婦人労働者の啓蒙並びに組織の運動

は先づ労働組合から始まらねばならぬ。

労働組合婦人部はこのために非常に重要な役目を持つてゐる。あらゆる労働組合は婦人部を持た
 ねばならぬ。上から下まで婦人部がなければならぬ。工場の組合組織——分會には婦人オルガイザ
 が居なければならぬ。婦人部の職分は、組合の各機關と協力して、特に婦人労働者の間の宣傳——X
 動及び組織に協働し、後れた婦人労働者を特別な集會や教育方法によつて啓蒙し、常に組合内部で婦
 人労働者の特殊要求のために闘ひ、全組合員の注意を喚起し、ストライキその他に際して、労働者の
 要求にこの要求を附加せしめ、日常闘争に組合の不斷の活動に、男女労働者の固い協同一致を實現する
 ことにある。それは、婦人代表者會議召集のためにも重要な役割を演ずる。組合婦人部員、乃至婦人
 オルガイザーは必ずしも婦人たるを要しない。最適任者がその職分を果せば可いのだ。

婦人労働者を闘争に導くには、最も端初的な、婦人労働者が現に最もその痛苦を感じてゐる問題を、
 細かな事柄でもそれがキカケになつて女工全體の平素の不満が爆發しさうなつてゐる問題を捉へる必
 要がある。それは賃銀や時間の問題に限らない。寄宿舎の飯のお茶が腐つてゐて女工が澤山下痢した
 とか、監督になぐられて倒れた女工の髪の毛が機械に挟まれたとか、整服が寒くて腰が冷えるとか云
 つたやうな、あらゆる問題を捉へる必要がある。常に前述の婦人労働者の特殊要求を宣傳し、説明し、
 理解させることが必要であり、ロシアの労働婦人の幸福な生活、七時間労働制を享樂する紡績女工等

の實狀を説明して、××することは極めて効果がある。

全國労働組合協議會準備會や自治會等の左翼組合の婦人部は、もつと活動を盛んにしなければならぬ。婦人労働者用のリーフレットやパンフレットがどしどし出なければならぬ。機關紙は、婦人欄乃至婦人版を持つべきである。組合協議會には、産業別協議會があるが、紡績女工を目ざした紡績委員會をも持つべきであり、それは婦人部と協力して、紡績女工への働きかけ、宣傳組織の方針を樹てねばならぬ。今年七月一日から紡績業の深夜作業が廢される。その結果は多數の減首と、賃銀引下げの試みと、能率増進制度の應用——女工の健康の低下とを齎すだらう。吾々は今からこの時機に備へなくてはならぬ。

農村にあつては、農民組合婦人部が婦人の間の宣傳と組織との任務を持つてゐる。農民組合加入は一戸が單位になつてゐるので、概ね戸主が代表し、婦女青年には積極的に組合の活動に従事する機会がない場合があり、殊に婦人部が存在して活動してゐるのは僅かの地方に限られてゐる。婦人部は、後れて居る農村婦人の大衆との間に啓蒙、×動の仕事を行ひ、保守と卑屈と迷信とから引き出して、地主階級と資本家地主の政府とに對する農民の共同の闘争のうちに、之を自覺させ、教育することを目的としなければならぬ。婦人部は、労働組合内に於けると同様に、男女組合員の同權のために闘ひ、闘争に於ける協同一致を實現することを努めると共に、婦人の特別集會、茶話會等によつて婦人の教育

を怠つてはならぬ。また百三十萬餘の會員ある女子青年團(處女會)の内部に入つて活動し、その自主化のために闘ひ、地主階級の手先なる村の官僚的役員や坊主の手から奪ひ取つて、自主的な活動——貧しい農民婦人のためになる事業を行ふことが必要である。

五 新しい大衆的な活動方針

プロレタリア婦人運動は、今や大衆的な新しい方針を持たねばならぬ。それは、過去の方針を批判して新しく出直すことをしなければならぬ。即ち、最も婦人大衆の心に觸れ、その訴へんとする諸要求をそのまま、言葉で表したもので、後れた婦人をも惹きつけ、關心を持たせるやうな運動形態を持つたものであるべきである。

婦人労働者と云へば、何よりも先づ紡績、製絲の女工である。第一に、この目標ををはつきりしておくこと。次にプロレタリアートの階級組織はすべて、婦人の間に活動する特別機關と専門家とを持つことである。勞農同盟もその婦人部を持つてゐる。婦人部で働く人々は、女工の状態をよく知り、女工に近づけるやうな専門家でなければならぬ。特に通勤の女工等には、寄宿舎に於けるよりも遙かに多く宣傳の機會があるのであつて、吾々はピラだけによるのでなしに色々の方法を探らねばならぬ。芝居、素人演藝會、ピクニック、茶話會等のさまざまの方法がある。この女工の娯樂の要求に應じる

といふことは宣傳上なか／＼重要な要素であつて、組合婦人部はこの點に充分、留意しなければならぬ。農村でも同様である。この點「階級闘争双六」などを流行させることは意義がある。勞農同盟は名の如く勞働者と農民との同盟の一形態をなすべきものであつて、勞働組合の力が及んで居らぬ地方製絲工場の女工に働かせることはその義務である。けだし、女工の父兄も亦貧農であつて、その獲得はわが國に於ける勞働者農民の同盟を強大にするものだからである。青年同盟もこの方面に積極的に働きかけねばならぬ。女工の大部分が嫁入り前の娘さんであるばかりか、十五歳未満の紡績女工すら十五萬を算するのである。

吾々は、勤勞婦人の働いてゐるあらゆる所へ働きかけ、その獲得の可能性を與へるあらゆる場所を求めねばならぬ。

消費組合や救済會等の大衆團體はこのために特に重要視されねばならぬ。

勞農同盟自體が、その婦人への活動方針を確立して、至急に廣大な宣傳——組織の運動を始めなければならぬ。それは、婦人の特殊の諸要求のために闘ひ、婦人を目ざしたパンフレットやリーフレットによつて宣傳するばかりでなく、選挙戦や日常の闘争において、勤勞婦人に關聯ある一切の問題を捉へて闘ふ必要がある。例へば無料の授産場、托兒所、乳兒院の設置、小學校の授業料全廢、學用品の國家負擔、等の要求である。

廣大な勤勞婦人を動員する最も有効な形態は、婦人代表者會議である。婦人代表者會議の持つ特別な意義は、あらゆる工場、あらゆる産業の婦人勞働者の經驗を一つにし、その不平と不満とを統一して、明白な闘争目標に自覺させ、自己の力に自信を持たせ、全體の闘争力に非常な力を與へるといふ點にある。多くの紡績ストライキや岡谷争議の際など、Xの指導と、大衆的な活動方針があつたなら、婦人代表者會議召集に至る機會がなかつたとは言へない。吾々は、工場代表者會議、農民大會といふ形で大衆を動員すると共に、婦人代表者會議、農民婦人會議並びに勤勞婦人大會を下から召集するために努力しなくてはならぬ。

六 婦人のための新聞

上述した諸任務遂行の仕事に取りかゝるためにプロレタリアートはどうして婦人のための定期刊行物を持たねばならぬ。婦人欄や婦人版では間に合はない。それは、婦人指導者が毎號々々難しいことを書き列べる雑誌であつてはならない。それは、かつての『勞働新聞』附録『婦人版』のやうな、女工さんのストライキだけをより抜いて報導するのでも不可ない。

それは、婦人の中のX動のための新聞でなければならぬ。便宜上、形は小さい、八頁や十二頁のものであつても、新聞でなければならぬ。それは片假名か平假名しか讀めぬ程度の女工さんにも容易く

わかり、且つ面白く楽しく讀めるものでなくてはならぬ。効果の上から、寫眞や繪が満載さるべきであるが、また新聞は階級闘争の立場から最大重要な事件を報道し、やさしく説明して、常に指針を示すべきである。労働者、農民の日常闘争、特に婦人労働者のそれを報道すること、紡績や製絲や交通機關や鑛山に働いてゐる婦人労働者の状態の暴露、女工さんの不平不満を訴へた通信、海外の婦人労働者の闘争についての記事——獨逸の金屬労働者のストライキ、英國炭坑夫罷業、米國・ハサイツク・ストライキ等に於ける婦人の活動、支那に於けるテロルと年若の女工の犠牲、植民地に於ける壓迫され凌辱されてゐる労働婦人の地位等々——、またサヴェート同盟に於ける幸福な婦人労働者と子供に關する記事等々が内容になるべきである。さらにあらゆる闘争を資本家地主政府に向ふことの×動。このためには卑近な例を以つて説明する。——例へば、拘留され或は收監されてゐる同志の妻君を、暴力を以つてどうしようといふやうな野獸の如きスパイを引いて來て、スパイとスパイ××に對する婦人の痛憤を×ること。反帝國主義戦争の×傳。かゝる新聞は工場にも持ち込める——合法的に正門からの意味でなく、女工さんに興味を持つて愛讀され、役に立つといふ意味において——ものでなくてはならぬ。吾々は、早速、新聞をつくることに取りかゝらねばならぬ。

——「署名」小關敏、「マルクス主義」一九二九・三月第五號——

労働者教育大綱

はしがき

一 方法

二 教程

イ 全国的乃至地方指導者養成用

——×中央學校——

ロ 地方的指導者、工場オルガナイザー及びアヂテーター（プロバカンディスト）養成用

——×中央學校（短期）及び地方研究会——

ハ 工場内の研究会

三 教程の排列と教育者教

はしがき

日本に於けるプロレタリア運動の發達と共に、マルクス主義レーニン主義による労働者教育が如何に必要であるかは論を俟たない。

プロレタリアートの戰闘的組織に對する官憲の絶えざる迫害追求、檢擧と逮捕とのために、屢々陣列は破壊され、持久的な教育活動が極めて弱いものになつてゐる。しかも戦はんとするプロレタリアートはマルクス主義レーニン主義を以つて武装せねばならぬ。萬難を排して、闘争のうち、吾々の教育的活動を活潑にすることは刻下の急務である。

一時盛んであつた「教育運動」又は労働學校の運動が何故衰退したか？ 第一に、それは闘争と結合されてなかつたからである。單なる知識の注入に終り、組合的活動にも却つて厄介なやうな物知りを生み、従つて労働者の間に教育的活動への熱意を生ぜしめなかつたからである。第二に、その内容が労働者に闘争への手引をするものでなく、「たゞ公式」に止まつて居たからであり、第三に、改良主義、日和見主義の指導者の側からのサボタージュのためである。彼等はこんな教育方法の下でもなほかつ自分達への反抗者に武器を與へることになるのを嫌つたのである（左翼労働運動の内部では、福本主義の悪影響を重要な一因としてあげねばならない）。

教育は闘争の武器たるべし！ 在來の教育は、その主眼點を忘れてゐたのだ。吾々は、こゝでも、解黨主義、合法主義、セクト主義から決然と分離しなければならない。献身のプロレタリア××家を養成すること、優秀なる労働者××主義者を育てることを主要な目的とし、従つて極めて程度の低い工場内の茶話會、研究會もすべて××の立場から率ゐられねばならない。闘争と結びついた教育たることは吾々の教育の生命である。

一 方 法

教育の方法は、労働者のお互での對論の形を取るがよい。こゝにもし八人の研究會があるとすると、教程に従つて、次の項目の報告者を定める。勿論、全員が調べる必要があるが、報告者に當つたものは特に念入りにやつて、その理解した通りを次の會合で報告する。皆で寄つてたかつて討論する。講師とは、かやうな討論に方法を與へ、結論をし、また全體に亘つて補導する役目をすべきである。従つて普通では現に運動の戦線に起つてゐる労働者闘士で充分に講師位はつとまるのである。たゞし、慣れぬことではあり、好い教材もなし、また題目自體が難しいときに、特別の講義の形を用ゐる。講義のし放しではなしに、質問、討論を盛んにしなければならぬ。

工場内の研究會でやる場合でも、質問と討論を盛んにするやうにし、講師もさう導いて行くべきで

あり、講師の方から質問したりするのもよい。

説明等に當つては、現在眼前に前進してゐる事件、時事問題を捉へることが必要である。ストライキや眼前に捲き起る大衆運動の進行中に、廣大な大衆を教育することが肝要である。例へば、労働者が日常聞き知つてゐること、日本のことを取り、外國の例は寧ろ論證のために、現に何處々々ではかうだといふ風にする。(教育の範圍は廣汎に亘るが、こゝでは、研究會、學校の形で一定の教程を持つたものに限つて、以下それを説く。)

二 教 程

教程の内容を吾々は根本的に立て直さねばならぬ。××主義の立場からする教育、そして行動の手引になる諸戦術の習得が必要である。次に掲げるのは、私案の「労働者教育大綱」であつて、養成者の目的及び程度によつて三つに分れる。

イ 全國的乃至地方指導者養成用

— × 中央學校 —

(二) 労働運動史

労働者教育大綱

(1) フランス大革命とその結果、(2) 資本主義の成長、空想的社會主義(フリーエー、サン・シモン、オーウエン、ワイトリング)、(3) 一八四八年、(4) マルクス主義の成生、マルクスとエンゲルス、(5) 第一インタナショナル(その歴史的意義、アナキズムとの闘争)、(6) パリーコムミュン、(7) 第二インタナショナル、(8) ドイツ社會民主黨、(9) サンチカリズムとトリード・ユニオン、(10) 第二インタナショナルの崩壊(改良主義、日和見主義及び戦前の左翼)

(二) 經濟學

(1) 商品生産と價值(使用價值、價值並びに價值形態—交換價值)、(2) 貨幣、(3) 貨幣の資本化、(4) 生産機關と勞働力との分離、剩餘價値の生産(並びに不變資本と可變資本、剩餘價値率)、(5) 勞働日延長による絶對的剩餘價値の生産、(6) 相對的剩餘價値の生産(協業、分業及びマニファクチュア、機械及び大工業)、(7) 賃銀とその形態(時間賃銀、請負賃銀)、(8) 資本の蓄積行程、(9) 資本の流行程、(10) 擴大再生産と恐慌、(11) 利潤と平均利潤、(12) 商人資本と利子附資本、(13) 地代(對差地代、絶對地代、物納地代等)、(14) 資本主義下の諸階級(15) 資本主義の基本的諸矛盾とその崩壊、社會主義の必然。

(三) ロシア共産黨史

(1) ロシア略史、(2) 農奴解放と農民の生活、ナロドニキの闘争、(3) 初期のマルクス主義運

動(4)、「勞働者階級解放闘争同盟」(並びに第一回大會)、(5) 合法主義に對する闘争、(6) 『イスクラ』第二回大會(ポリセヴィーキとメンセヴィーキとの分裂、ポリセヴィズムの世界史的意義)(7)、一九〇五年、(8)、反動期(清算派並びに召還派に對する闘争)、(9) 勞働運動の復活、(10) 大戦とポリセヴィーキ(改良主義及びカウキーツ主義との闘争)、(11) 二月革命、(12) 十月革命並びに農村の革命、(13) 内亂の時代と戦時共産主義、(14) 新經濟政策、(15) 經濟復興と社會主義建設、(16) 反對派(トロツキズム)、(17)、現在の諸問題。

(四) X組織論

(1) レーニンのX定義、(2)、ポリセヴィーキの組織原則、(3) 工場細胞(並びに街頭XX)、(4) X合法組織と大衆團體(フラクション)。

(五) 帝國主義及び世界XX

(1) レーニンの帝國主義論、(2)、帝國主義戦争の必然、その性質、(3)、戦後の世界經濟(資本主義の全般的危機と世界XXの第一段階、(4) 資本主義の一次的「安定」と産業合理化、諸矛盾の激化、(5) サヴェート同盟の經濟問題(社會主義の建設)、(6) 戦争の危機と國際プロレタリアートの任務。

(六) レーニン主義

勞働者教育大綱

(1) マルクス主義とレーニン主義、(2) レーニン主義のX生の歴史的條件、(3) レーニン主義の理論的根據(ルクセンブルグ主義との相異、帝國主義の認識)、(4) ブルジョア・デモクラシーとプロレタリア獨裁、(5) 農民問題、(6) 民族問題、(7) プロレタリアXXの戰略と戰術(XX的形勢と勝利の諸條件、攻勢と退却)、(8) 黨(並びに日和見主義に對する闘争)。

(七) XXインタナショナルの變

(1) 大戦中の左翼(ツインメルワルド會議とその左翼)レーニン派の戰術、スバルタカス團との相異、(2) 第三インタナショナルの成立、その歴史的地位、(3) 獨逸の革命(スバルタカス團、一月一揆とその原因、バヴァリア)、(4) ハンガリーの革命とその教訓(附、フィンランドの革命)、(3) 戦後のXX的動亂と第二回大會(三月行動、イタリア工場占領、二十一ヶ條の加入條件、中央派との闘争、XX的議會闘争の原則)、(4) 世界の形勢の變化と第三回大會(並びに大衆へ) 労働組合及びイタリアのXの問題等)、(5) 協同戰線戰術とその成果、(6) 第四回大會(フアスシズムの問題)(7)一九二三年ドイツの十月退却(労働者農民政府の問題)、(8) 第五回大會(資本主義の安定とポリセウイキ化)、(9) プロフィンテルンの戰術と労働組合統一運動、(10) 英國總罷業の教訓、(11) 現在の社會民主主義と之に對する闘争(社會帝國主義、「産業平和」への協同、左翼社會民主主義、第九回ブレナムに於ける戰術方針)、(12) 國際反對派との闘争(極左翼、トロツ

キーズム)、(31) 第六回世界大會——「XXインタナショナル綱領」、(14) 反戦争の戰術、(15) 支那革命の教訓と植民地革命、(15) 大衆獲得の問題。

(八) 唯物史觀(史的唯物論)

(1) 近代哲學の根本問題(思惟と實在)、(2) 唯物論と唯心論(並びに折衷派)、(3) 辯證法と形而上學、(4) 辯證法的唯物論、(5) 唯物史觀の出發點——生産(生産力と生産關係)、(6) 經濟的基礎と上部構造、(7) 生産關係の變動、(8) 共產社會から私有財産社會へ、(9) 階級社會と國家(國家の本質)、(10) 諸社會形態と階級闘争の歴史(自由民と奴隸、貴族と平民、領主と農奴、ギルドの親方と雇はれ職人、最後にブルジョアジーとプロレタリアート)、(11) ブルジョア國家のXXとプロレタリア國家(プロレタリア獨裁治下の階級關係)、(12) 世界のXX制度(XXの第一段階、階級の廢絶とX家のX滅、共產主義の最高段階)。

(九) 日本研究

(1) 日本研究の意義と必要、(2) 明治維新以前の階級闘争(土着民族の反抗、氏族制度の崩壊、奴隸制度、莊園制度の發達、封建制度、農奴の地位、平民の闘争、農奴の反亂)、(3) 封建制度末期、(4) 明治のブルジョア革命、(5) ブルジョア革命の第二の段階、自由民權の闘争、(6) ブルジョア支配の最初の形態としてのXXの役割、(7) 資本主義の發達(明治の政治闘争)、(8)

戦時及び戦後（飛躍的な資本主義發達と階級闘争の展開）、（9）日本帝國主義の現在地位（國際關係、經濟狀態）、（10）階級關係と國家の構成（並びに憲法）、（11）諸政黨（ブルジョア諸政黨と社會民主黨派）、（12）プロレタリアとその戰略（並びに『勞農』メンセ解ヴィーキの見動の批評）。

（一〇）日本×××史

（1）初期の勞働組合組織運動、（2）社會主義の宣傳運動、（3）わが國に於けるアナキズム、（4）大戦とプロレタリアートの生長、（5）米騒動、（6）大衆的勞働運解の發生、（7）日常經濟闘争の部分的勝利の反映とサンジカリズム、（8）資本の攻勢とサンデカリズムの破産、（9）諸グループの社會主義宣傳（社會主義同盟）、（10）「方向轉換」と最初の×××組織、（11）一九二三年の×（思想的不統一、分派闘争とアヴァンチュリズム、大衆からの遊離）、（12）震災と清算派、合法主義の風靡（一九二四年×解散）、（13）勞働組合政治の時代（並びに日和見主義との闘争、總同盟分裂）、（14）合法的政黨の組織運動（並びに農民運動）、（15）上海會議と×××グループ（大衆的闘争の展開、清算派指導の破綻）、（16）福本主義とその歸結（福本主義發生の條件、福本主義の理論的誤謬、日和見主義的戰略と戦術）、（17）一九二七年コミンテルンのテーゼス（清算主義及び宗派主義の批評、×組織及び活動方針の指示）、（18）×再組織と活動、一九二八年の大檢舉の教訓、（19）日本に於ける社會民主主義、（20）現在の勞働組合運動、（21）×當面の諸問題。

（一一）勞働組合論

（1）勞働組合の職分（資本主義治下、プロレタリア獨裁治下）、（2）勞働組合の組織（集中組織、産業別合同）、（3）工場委員會（闘争機關としての工場委員會職分、勞働組合の基礎單位、工場委員會自主化のための闘争、プロレタリア獨裁治下の職分）、（4）ストライキ戦術、（5）統一運動、（6）改良派勞働官僚との闘争（××派のフラクション、反對派、少數派の運動）、（7）失業者運動、（8）工場代表者會議。

（一二）農業問題及び農民運動

（1）わが國に於ける土地所有關係、（2）農業經濟の形態（半封建的な生産、搾取關係）、（3）農村に於ける階級分裂、（4）貧農と農業プロレタリア、（5）中農、（6）地主階級、（7）政府及び諸政黨の農業政策、（8）プロレタリアの農業綱領、勞働者と農民との同盟、（9）農民運動の諸問題、（10）ロシアに於ける農業××の實例、ロシア農民の現状。

（一三）植民地問題

（a）朝鮮

（1）朝鮮に於ける日本帝國主義の地位、（2）日本資本主義の最初の役割、反事大黨陰謀の失敗、（3）日清戦争と東學黨の亂、（4）日露戦争及び朝鮮併呑、（5）日本の獨占政策と收奪（東拓

その他、(6) 農業關係、(7) 朝鮮XXの性質、(8) 併呑前後のXX、(9) 一九一九年XX騒動、(10) 朝鮮民族解放運動の發達、(11) 労働運動と農民運動、(12) XX。

(b) 臺灣

(1) 臺灣に於ける日本帝國主義の地位、經濟的獨占、(2) 資本の本來的蓄積の過程、(3) 砂糖王國とその支配、(4) 農業關係、(5) 臺灣XXの性質、(6) 初期の獨立運動〔臺灣共和國〕一九一八年の虐殺、(7) 民族解放運動の發達(並びに労働組合及び農民組合)、(8) 臺灣XXXX運動の現状。

(c) 滿洲

(1) 日本帝國主義の地位、(2) そのXX政策の方向、(3) 労働運動と中國XXXXの活動、(2) 日本プロレタリアートの任務。

(d) 日本プロレタリアートの任務。

(1) 日本帝國主義の基礎としての植民地支配、(2) アジアに於ける反動の支柱、(8)、XXの同盟者としての植民地XX、(4) 日本プロレタリアートの任務。

(十四) 煽動、宣傳

(1) 煽動と宣傳、(2) 煽動宣傳の技術、(3) 大衆團體内の活動、(4) カムバーニヤの組織、

(5) プロレタリア出版物、XX出版、(6) 労働者教育の組織、(7) スポーツ及び娛樂の利用。

(十五) 軍事研究

(a) 軍事知識、

(1) 軍事の必須知識、(2) 軍隊の編成(海陸)、(3) 各科の分業、(4) 地圖使用法、(5) 攻防の戰術(勝敗の諸要素)、(6) XXの本質、(7) 大衆獲得とXX蜂起(マルクス、エンゲルス、レーニンの教示)、(8) XX戰の戰術、(9) 一九〇五年以前の經驗、(10) 一九一七年、(11) パルチザンの戰法、(12) エストニア、獨逸ハンブルグ、廣東、上海に於ける經驗、(13) 労働者のXX、防衛隊の組織。

(b) 實習、

(十六) 支那大革命

(1) 支那革命の國際的意義、(2) 支那革命の特殊性、(3) 十九世紀以來の支那の半植民地化、(4) 一九一一年から一九二五年まで、(5) 五卅事件、(6) XXの第一段階(省港大罷業、北伐軍、ブルジョアジーとプロレタリアート、領導權のための闘争)、(7) ブルジョアジーの裏切り(南京政府と武漢政府、小ブルジョア一派の没落)、(8) XXの一時的敗北とその教訓、(9) 支那XXの現在の段階とその前途、(10) 日本プロレタリアートの任務。

○ 地方的指導者、工場オルガナイザー及びアチデーター

(プロバカンティスト)養成用

—×中央學校(短期)及び地方研究會—

(一) 經濟學

(1) 商品生産と商品の價值、(2) 單純商品生産、(3) 生産機關と勞働力との分離——資本家的生産、(4) 貨幣(5) 剩餘價値の生産(絶對的、相對的)、(6) 貨銀とその形態、(7) 資本の蓄積、(8) 資本の流通行程、(9) 利潤、利子及び地代、(10) 資本主義と恐慌、(11) 資本主義下の諸階級、(12) 資本主義の根本的諸矛盾とその崩壊、社會主義の必然、(13) 社會主義經濟の概要。

(二) 勞働運動史

(1) 近代資本主義、(2) 空想的社會主義(フーリエ、サン・シモン、オーウエン、ワイトリング)、(3) 一八四八年、(4) マルクス主義の成生、マルクスとエンゲルス、(5) 第一インターナショナル(その歴史的意義、アナキズムとの闘争)、(6) パリ・コムミュン、(7) 第二インターナショナル(並びにドイツ社會民主黨)、(8) サンチカリズムとトレード・ユニオニズム(9) 大戦と第二インターナショナルの崩壊(並びに左翼の反戦争の闘争)、(10) 一九一七年のロシア革命、

(11) ポリセイイズムとポリシヰイキーの歴史、(12) 第三インターナショナルの成立、(13) 戦後の××的動亂・ロシアの内亂、ドイツ、ハンガリー、フィンランド、イタリア等に於ける××と××的諸事件)、(14) コミンテルンの原則(第二回大會)、(15) 世界の形勢の變化と新戦術(大衆へ) 第三回及び第四回大會、協同戦線の戦術、ファシズム)、(16) 資本主義安定と×ポリセイイキ化(第五回大會以後)、(17) プロフィンテルンと勞働組合統一運動、(18) 現在の社會民主主義と之に對する闘争(第二及びアムステルダム、英國總罷業の教訓、左翼社會民主主義、下からの協同戦線)、(19) 支那革命と植民地解放運動、(20) ロシア××の成果——社會主義の建設、(21) 現在の世界形勢とプロレタリアートの任務(第六回大會、「コミンテルン綱領」)。

(三) レーニン主義

(1) マルクス主義とレーニン主義、(2) レーニン主義成立の歴史的條件、(3) 帝國主義及び世界××、(4) ブルジョア・デモクラシーとプロレタリア獨裁、(5) 農民問題、(6) 民族問題、(7) 戦略と戦術、(8) 黨(並びに日和見主義に對する闘争)。

(四) ×××

(1) ポリセイイキーの組織原則、(2) 日本の勞働運動と×××(過去の×××運動の缺陷と過失)、(3) 現在の形勢と日本×××の戦略並びに當面の任務(日本に關するコミンテルンの諸テ

ジス、決議)、(4)、工場細胞、(5)、X合法活動、Xと大衆團體、(7)煽動と宣傳。

(五) 唯物史觀

(1) 唯物論と唯心論、(2) 辯證法的唯物論、(3) 唯物史觀の出發點——生産(生産力と生産關係)、(4) 經濟的基礎と上部構造、(5) 生産關係の變動、(6) 階級社會と國家(國家の本質)、(7) 諸社會形態と階級闘争の歴史、(8) ブルジョア國家のXXとプロレタリア國家、(9) 世界のXXX制度(XXXの第一階段、階級の廢絶と國家、XXXの最高段階)。

(六) 労働組合

(1) 労働組合の職分(資本主義下、プロレタリア獨裁治下)、(2) 労働組合の組織(集中組織、産業別合同)、(3) 工場委員會、(4) ストライキ戰術、(5) 統一運動、(6) 改良派労働官僚との闘争(XXのフラクション、反對派、少數派の運動)、(7) 失業者運動、(8) 工場代表者會議。

(七) 軍事研究

(a) 軍事知識

(1) 軍事上の必須知識、(2) 攻防の戰術(勝敗の諸要素)、(3) XXの本質、(4) 大衆獲得とXX蜂起(マルクス・エンゲルス及びレーニンの教示)、(5) XX戰の戰術、(6) 一九〇五年以前の經驗、(7) 一九一七年、(8) バルチザンの戰法、(9) エストニア、ドイツ・ハンブル

グ、廣東、上海に於ける經驗、(10) 労働者のXX、防衛隊の組織。

(b) 實習

(八) 特殊課目

(a) オルガナイザーの職分、

(1) 資本系統、諸トラストの關係及び警察その他の動員組織の研究、(2) 諸賃銀形態及び労働條件の研究、(3) 共鳴者及び支持者の獲得、(4) 非合法の活動、(5) 工場分會、工場委員會、その他大衆團體内のフラクション、(6) 産業合理化とその結果、(7) 諸ストライキの研究及びストライキ戰術、(8) 協同戰線と工場内の統一委員會及び共同闘争委員會、(9) 失業者運動及び失業者委員會、(10) 従業員大會及び工場代表者會議、(11) 婦人の組織、(12) 青年の組織。

(b) アチテーター又はプロパガンディストの職分、

(1) (2) は(3)に同じ、(3) ビラの書き方と文書の配布、(4) 非合法の活動 (5) XX出版、(6) 工場新聞、(7) 運動の組織、大衆動員及び示威運動、(8) 演說會、(9) 防衛隊の指導、(10) 工場内の反軍國主義運動、(11) 研究會、讀書會等の指導、(12) ビクニツク、スポーツ、娛樂等の利用。

〔註〕(八)は特殊課目であつて、オルガナイザー志願者、乃至はオルガナイザーとして養成さ

れるものは(a)を修得し、アチテーター又はプロバガンディスト志願者は(b)を修める。若し、理論的部分を切り離し、一、二週間の講習で短期にその課目をやらうとする場合には、(a)(b)共にその冒頭に(1)×史、(2)ポリシエヴィキの組織原則、(3)工場××、(4)×と大衆團體の四項目を加へる。

ハ 工場内の研究会

前述(八)の特殊課目を除き、項目は「ロ」に同じ。但し、全體に亘つてその内容を平易簡單にする。經濟學では、(8)(資本の流通行程)を省き、(7)(10)を合して一つにし(資本の蓄積と恐怖)とする。

労働運動史では第三インターナショナル以前を簡單にし、(1)マルクス主義(マルクスとエンゲルス)、(2)第一インターナショナル(並びにバリ・コムミュン)(3)第三インターナショナル、とする。

軍事研究でも、(6)から(9)までの諸經驗の研究は簡單にやる。

「ロ」を五ヶ月でやるなら、これは三ヶ月で完了するやうに平易、簡單を旨とする。

三 教程の排列と教育

前掲の教程の排列、即ち教育の順序について一言する。いきなり唯物史觀をやるなどは不可ない。況んや基礎だからといって辯證法的唯物論を先にするなどは、無暴であり、それ自體が辯證法的唯物論の理解の缺如を暴露してゐる。先づ第一の教程を手取る。

全體十六課目、非常に多いやうだが、(一)から(四)までを第一期、(五)から(八)までを第二期、(九)から(十六)までを第三期とすることが出来る。時間は各期間ほど同様であり、初めの方の課目ほど長くかゝる。第一期には、資本主義の制度(従つて社會主義の必然)を研究し、これに對する労働者の闘争の歴史を調べ、就中、勝利を得たロシア・プロレタリアートの闘争の歴史とその教訓(××黨)を學び、××的プロレタリアの必然の力——××黨の組織を習ふ。資本主義と××黨、この二つが全期間の中心題目である。第二期には、吾々の時代、帝國主義の時代を研究し、プロレタリア世界××の現實の進行を究め、その時代のマルクス主義たるレーニン主義を學び、それからレーニン主義の立場に立つ國際的闘争組織たるコミンテルンの歴史、その戦術を究める。以上の知識を得てから初めて、これを理論的に基礎づける試み、唯物史觀の研究をやる。時間があれば、第一期に、諸社會形態の歴史だけを取り出すこともよい。第三期は以上の知識に基づいた日本に於ける活用が中心

題目である。

第二(及び第三)の教程の排列も、これと同様な立場からしてある。

なほ研究は必ず(一)を終つてから(二)といふ風にする必要がなく、寧ろ學校風に全體を數期に分け、出来るなら、一期間に數課目を同時にやつて行くやうにするがよい。

知識注入の萬能の教程は斷然、廢すべし。例へば、労働運動史として一括してやればよいのを、近世社會思想史、社會主義運動史、國際労働組合運動史、インターナショナルの歴史など、ばらばらに分離してやる類だ。日本の労働運動史も、社會主義運動史とに分ける必要は絶対にない。外國の所謂「社會主義」思想諸流派などを念入に調べる必要は斷然ない。ギルド社會主義とか、フェビアンズムとかは、XXインターナショナルの戰術をやる場合に一蹴すればよい。かういふのをくどくどやつて労働者の頭を臺無しにするのが、社會民主主義者の手である。労働者教育は、小ブルジョア的な講座類に墮してはいけない。

唯物史觀の例解を、日本に於ける階級闘争史に取ることは絶対に必然である。試みに日本人の手になる唯物史觀解説を手にして見給へ。反譯と同じで、ギリシヤやローマなどばかり書いてあるから、それと列んで、日本を例に引けば、理解に都合が良い。

教材については、吾々は最大困難に逢着する。反譯は後から後から洪水をなして刊行されるが必須

の教程の材料たるべきものは少いのである。

經濟學の教材として程度の高い人々には『資本論』が使へるが、一般には解説書が必要である。私はそのために、世界に於ける最も出色の資本論解説たる河上博士の『資本論入門』を推稱する。これは全部完結してゐないが出てゐるだけでも用ゐると便利である。外にはカウツキーの『解説』が良い。唯物史觀には、同志ブハリンの『史的唯物論』を推す。マルクス主義の一般解説書として、レーニンの『マルクス・エンゲルス及びマルクス主義』に如くものはない。辯證法的唯物論には、レーニン著の『唯物論と經驗批判論』を臺本に使ふが可い。この本は決して難解な本ではない。入門としては、デボーリン著河上博士譯『レーニンの辯證法』が最も良い。何故ならデボーリンの他の本と違つて、この本では戦争や帝國主義等を具體的に例解して説明してゐるから。ロシア共産黨史は、今のところ翻譯のあるのでは、デノキエフのもの、X組織論にはピヤトニツキーの諸著、帝國主義及び世界XXにはレーニンの『帝國主義論』、コミンテルンの文書その他、レーニン主義にはスターリンの『レーニン主義』並びにレーニン自身の諸著作。労働運動、XXインターナショナルの戰術、日本研究、XXX史について推薦すべき著作がないのは遺憾である。日本に關しては、當分『マルクス主義』を使ふ外はないだらう。

時間は、一週二回、一日三時間(正味、七時間——十時間半)が最大限であらう。第二の教程案を、

相當速くやらうとしても五六ヶ月は掛る。但し、縮約すれば三ヶ月でやれる。第一の案には、少くとも一年以上を見積らねばならぬ。しかし速成の目的なら、どの案をやつても極めて短期間でやれるだらう。

この教程案は、私案ではあるが、未だ一度も應用されなかつたものではない。私は各地の同志諸君がこの教程についての意見を『マルクス主義』誌上に投ぜられんことを、特に實際に教育的活動を始め、その実績、経験に即しての意見を投ぜられんことを希望する。

本来、教程といふからには、一々項目教材、頁数を指示すべきであるが、多忙のうちにそれが果せず、且つ教程案発表の必要があるので、いまこのまゝ發表する。第三及び第二の教程になりと、詳細に教材を示したいと思ふ。

——署名「永田幸之助」、『マルクス主義』一九二九・三月 第五五號——

附記 『勞働者教育大綱』を書くに當つて、教材を指示出来ないのでには最も困つた。しかし、この要求に沿ふ出版物も次第に出て來た。少くとも、經濟學及びサヴェート經濟に關する教科書としては、ラビドス。オストロヴィテイヤノフ共著『マルクス主義經濟學』が譯出され（僕は『エコノミスト』の新聞批評で知るのみだが、確かによい譯書だと思ふ）、また史的唯物論についてもよい教材『史的唯物論教程』が譯出されたといふ。讀書諸君の参考を望む。——十二月二十日。

朝鮮に於ける帝國主義的支配と 民族解放運動

一九一九年三月の、所謂「萬歳騒動」その他の名を以つて呼ばれてゐる朝鮮民族の最初の國民的反亂から丁度十年の歳月が経過した。

この國民的反亂は、東洋に於ける反動の支柱たる侵略的、好戰的な〇〇帝國主義の植民地支配に對して植民地人民がなした最初の大衆的反抗であつた。その形は全く自然發生的、爆發的なものであつた。反亂は僅かの期間に野蠻な〇〇帝國主義の暴力によつて鎮壓されたが、その歴史的意義は大きい。それは前年に於ける日本勤勞大衆の自然發生的、暴動的「米騒動」と共に、〇〇帝國主義の諸矛盾の暴露を意味するものであり、後者の××の當來を告げ知らせる弔鐘であつた。

一九一九年の世界は、帝國主義戦争の直後の全般的危機のうちにあつた。窮乏は廣汎な大衆の間に彌滿し、社會的矛盾は増大して、全歐洲に革命的動亂は波及し、また植民地諸國と帝國主義本國との對立は深まつた。朝鮮に於ける××的反亂は、かやうな狀勢を背景にして生れた。けれども、未だ革命的プロレタリアの黨はなく、學生及び小ブルジョアの諸グループがあつたに過ぎなかつた。ウイルソンの偽瞞的な「民族自決」主義や空想的な考へ方が支配してゐた。

運動の形態は最も素朴な、従つて最も非組織的なものであつた。あらゆる職業の老幼男女が、即ち

文字通りに全國民がこの國民的運動に参加した。當然に襲ひ來るべき、ひらめく銃劍と騎馬隊の鐵蹄とを豫想せず、またそれに對する準備をなし得ず、可憐なる幼童から白髮の老翁考嫗に至るまで、全國一齊に「大×獨立萬歲」を呼號しつゝ、街頭に現れるとは、××され、×××され、×××された、國を失へる人民の、何といふ素晴らしい英雄的な行爲であつたらう？「萬歲」の喚呼のうちに、吾々はまた〇〇帝國主義の××の下に於ける二千萬の人民の、無限の哀號の聲を聞くことが出来るではないか。

パゴダ公園に集合した民衆、南大門前に喚聲をあげ、舊×國々旗を手にしつゝ、總督府前に押し寄せた民衆は、忽ちに〇〇の憲兵と軍隊とに蹂躪されてしまった。全半島の郡邑、邊境の里、面に至るまで懲罰隊は横行して狂暴の限りを盡した。罷市、罷校、罷業は立ち所に鎮壓されてしまった。全村の焼打、耕地その他生産装置の破壊、天主教會堂、學校等の砲撃、數十萬人の×××、婦女子×××、幼童老人への殘酷な××等々、——その鎮壓の手段は、人類の歴史に於ける最も××極まる、恥すべき記録の一つを造つたものであつた。

朝鮮の民衆は當時未だ革命黨を持つてゐなかつた。強い組織を持たず、一貫した指導を持たなかつた。×器を手にしてゐなかつた。言はゞ、其處には勝利の保證がなかつた。日本のプロレタリアートも、之に呼應して起つには至つてゐなかつた。

今やこの歴史的な事件の十週年に際して、朝鮮に於ける〇〇帝國主義の支配に對する解放運動の方向と、日本のプロレタリアートの任務を明らかにすることは、吾々の當然の義務と言はねばならない。

二

朝鮮に於ける〇〇帝國主義の支配の現状を究めるためには、若干歴史的に近代に於ける日本と朝鮮との關係、交渉の歴史を見る必要がある。

支那の外邊に延びた半島の地理的條件の故に、朝鮮は古くからその獨立を侵され、封建制度に立脚した尨大な中華の國の隸屬状態にあつた。支那の間斷なき王朝轉變、殊に新王朝の興隆期に度々起される外征に脅かされた。その東には日本があつて、その奴隸制度や農奴制度の擴張のためにする對外戦争の對象となつたのは矢張り半島であつた。

封建制度を打破した明治の維新革命の後に、最初の韓國との問題は、一八七二年に起つた。朝貢使廢止の問題（一八六八年）を端緒として、日本の反動的分子は征韓論を主張した。この征韓論は、後に市民官僚として發達した急進的保守主義者によつて打破された。次いで雲陽艦砲撃事件があり、一八七六年一月に黒田の率ゐる軍艦及び運送艦が押寄せて、賠償を要求し、通商條約を結び、數港を開かせた。

こゝで新興の日本は客觀的に進歩的役割を演じてゐる。それは、日本が朝鮮に比較して、より早く外國と通商を開き、また東洋で最初に封建制度から脱けた國であつたからである。けれども、それはワルト・ホイットマンの頌歌に値するやうな急進的なものではなかつた。王政復古の日本は、革命フランスと違ふ。其處では、君主制がブルジョア支配の第一形態たる役割を演じ、従つてそれと結びついて復古思想や急進的保守主義が支配してゐた。現に西郷等の征韓論は、失職した武士を外征に使はうといふやうな反動的動機からであつた。吾々は、この日本の客觀的な進歩的役割と、自ら革命的意識を以つて行ふブルジョア革命に於ける國民戦争とを區別しなければならぬ。

かやうな役割は、もう少し続いた。韓國宮廷に於ける急進派は、新興日本に與し、保守事大の黨は諸國に與みした。封建的な清國王朝はなほ強くその觸手を全半島に延ばして居り、韓國は依然として半ば隷屬状態にあつた。保守的な大院君とその黨派とが全勢力を占め、暗闘と陰謀との絶え間がなかつた。日本は未だ弱く、大膽にその「進歩的役割」を演ずることが出来なかつた。一八八二年の朝鮮事變では、革命を策した日本公使は、その使喚した朝鮮の急進派を棄ておいて逃げ歸り、公使館は袁世凱の清國兵及び韓兵のために焼かれた。

一八八四年には再び事件があり、その結果は韓國からの賠償及び翌八五年の天津條約となつた。その間に日本の産業革命は行はれ、資本主義制度は植えつけられて行つた。日本は綿糸布を輸出す

るやうになつた。

一八九四年、半島には東學黨の亂が起つた。その祖述者の教義は、佛教、儒教、道教の混淆した田舎臭いものではあつたが、その運動は農民の革命亂であり、改革運動であつた。韓廷の要求に應じて出兵した清國と日本との間に軋轢が生じて、日清戦争となつた。戦争の結果、朝鮮の「獨立」が認められたが、それはたゞ清國からの「獨立」を意味するの過ぎず、換言すれば日本への隷屬の第一歩であつた。東學黨の亂は、無慘に日本兵によつて鎮壓された。日本はその時以來、永久的にその「進歩的」役割を棄て、かつての急進派は日本の番犬になつて行つた。

二十世紀の初頭に世界は帝國主義への急激な推移のうちにあつた。「帝國主義は資本主義の最高の段階として一八八九—一九一四年の間に、アメリカ及びヨーロッパに、ついでアジアに完全に成熟したものである。米西戦争（一八九九年）、ボア戦争（一九〇〇—一九〇二年）、日露戦争（一九〇四—一九〇五年）及び一九〇〇年頃のヨーロッパに於ける經濟的危機——以上が世界史における新時代の最重要な歴史的點界線である。*」

* レーニン『社會主義の分裂と帝國主義』——著者。『レーニン帝國主義論體系』（希望閣版）第二〇八頁—
—編者。

義和團の亂（北清事變）では、日本は列國軍隊の先登に立つて鎮壓の役目をした。極東に於ける日朝鮮に於ける帝國主義的支配と民族解放運動

露間の敵對は激しくなり、一九〇二年には、日英同盟が出来た。日露戦争は、近代資本主義的帝國主義が所謂特殊の緊密な網を以つて資本主義以前の關係を蔽ふてゐた帝政ロシアと、新興の帝國主義國たる日本との間に於ける、朝鮮半島及び滿洲に於ける争覇戰の結果であつた。この時、日本は明白に自己の海外市場と原料供給地とを要求してゐた。

【註】吾々はこゝで日露戦争の帝國主義的性質を明かにしておく必要がある。同志バプロイツチのこの點についての見解は全く誤つてゐる。「然るに、日本の、日清、日露兩戦争、並びに之につぐ朝鮮の併合等は、全く、日本自身の獨立のための戦争であり、日本國家が、當時における歐米の併合から免かれて、獨立國としての鞏固な「國家の統一」を期せんがための努力であつた、」云々。この説は、金融資本の番頭高橋龜吉氏によつて、その後、採用されたことがある。ロシア最大の史家、同志ボクシフスキイすらも誤り、最初一王朝戦争のやうに見做してゐた。レーニンの見解はこの點についても何等の偏向を示さなかつた。

戰後、日本は公然と條約文の上にも半島に於ける優越權を認められた。朝鮮はその保護國となり、刻々に政治的にまた經濟的に侵略された。衰退した封建制度と腐敗した行政組織とは、帝國主義のXの前に見る／＼蠶食され、推しのけられた。既に〇〇は兵力を以つて宮殿を攻撃し、大XをXして、松の根本で焼いたりした。人民に對するXに至る處で演ぜられた。統監府は實に事實上、總督府であり、日本は朝鮮の外交權を略取して、各國に公使を引き揚げさせた。朝鮮人が米國にした抗議的ア

ツピールも効果はなかつた。至る處に人民の反亂が波及し、一つの反亂に二萬一千人が斃されたりした。ヘーグの平和議會に送つた窮訴の使者が發覺して、國王は讓位を餘儀なくされた。攻撃と脅迫との劇的事件が相つぎ、人民の不安と悲憤の念とは増大した。遂に伊藤は朝鮮の革命家に斃された。

伊藤暗殺は、朝鮮併吞を早める口實に用ゐられた。寺内が總監をしてゐた時、一九一〇年八月二十九日、朝鮮は遂にX的に併吞された。それは字義通りX的であつた。所謂御前會議の次室には〇〇兵が滿ち／＼て居り、之に調印せよと怒號する〇〇の總督の前に諸大臣は強制的に賛成の意を表させられた。朴永孝や李完用達がその賣國奴振りを發輝した。全國に於ける騷擾と舊韓國軍隊の反亂とは、日本軍に粉碎されて了つた。

三

併吞後二十年間に於ける日本の政策は、第一に朝鮮を日本の原料資源として利用し、且つその商品の市場たらしめやうとするのであつた。それらについて、投資の對象たらしめることであつた。第二に、膨脹する日本の人口の捌け口とし年々移民を送つて、土着人民の土地をXし、Xする日本人とXされる朝鮮人との對立を設けて、此處にも帝國主義支配の經濟的基礎を造ることであつた。第三に、重要なことは、半島を以つて日本の極東に於けるX政策の起點とし、滿洲やシベリアへの飛

石の役割をさせることであつた。

背後に兵力を有する總督府の、公然たる××政策の下に、日本による半島經濟生活の獨占が如何ばかり達せられたかは、若干の統計を見ただけでも分明する。列強のどの植民地と比較して、××ほど完全に本國に獨占されてゐるものはない。それは殆んど日本の外には領國同様である。その獨占は決して産業を發達させずに、人爲的に麻痺させてゐるのである。

先づ貿易を取つて見ても、合併後、日本との間の移出入が全貿易額中に占める百分率は逐年増大し、就中、輸移出では日本への移出が殆んどすべてを占めるに至つてゐる（一九二八年度——輸出三千二百五十萬圓、輸入一億一千八百十四萬八千圓、移出二億五千五百四十五萬一千圓、移入二億四千五百四十四萬五千圓）。貿易表を見れば明白に日本へは原料及び食料品を移出し、日本からは工業生産物を移入してゐる。輸移出品の重要なものは、二億圓に上る米、次いで大豆、生絲、柞蠶絲、魚類、鐵、その他食料品であり、輸入品の第一に位するものは綿織物、次で米を内地に送らせられて朝鮮人が代用食とする粟（滿洲から）、鐵材、肥料、石炭、材木、機械類、石油その他工業生産物である。

全經濟生活は〇〇の帝國主義者に握られてゐる。鐵道二千哩の殆んどすべては官營並びに日本人の私有乃至持株であり、年額二千五百萬圓の鑛業も大部分〇〇人の手中にある。煙草、人蔘、鹽は專賣されてゐる。銀行では朝鮮銀行と殖産銀行とが獨裁的地位を占めて居る（一九二七年拂込資本金——

鮮銀二千五百萬圓、殖産一千五百萬圓、普通銀行一千六百九十五萬圓）。普通銀行中多くのものが日本人に屬するのはいふまでもない。而も銀行の株の多くを政府が引き受け、且つ貸下金までしてゐるのである。

朝鮮を先づ原料の供給地及び市場として恣に収×し、×取した日本の政策が如何にこの國の土着工業の發達を阻害したかは、一九二六年度統計に見ても全工場數二千三百三十八、資本金二億七千萬圓、従業員數四萬三千六百十九人、産額二億三千九百餘萬圓といふ貧弱な數字が之を證明する（工場及び職工數は近年減少。別の統計には職工數約八萬とある）。臺灣糖業に三億圓、滿洲に十億圓の投資をしてゐる日本の帝國主義者は、朝鮮を以つて單なる原料××の場所として來たのである。在來の手工業の外に、日本人經營の工業で發達しつつあるのは、機業、紡績、製粉、製糖、パルプ製絲、セメント、製鐵、燐寸、鐵工、電氣、製材、製革等であるが、未だ微々たるものである。朝鮮が投資場たる展望は寧ろ最近に開けたもので、而もその投資は大鐵道敷設案や全半島を蔽ふ發電所計畫や灌漑排水事業等の、より奥地の資源を開き食糧増産を促進し、市場を擴大するための手段たるものになされてゐる。本國資本の侵入は必ずしも殖民地の「工業化」を意味しないことを明らかにしたのは、コミンテルン第六回大會の殖民地問題に關する討論の成果の一つであつたが、吾々はこゝにその適例を見るのである。

農業の方面はどうか。朝鮮は農業國である。人口の最大多數は農民である。耕地の大部分は大地主（王族、兩班、豪農）に所有され、農民は小作に従事する。帝國主義治下の殖民地の常として、農村に於ける階級分裂の過程よりも遙かに速く、帝國主義の××の下に農村全體の窮乏化の過程が進行してゐる。併合後、瞬く間に日本は耕地の最良部分を××して了つた。その先登に立つたのは資本金五千萬圓の東洋拓殖會社であり、「東拓來、々々々」の聲は泣く兒をすら恐怖のあまり泣き止ませたといふ。この東拓の殘酷な土地××は、土着の農民を追放して、今日まで一萬戸、四萬幾千人の日本農民を移殖した。大地主中に最近日本人が著しく多くなり、種々なる名稱の下における土地を合算すれば日本人は全體の二割を占有するに至つてゐる。注目すべきは、日本帝國主義が封建的な搾取關係を少しも打破せず、反對にそれと結合し、その上に立つて搾取をしてゐるといふこと（東拓は、自ら廣大な耕地を有し、日鮮の小作人から搾取する最大の地主である）、並びに瞞されて移民した日本人農民も大して良い生活はせず、依然搾取されてゐるのだといふことである。但し彼等の耕面積の平均は日本に於けるよりはやゝ廣い。

租税の負擔は、二十年間に十數倍した。農民の窮乏は年毎にひどくなり、全く零落して了ふ。その結果は日本に、滿洲に、シベリアに流浪するところの數十萬の自由労働者となるのである。

併合以來、工業においても、農業においても生産力は増大した。けれども、之は朝鮮の人民を殘酷

に×取し、その土地を×奪し、追放したその結果である。朝鮮人に滿洲の粟を食はせて、内地に米を送るがための産米増殖である。それは××の全土着人口の極度の窮乏化、天に向つて哀號の叫びを上げる餓孚と窮民との存在の上に達成された。而もほんの僅かばかりの生活力増大である。吾々は、斷じて○○帝國主義の「進歩的」役割を云々することは出来ぬ。否、○○の帝國主義としては組織的に産業發達を阻止して來たのである。帝國主義は封建制度を部分々々から破壊した。けれども、それは全くの破壊である。生産力が發達させられたのではなく、新しい生産様式が大規模に移殖されたのではなく、たゞ數千萬、數百萬の窮民がつくり出されたのである。

況んや殖民地諸國の非資本主義的（社會主義的）發展の道が現實に指示されてある時に、吾々は純粋な經濟的發展といふ見地からも帝國主義の反動性を強調しなければならぬ。

（注意、私は此處では主として、日韓併合以來の産業進歩を云々する日本の帝國主義者と、之に和し兼ねない社會民主主義者に對して警告してゐるのである。）

四

○○帝國主義の飽くなき×取×奪とその兇暴野蠻な武力的彈壓の下にある××では、帝國主義に買収され、腐敗させられた極少數の貴族と大地主並びにブルジョアの要素との外には、全國民が帝國主

義に對する闘争の側に立つ豫想がある。國民的ブルジョアジーと言はるべきものは存在しない。日本の組織的な産業發達の阻止のために土着の工業ブルジョアジーは發達する餘地がなく、僅かに大商人と少數の銀行家とがあるのみである。その銀行家も實は大地主なのである。

革命の性質は疑ひもなく反帝國主義の國民解放戦であり、農業革命である。即ちブルジョア民主革命である。一方に民族的獨立のための帝國主義に對する闘争が、他方に資本主義以前の搾取形態に對する闘争——即ち農民の土地革命が中心的意義を持つのである。従つて勞働者及び農民の民主的獨裁と、そのプロレタリア××への推移のための闘争とが戰略的目標となる。

併合以來二十年の間に、朝鮮の民族解放運動は多くの段階を通過した。事實上の併合に至るまでの志士、革命家、農民、兵士等の義舉、反亂等はまさに解放運動の前史をなすものであつた。寺内や長谷川の××的彈壓、「朝鮮名物」騎馬隊の襲撃にも屈せず、英雄的な行動が繰り返された。それは志士個々人の義舉であつたのだが、そして鬱積された民族の不滿は、止み難い獨立の欲求は、遂に一九一九年三月に爆發したのであつた。

その後、解放運動は新しい發展を辿つた。何處かの強國、即ち他の帝國主義國に頼うとするやうな幻想は填はされた。また宗教や空想が演ずる役割も狭まつて來た。他方には組織された勞働者及び農民の運動が起つて來た。

一九二六年の六月、李王の死を悲しみ、その葬を弔ふ國民的慟哭の日に際して大衆的逮捕が行はれた（六月事件）。これより先、朝鮮の革命家は早くから新しい力たるサヴェート・ロシア並びに第三インターナショナルに希望をつないだ。黨組織の運動は、帝國主義者の彈壓と間諜政策と内部の分派的闘争のために幾度びか挫折したが、なほ共產主義的勢力は増大して行つた。教回もの檢擧、逮捕があり、就中、所謂新義州事件以來ひつきりなしに檢擧が續き、帝國主義者は××主義者の絶滅を期した。けれども、此等の一切のことは解放運動の新しい段階の當來、即ち××主義者のみがたゞ朝鮮の完全な獨立のために闘ふ戰士であり、その大旗の下にのみ朝鮮の被壓迫民衆は勝利を得ることを告げ知らせたのであつた。

解放運動の勝利のために正しい戰術を要求する努力も現れて來た。不幸にして日本に於けるプロレタリア運動の影響のために、歪曲された理論闘争の形をとつた。文字通り福本氏の直譯で、過去の解放運動を一切「經濟闘争」として否定し去つたり、日和見主義的戰略に走つて革命的勢力のうち「地主層」「宗教層」を數へたり、また共產黨と國民革命のための大衆黨との並立の必然を説く「兩黨論」が現はれたりした。雑誌『理論闘争』は福本主義の影響を、「解放運動」は山川等の解黨主義の影響を受けてゐたものであつた。全體に亘つて日本に於けるセクト主義、解黨主義の理論は、多年の分派的闘争と結びついて最も甚しい禍害を醸した。小ブルジョア分子（學生）の跋扈やその他の弊害

を惹起した。

朝鮮のXX運動に於ける當面の急務は、〇〇帝國主義に對して最も力強く戦ふために、XX主義の旗の下にその戦線を統一することである。解放運動は舊宮廷に於ける明黨的争闘のやうな分派的争闘を續けては、斷じて成功することが出来ぬ。帝國主義の飽くなき迫害追求と、間諜、買収政策は、陣營を攪亂し、猜疑と陰謀辯とを助長せしめる。古くイルクーツク派と上海派、最近には火曜會派、L會派、舊セウル青年會派と言つたやうな分派争闘を根絶することは焦眉の急務である。無原則的な分派争闘は斷じて排さねばならない。論争と、必要なる分離とは原則の上に立つて行かねばならぬ。

一九二六年に正式にコミンテルンの一支部となつた高麗XX黨も、この分派争闘のために多分に發達を阻害されてゐる。けれども、殘酷な拷問に屈せぬ、獄中の共產主義者によつて示されたそのヒロイズムと、勃興し來る労働者農民の大衆運動と、X自體の分派争闘を克服せんとする努力とは、その基礎をよりプロレタリア的要素の上におき換へる方針と相俟つて、必ずや分派的争闘を克服し、強力に〇〇帝國主義者に對して戦ひ得るに至るであらう。

論争を原則の上におくこと、組織の基礎をよりプロレタリア的要素の上におくこと、並びに労働者農民大衆の日常争闘に参加し、之を率ゐて大衆と結合し、之を獲得すること、以上は朝鮮のXX主義

者に當面する重要問題でなければならぬ。

共產主義者は至る處で大衆の日常要求のために闘ひ、その争闘を率ひなければならぬ。朝鮮に於ける工業の未發達、それに関する近代プロレタリアの弱小は、たしかにその事業にとつての弱味である。それでも、なほ散在する労働者の獲得に最大の努力を致さねばならない。従つてその労働組合及び農民組合の活動は非常に重要である。農民の間の活動の重要さはいふまでもなく、わけても貧農獲得のための努力が重要である。かくして、組織上にもプロレタリアートの領導権が確立され得るのである。XX主義者は、大衆團體の發展のために努力するとともに、自らの獨立性を保たねばならない。之を何等かの合法的「表面團體」化さうとする試みは、大衆團體自身の發達を阻害するものである。かつての合法主義と解黨主義とは棄てられねばならない。

Xは最早やその行動綱領を持つて、大衆の間の活動を活潑にしなければならぬ。

〇〇帝國主義に對する、アジアの一切の被壓迫者の革命的勢力と結合することは、朝鮮XXの勝利の保證である。日本のプロレタリアート、同じ〇〇のXXの下にある臺灣及び滿洲の民衆、並びに彼等の大革命の原動力たる支那の労働者農民と同盟しなければならぬ。XX主義者は、彼等との同盟を宣傳し、サヴェート同盟によつて示された植民地解放、並びにその非資本主義的發展の道を大衆に傳へ、その防衛とそれとの同盟の思想を宣傳しなければならぬ。

朝鮮の解放運動への精力的援助は、先づ第一に壓迫國たる日本のプロレタリアートの義務である。他の民族を壓迫するプロレタリアートは自分自身をも解放することが出来ぬ。

プロレタリア黨の側からは、その自決権の公然たる承認、分離即ち獨立の思想の宣傳、反亂及び戰爭の手段に訴へての××主義に對する革命的防衛の権利の承認、あらゆる手段を以つてその解放運動を援助し、支持することが必要である。

「今或る日本人が、アメリカのフィリッピン併合に反抗する假定せよ。その場合、多くの人は、この反抗は併合一般に對する憎惡から來たものであつて、自身でフィリッピンを占領せんとする願望から來るものでないと思はるであらうか？ さらにそれどころか、次のことを問ひたい。多くの人は、その日本人が日本による××の併合に反對し、朝鮮の解放を要求する時、初めて、フィリッピン併合に對する日本人の「反抗」を、誠實で政治的に尊敬すべきものと考へらるると告白せねばならぬのではないか（レーニン『帝國主義論』）。

* 『資本主義の最高階段としての帝國主義』（希望閣版）第一八六頁、編者。

分離（獨立）の思想の宣傳、日本の労働者農民の間の排外主義、侵略主義の打破、民族的偏見及び×

待に對する闘争は、プロレタリア×の重要な任務である。同時に、植民地の「自治」を唱へ、または植民地人民への選舉權擴張を云々して植民地獨立の問題に觸れず、事實上に日本の帝國主義を支持してゐる社會民主主義者の排外主義を、鋭く排撃し暴露しなければならぬ。

レーニンはまた云つた。かつての被壓迫民族として、勝利を得たプロレタリアートすらも、なほ偏見と差別と傲慢とから免れないのだと考へさせるやうな言動ほど、悲惨な反動的結果をもたらすものはない、と。それは勝利の前にも、あてはまる。吾々は、××する植民地人民との同盟を叫ぶ。けれども、このプロレタリアートすらもなほ植民地解放運動に對して充分に支持はしないのだ。なほ冷淡な點があるのだと考へさせるやうな、吾々の側からの不足と不充分さがあつたなら、それはなんといふ悲惨な結果を、××にとつての損失を來すことだらう！ かつての解黨派（現在の『勞農』メンシエヴィキー）が取つたやうな、朝鮮問題回避の態度は斷じて許すことが出来ぬ。それは事實上、社會帝國主義者の態度である。

プロレタリアの黨は至る處で、日×の労働者および農民の接近、共同を實現し、××的同盟の思想を宣傳しなければならぬ。×鮮における〇〇軍隊および〇〇人労働者農民の間に活動を始め、〇〇における朝鮮労働者の組織運動を援助し、これと協働し、農民の間に東拓の××的移民獎勵に反對して宣傳しなければならぬ。

XXとOOとの労働者農民の同盟を形造るために具體的に一步を進めること。——これが偉大なる國民的反抗の十週年に際して日本のプロレタリアがなすべき任務である。

——署名「内田隆吉」、『マルクス主義』一九二九・三月 第五五號——

敗戦の跡

悲惨な英國炭坑夫の生活

一
二年六ヶ月前、英雄的な英國の炭坑夫は、なほ七ヶ月に亘るその生死の闘争をつとけてゐた。前古未曾有の總罷業が總評議會指導者の一齊の裏切りによつて挫折した後には、炭坑夫は敢然とその闘争を敢行した。萬國プロレタリアートの支持、就中、サヴェート同盟労働者の熱烈、物質的精神的援助の下に、刀折れ矢盡きる所まで戦つた。

資本の暴戻と改良主義者の裏切り、敗れた炭坑夫の状態は惨中の惨であつた。吹き荒ぶ失業の暴風、炭坑の閉鎖、時間延長、賃銀の引き下げ、饑餓、流浪、これらが炭坑夫の得た運命であつた。

二

二十世紀の初頭以來、大英帝國の資本主義は下り坂になつた。大戰後は特に急速にその没落の歩調を早めた。その領土に日の没することのない大帝國は、數億の植民地人民を搾取し、世界最大の海軍を持ち、黒色のダイヤモンドたる石炭と鐵礦との産出額は世界に冠たるものであつた。今や、一切が下り坂だ。石炭工業は不況に不況をつとけてゐる。百萬の炭坑夫は、天空に向つて悲痛なる叫びをあげてゐる。工場は荒廢し、煙突は煙を吐くことを止め、炭坑はうつろな廢坑となつたのが少くない。

この状態を立て直すため、モンディズムの名を頂戴した帝國主義者アルフレッド・モンド（メルチエツト卿）が首相になつて、産業合理化運動が起された。これが産業の頹勢を止め得ればこそ。それは、さらに多くの失業者の續出と労働條件の悪化とを齎したに過ぎなかつた。昨年中には、英國の産業状態はさらに悪化してゐる。鐵鋼、採炭、海運、造船、紡績、毛織等、何れも振はない。全工業の方面を見れば次の如くだ。（單位千トン）

石炭	鐵	鋼	鐵	鐵
一九、八七	五、六三	七、四	二一、三五	一〇、六九
一九二八年			一九二七年	一九二六年
			二、七〇	三、〇五

【註】 一九二六年の桁外れは炭坑夫罷業の關係である。

見るべし、昨年は一昨年比して遙かに状態は悪化せることを。造船業もまた然り。紡績業も、東南洋方面の市場を回復したにも拘らず、不景氣であつて、ランカシア一帯の中小會社は破綻に瀕してゐる。

失業者は増大して、十月末には百四十二萬人を算するに至つた。表を見よ。（人數千人、失業率

％）

一 月 末	四 月 末	七 月 末	十 月 末	一九二八年		一九二七年	
				失業者	失業率	失業者	失業率
一、一九	一、一七	一、三五四	一、四三	一〇・七	九・六	一、三七五	一三・一
				一一・七	一一・七	一、〇五	九・四
				一一・八	一一・八	一、一三	九・五

〔以下缺如〕

無署名『無産者新聞』一九二九・三・一三 第二一三號

中國國民黨支配の動搖

—その顛覆は遠くない—

一

反動的な國民黨治下の、偽りの和平統一が到頭、壊れて来た。地主、買辦およびブルジョアジーから成るこのプロツクは、たゞ労働者および農民を無残に弾壓し殺戮することによつて、やつとその支配をつとけてゐるのだ。しかも彼等の内部の敵對、軋轢は、日増しに激しくなつて行く。

廣東、廣西から湖南、湖北にかけて地盤を持つてゐる廣西派は、中央部の命令を待たずに、湖南省長魯滌平を罷免し、蔣介石派は武力をもつて之に對抗しやうとした。軍隊は續々と安徽および廣東方面に輸送されて、戰爭を惹き起しかゝつた。廣西派のクーデターは早まつた。彼等が表面、目的としたところは、三月十五日に開かるべき第三次代表大會を期として、地方政治分會が廢止され、その地盤を失ふに至るからだといふ。けれども、廣西派の背後には英國がある。けだしその眞目的は、全西山會議派および蔣介石の中央派、さらに馮玉祥の背後にまでその手を延ばして國民政府を操らうとしてゐる米國帝國主義の進出に對する挑戦でなければならぬ。

二

たしかに此の數年、長江一帯における英國の勢力は頽勢を示してゐる。しかし、一九二七年以來、

兩廣地方においては廣西派を手中に入れて、以前よりも遙かに強い支配力を振つてゐる。

もし誰か揚子江における支那人の水先案内の出現や、國民政府監督下の招商局の航行權回收運動や、漢口租界の回收や、その他くのブルジョア的「國權回收運動」が、支那における外國勢力の何等かの退潮を來したと思ふなら、まさに大きな誤謬である。たしかに、在支の外人および外人經營の商館の數は減つてゐる。このことは、植民地においても大資本は小資本を呑み盡して行くことを物語つてゐるだけである。

支那における列強の投資はどうもしない。國民ブルジョアは、辭を低うして國際帝國主義から、就中、米國帝國主義からさらに金を借りやうとしてゐるのである。「繁榮主義の」フーヴァ大統領就任と共に、米國帝國主義は益々その積極振りを現はすであらう。

日本の投資額も増大してゐる。二月一日から改訂輸入税率が實施されたことは、益々日本資本家の投資額を募らせ、鐘紡、日清紡、富士紡、内外綿等、何れも工場の新設、乃至擴張を策してゐる。内外綿の如きは、ガス絲、加工綿布、中絲、細糸の方面に進出しやうとしてゐる。

滿洲において日本の帝國主義者は益々その地位を堅めてゐる。昨年中、日本から支那本土への輸出は減退したが、滿洲への輸出は非常な著増を示した。

「江浙實れば天下飢えず。」漢楚以來、幾多の王朝が滅亡した長江流域には、一億七千萬の人口が、

反動的支配階級に壓服され、その犠牲の上に日英米の帝國主義が益々、相互の争鬭を激しくして行く。

四

中國國民黨は國際帝國主義の手先にすぎず、そのさまじくな分派は、一つの反動的プロツクを形成してゐる雑多な階級層と、あれこれの帝國主義の利害の代辯者にすぎない。湖南事件は、或は廣西派が軍略上の不利からして讓歩し、一時をさまるかも知れぬ。しかし、矛盾と相互の敵對とは益々甚だしくなる。左派王兆銘一派は歸國する。第三次全國代表者會議では、鬭争は表面に現はれるだらう。

冠政は紊亂し、裁兵は實行困難だ。崩れかゝつた反動的國民黨のテロルの下に、四億の民衆は苦闘してゐる。江浙の地方だけが政府財源の基礎であり、今や實つた江浙は、實つた故に益々搾取され天下飢えるの状態である。この状態は、民衆の利益と解放とのために戦ふ唯一の黨——中國共產黨への糾然たる同情と参加とを喚起する。最近も武漢の兵士廠において二千數百名を擁する黨の組織が曝露され、反動的武力との間に流血の慘を生じた。

支那における列強帝國主義の間の争ひは益々激烈になるであらう。それは、戦争の危険をより脅威的ならしめる。と同時に、國民黨内部の軋轢はより激しくなり、やがて公然たる内亂に爆發し、その時、全支那の勞働者および農民は起つて彼等の支配を覆すであらう。

——無署名、『無産者新聞』一九二九・三・二五 第二一五號——

日本の政治經濟に於ける半封建的
關係の殘存について

—猪俣氏「現代日本アルジョアジ—の政治的地位」を評す—

「吾々の立場は合法的立場ではない、革命的立場なのである。ところで政府は、自分から合法的立場の化けの皮を剥いでしまった。政府は革命的立場の上に立ち上つたのである。何故なら、反革命的立場といへども、また革命的立場だからである。」*

* マルクス『ロシア革命の決算』（新ライン新聞）、——著者。改造社版 全集第四卷、第一三二頁、——
編者。

帝國の治安を亂すからといふ理由による、プロレタリアート及び農民の革命的組織の破壊、ストライキの鎮壓、絶え間のない逮捕と檢擧、プロレタリア黨に對する殘酷な迫害と追求、死刑法、——そればかりか、反動政府は最早や合法的手段には飽き足らないで、その警察力もてプロレタリア戦士を撲滅し、街頭で吾々の最も優秀な同志を屠るに至つた。

そして、第五十六議會において治安維持法修正——死刑法の事後承諾案が上程されるや、政府當局は、日本共産黨の「スローガン」として、數ヶ項目に亘る黨の當面の闘争目標と最近に於けるその活動題目とを公表した。死刑法の制定を理由づけるために、プロレタリアの前衛が決して「合法的」手段によつては主張し得ぬ項目を、政府自らが公表し、明示することを迫られたのだ。數百萬の人民は、

〇〇×××は何をその戦略的目標としてゐるかを知つた。少くとも、あの公表によつて、×××は労働者及び農民の利害の擁護並びに解放のために闘ふものであることを、反動政府は全國民に告知したのである。

このことは階級闘争の一層の激化を、即ち諸階級間の政治闘争が、現在の資本家地主の反動的権力と革命的諸勢力の指導部——〇〇×××の勢力との双方に分れて公然と、且つより激しく戦はれるに至つたことを物語るものである。

さればこそ、革命的プロレタリアにとつては、〇〇×××の不逞さ、暴戾さを強く印象されるために彼等の言葉を以つて表現された日本プロレタリアートの戦略を、廣大な大衆の前に闡明し説明しなければならぬ。社会民主主義者によるその日和見主義的歪曲に對して闘ひ、日和見主義的戦術を完膚なきまでに暴露しなければならぬ。

ブルジョア支配の下に「卑しい生を愉みたいめに」節を賣つた「勞農派」メンシエヴィキ共は、マルクス主義レーニン主義の名にかくれてその日和見主義的戦略を掲げ、「合法」の範圍でその大言壯語を繰り返してゐる。

吾々の側にあつてはさうではない。吾々がコミンテルン執行委員會の劃期的テーゼスの理解に基づいて、理論的及び實際的分野に亘り、吾々の過去の誤謬の清算と、解黨主義及びセクト主義に對す

る闘争とを、従つて正しい立場に立つての現支配階級に對する戦ひを始めたのは、まさに一年數ヶ月前であつた。當時『マルクス主義』誌上に論陣を張つた同志諸君は今居ない。その多くは牢獄に擧がれて居る。或る者は白色テロルの犠牲として壯烈な死を遂げた。政府の飽くなき迫害は、吾々の理論雑誌『マルクス主義』すらも中絶させた。しかも、吾々はこの××の事業を續けて行くであらう。吾々が斃された後には、新しい力が後を受けついで闘ふであらう。一が捕へられた後には、他が出獄して代るであらう。

此の間に『勞農』派メンシエヴィキの主將、猪俣津南雄氏は『戰略的日和見主義か日和見的戰略か』その他の論文において吾々に挑戦された。この挑戦に應ずるに、何人が果して日和見主義者であるかを闡明することは、まさに吾々の任務の一つでなければならぬ。

* 猪俣津南雄『日和見主義的戰略か「戰略的」日和見主義か』、『勞農』一九二八・二月號および三月號、『勞農戦線の進出的再建へ』、『勞農』一九二八・八月號)、その他、——編者。

二

日本プロレタリアートの戰略の問題についての論争の歴史は古い。夭折したわが國プロレタリアートの最初の前衛の組織が、既にこの問題を取り上げた。一九二二年初めの極東××主義者及び革命家日本の政治經濟に於ける半封建的關係の殘存について

大會でも、日本人代議員によつて將來の××の性質が論じられてゐる。たゞ論者はブルジョア民主革命を「政治革命」と呼び、プロレタリア革命を「社會革命」と呼んだりするやうな混亂を重ねては居るが。一九二二―二三年の××は、此の問題によつつかつたゞけで、何等の解決をし得なかつた。それはブルジョア民主主義的諸任務のために精力的に戦ふ必要を理解しなかつた。それは、主としてサンヂカリズムの残存に因するものであつた。

その後にも、問題は時々當時の所謂「左翼」の間に論じられた。

けれども、それが公然と論議されるに至つたのは、一九二七年以來であつた。日本に於ける労働運動の發展が必然にこの論争を齎した。理論的な方面で、その端緒は、北條君によつて作られてゐる。――所謂「專制的遺制の拂拭」といふ戦略的目標の規定によつて。

福本(北條)君は、福本主義といふ名を以つて呼ばれてゐるところの、唯心哲學及び極左翼的戰術を齎した。そして、それこそは戰略論においてもその他においても、全く日和見主義な結果に實を結んだのであつた。今日、この誤謬は普く認められてゐる。認められてゐるといふよりは、知れ渡つてゐる。福本主義とは、一と頃、が左翼労働運動を襲つた夢魔の名前のやうだ。けれども、その誤謬の根底を究め、之を理論的に全く清算するの試みは充分にされて居らぬ。これこそ、またその全き實踐的克服を妨げ、且つ極めて規模の小さい、バラ／＼に切り離されたものではあるが、時々、前時代の過

失を今も擡頭させる所以である。

けれども、誰かゞさう評したといふやうに「かの福本主義といふ知識階級的觀念論に禍せられた無用の饒舌」などゝ片附けるのは決して當を得たものではない。この言葉こそ、福本君の理論は間違つて居たといふことは聞き知つたが、何處にその誤謬の根據があるかは、遂に理解して居ないことを暴露したものである。福本主義大流行の時代に、この偏向に對して戦ふどころか、無批判に感染したものに限つて、後からかういふ言ひ方をする。勿論、偏向はいつでも「無用」である。しかし問題はあの一時代を風靡した偏向が何故起り得たを説明することである。何處にでもレーニンを望むことは出來ない。日本の左翼労働運動の日和見主義的宿弊とその理論的代辯者たりし山川氏の理論から離れることが、如何に革命的プロレタリアにとつて必須であつたか、理論的にも實際的經驗でも幼弱であつた革命的プロレタリアが如何にこの歪められた偏向と結びついたか、如何なる諸條件が福本主義の風靡を齎したのか、福本君の史的唯物論及び辯證法の理解は何處に誤りがあるか、その外見上の極左的戰術が何故日和見主義的戰術に歸結したか、その階級的基礎は如何、等々を闡明することが、即ち過失から教訓を引出す道である。

福本主義をたゞ一場の悪夢とのみ見るもの、かゝる左翼社會民主主義的見地に立つものは、決して必要なる教訓を汲み取ることが出來ぬ。然るに、多くの革命的労働者はこの時代を経た後には、その前

に比して遙かに前進してゐた。辯證法的唯物論を學んだ。政治といふものを知り、學んだ。事物を嚴正に、階級的立場から見ることが學んだ。それに比すれば、昨春、北條氏自身が『マルクス主義』誌上に發表された自己批判は、何んといふ貧弱なものであつたらう！

福本主義は「無用の饒舌」であつたと否定し去ることによつて、吾々は何も自らを豊富にしはしない。「辯證法に於ける否定とは、決して單に否といひ、または或る事物、或る觀念を存在せずと前提することではない。一切の事物、一切の關係、一切の觀念は、吾々がそれを與へらた諸例について看取しうるやうに、否定されるにつき、それ／＼特有の方法をもつてゐる。」

* エンゲルス『反アユリグ論手稿』——著者。改造社版 全集第十二卷 第五二二頁、——編者。

そして彼の時代から何もものをも學ばなかつた者、依然として史的唯物論の凡俗的理解の淵を彷徨しつゝある者が、『勞農』派のメンシエヴィキ的英雄達なのである。

三

さて吾々は本論に入らう。

此處では、『勞農』派の主將、猪俣津南雄氏が戰略に關してもなされた最近の勞作『現代日本ブルジョアの政治的地位』*を批評の對象とする。蓋し引きつゞいて將來の論文において氏の挑戰に答へる

ためには、氏の論策の出發點をなしたこの小著を對象にすることが便利であり、一九二七年當時、多くの同志諸君の論文に現れた紛ふ方なき誤謬、最も攻撃し易き誤謬の指摘乃至批評に對してすらも、氏等と吾々との間の不一致が何處に露はれてゐるかを端的に示すためである。

* 猪俣『現代日本ブルジョアの政治的地位』特に謂ゆる封建的絶對主義との關係』『太陽』一九二七・一月號。同じ標題の單行本(南宋書院)は、『我國資本主義安定の型、没落の型』および『金融恐慌と無産階級』、『世界』一九二七・五月號)の二論文を収む。引用文のページ付は、著者にならつて、すべてこの單行本に據つた——編者。

數年前にあつても、今日にあつても、『勞農』派の解黨者流と吾々との間の論争點は、先づ第一に、將來すべき革命の性質、その原動力、革命のための戰略の編成についてであつた。そして、史的唯物論の凡俗的理解に立つて居た解黨派は、史的潮流をなして、ブルジョア民主主義のための闘争の意義を無視するか、又はその無理解のために過小評價をして來た。山川均氏が初めて明白に、ブルジョア・デモクラシー獲得のための闘争の必要を認めたのは、同志佐野學の論文からの引用を裏書するといふ形においてであつた。同氏が往年『デモクラシーの煩悶』で、ブルジョア・デモクラシーの選手達を向ふに廻して辛辣な批評の筆を揮つた時、デモクラシーの階級的性質を暴露した止まらないで、このデモクラシー獲得の必要を殆んど理解出來なかつたその誤謬は、その後も依然として引き續いたので

日本の政治經濟に於ける半封建的關係の殘存について

あつた。

それでは今日『勞農』派の理論的主將の地位にある猪俣氏は如何？ 氏はその小著の冒頭にかう書
いてゐる。――

「人がもし讀者諸君に、現在の資本主義日本において如何なる階級が政治的支配の實權を有するかと
問ふならば、諸君は直ちに資本家階級であると答へられるであらう。それ以外の階級である筈がな
し」。

* 猪俣、前掲 第三頁、――編者。

山川氏も、『勞農』創刊號卷頭の論文で同様のことを、但しより獨斷的な、誤謬に導く筆致を以つて
力説されて居る。彼等は、冒頭にかく讀者の度膽を抜いておいて、さて如何なる目的を持つてゐるの
か？ まさに、「封建的絶對主義勢力」は無力になつた、それは取るに足らぬ、地主階級は政治的に
「調落」したと言ひ、そこからしてブルジョア民主々義的諸任務を過小に評價するためなのだ。

四

猪俣氏の論文は『特に謂ゆる封建的絶對主義勢力との關係』に力を注いで居る。吾々も考察を其處
に集中しよう。其處が論争點なのだから、氏は曰く――

「我國に於ける封建的殘物としての絶對主義は、問題の樞密院をはじめ、貴族院、參謀本部、「帷幄上
奏」等の諸形態において最も典型的な制度物的表現を見いだしてゐる。……

「かうした諸事態（註、國家の資本、等）のうちに、吾々は、制度化された封建的殘物、文武の國家の
官僚、尙ほ意外に大なる政治的勢力の物質的基礎を認めずにはおられない。土地所有が同じ勢力のい
ま一つの物質的基礎をなしてゐることは言ふ迄もない。」

* 猪俣『金融恐慌と無産階級』第一二三、一三四頁、――編者。

所がその次の論文では、彼等はその「物質的基礎を喪失」した「形骸化した封建的遺制」であると
言つてゐる。

「吾々は封建的絶對主義の強き殘存を認める。だがしかし、それは主として、右の如き制度物的表現
として、しかも特にイデオロギイとしての殘存であることを忘れてはならぬ。そして封建的絶對主義
的に動くところの政治的諸勢力は、もはやそれらの「遺制」とイデオロギイとを通じて作用し得るに
過ぎない事、言ひ換ればそれ自身の階級的物質的基礎を失つてゐることを忘れてはならぬ。かゝる政
治的勢力と見做し得るものは、貴族があり、軍閥、官僚があり、大地主階級がある。」（傍點引用者）

* 猪俣『現代日本ブルジョアジーの政治的地位』第二七―二八頁、――著者。

その物質的基礎を失つた「形骸化した封建的遺制」の幽靈的存在！ それにも拘らず、生き延びる

日本の政治經濟に於ける半封建的關係の殘存について

「イデオロギー」 猪俣氏が以上に列挙したより外に、なほ封建的絶対主義勢力はないかを考へられたなら、その「形骸化した」存在の奇々怪々さはさらに一段と度を増したことだらう。

憲法は、一定の時代に於ける階級的諸関係を法律的に表現したものである。それは諸階級間、就中、支配階級間の闘争軌轢又は妥協のうちに現實に修正され、いはゞ古い器に新しい内容を盛つて行く。それは内外の狀勢の必要に應じて、その初めブルジョア支配の第一段階として強大な勢力を持つてゐた近代的専制の欽定から、或は帝國主義時代に於けるブルジョア階級と地主階級（その他の封建的勢力）とのプロツクの集中的立法的表現に變つたりする。此等の變動は決して「舊勢力のすらく」として平和的没落の道のみ辿つてなされるのでなくて、多くの摩擦を必要とする。そして、舊勢力は「すらく」と凋落して行き、たゞ「制度的表現」乃至「イデオロギー」として生き永らへるのではなくて、その役割を變へて、一國の帝國主義の反動的武器として、また反動的權力の集中的表現として作用する。

福本主義の時代に、吾々の多くの同志は、事物の推移を辯證法的に見ず現實の諸階級關係を分析して、それが如何に憲法を「解釋」してゐるかを見ずに、古い條文のうちに現在の階級關係を見やうとした。猪俣氏は直接憲法に言及しては居ないが、獨占的大資本の制覇、金融寡頭支配の成立、「政黨内閣主義」の確立から、反對に封建的絶対主義勢力は單なる傳統的存在のやうに論結する。それは、何

れも事物を生き／＼とした現實の關係において捉へて居らぬ。従つて、猪俣氏は衆議院を以つて全くブルジョア階級の機關と見る。

いかなる權限しかこの議會は持たぬか、この議會の生活は如何に色濃く君主主義的に彩られてゐるか、については考へやうともしない。それ故に曰く「ブルジョア階級の政治的支配の典型的な機關議會である。議會政治は、政黨政治であり、議會政治に於ける政府の中樞は、政黨内閣である。」と。たゞそれだけである。何故に、猪俣氏は〇〇×について言及しないのであるか？

* 猪俣、前掲 第一四頁、——著者。

彼等の怯懦と、それから史的唯物論の凡俗的理解とが、彼等をして正しい理解に赴くことを妨げてゐる。それが、彼等をして封建的絶対主義勢力の眞實の中心と、その果して居る役割とについての科學的考察を妨げる。

實に〇〇〇の××、××制の實現なくしては、資本と賃労働との兩階級の、眞實正面からの衝突はない。共和制は、兩者の間の決死的闘争のために最適の舞臺なのである。

五

猪俣氏は日本の政治に於ける封建的絶対主義勢力は、それ自身の物質的基礎を喪失したと主張す

日本の政治經濟に於ける半封建的關係の殘存について

「維新政府の土地政策は、此の使命に忠實に、封建的絶対主義の基礎たる封建制農業の土地制度を撤廃し、此の制度に固有なる舊諸特権を質的に破壊し、半封建的な大土地所有の成立發展を不可能ならしめた。かくて、前時代からの残存物として、資本主義的發展と對立する根本的矛盾となるべきものが取除かれた。それと共に、封建的絶対主義勢力を強大なる政治的残存物たらしむべき物質的基礎もまた取除かれ、前者とブルジョアジーとの激烈なる衝突の必然性も從つてまた消滅した。〔傍點引用者〕」

* 猪俣、前掲 第二九頁、——著者。

「大土地所有制の消滅は、本質的な、直接の物質的基礎の喪失を意味した。*」

* 猪俣、前掲 第三三頁、——著者。

所謂封建的絶対主義勢力の物質的基礎を論じる前に、吾々はこの「封建的絶対主義勢力」の理解について考へて見やう。即ち、こゝで明白なことは猪俣氏等が、ブルジョア支配の第一段階としての近代的専制の役割について全然盲目なことである。氏等は、専制だとさへ言へば、之れ全く封建的なもの、農奴制と大土地所有とに立脚すべきものと考へてゐる。だから、明治の専制を理解することが出來ず、「専制政府」とか、「藩閥政府」とか、「中間政府」とかいふ稱呼を與へるだけで、その階級的基礎を闡明することが出來ない。

氏等は、明治の専制は全くそれ自身の物質的基礎なしに立つてゐたやうに考へてゐる。然らば、その「中間政府」とは如何なるものであつたか？ それは「プロレタリアートをブルジョアジーに、ブルジョアジーをプロレタリアートにけしかけて渾大の利を占めたフランス第一、就中、第二帝國のポナバルト政府」又は「ビスマルク式國民の新ドイツ帝國」*（エンゲルス）のやうなものではあり得なかつた。何故なら、明治中年まで殆んど日本のプロレタリアートは成長してゐなかつたのだから。それは、ブルジョア支配の第一段階として、寧ろ「十七、八世紀の専制王國」に似通つてゐる。地主階級とブルジョアとを互ひに平衡を保たしめ、外觀上の調停者として現はれてゐるといふ點において。

* エンゲルス「國家、私有財産および家族の起源」、改造社版 全集第十二卷 第八一四頁——編者。

それでは、その物質的基礎は何であつたか？ ——半封建的な土地の所有並びに搾取Ⅱ生産の關係。

猪俣氏等にとつては、封建的乃至半封建的な大土地所有と同義語であるらしい。そして明治の維新革命、ブルジョアジーの幼弱のために封建的諸階級が代つて行つたこの革命が、農業に於ける封建主義を、一切合財、取拂つたやうに考へてゐる。維新の革命がどれだけの改革を農業に與へたか？ それは、古い封建制の胎内に成長した近代的な土地私有を立法化した。たゞそれだけであつて、半ば封建的な搾取Ⅱ生産の關係はその後もつゞいてゐるのである。そして、それこそが、日本の政治經濟に

日本の政治經濟に於ける半封建的關係の殘滓について

於ける半封建的な諸關係の殘存の物質的基礎だつたのである。

明治維新の前の土地所有は如何であつたか？ マルクスはかう書いてゐる。——
「日本はその土地所有の純封建的な體制と、發達した小農經營とを以つて、多くはブルジョアの僻見の下に書かれた吾々の歴史書のすべてに比べると、遙かに忠實な描寫をヨーロッパの中世について提供するものがある。」

* マルクス『資本論』第一卷 第七篇第三十四章 註一九二、——著者。改造社版 第二册 第七一二頁
——編者。

搖役勞働地代の單なる變形に過ぎぬ物納地代——現物小作料——の制度が支配的である農業が、如何に「アジアに見る如き靜止的社會狀態の基礎たるに全く適した」半封建的なものであるかは、言ふまでもなからう。この物納地代制と交互に結び合つてゐる過小農的土地所有形態は、「封建的土地所有の解體から生じた諸形態の一つ」であつて、過渡的なものである。マルクスは、「過小農的土地所有が支配的に行はれる諸國」と「資本制生産方法が行はれる諸國」とを區別して論じてゐる*。

* マルクス『資本論』第三卷、——著者。改造社版 第五册 第三三五、三四五、三四二、三四四頁、——編者。
國有の意味に於ける大土地所有、大地主の自家經營を伴ふ大土地所有が存在しないといふ理由から、封建制は全く存在しないと云つたり、又は政治に於ける半封建的勢力の直接の物質的基礎が消滅した

と云つたりした例は、敢て日本だけでない。ラデツクは、支那に大土地所有はないから、従つて封建制はないといつた。ポロデーインといふ日和見主義者は、大土地所有者が存在しないのだから、あまり農業革命をやつては不可ない、やると小農民同志の闘争になると云つた。

前述したと同様の理由から、猪俣氏は、地主階級の政治的凋落を説明してゐる。

けれども、封建的諸階級は維新革命に際して何もかも投げ出しはしなかつたのだ。舊領主、豪族、乃至富農はそのまゝ大地主として残つたのである。そしてその基礎の上にこそ、明治の専制は立つてゐたのである。吾々は、疑問を「物質的基礎なき政治勢力があつたやうに長く存在し得た理由の方に向ける」といふやうな方法ではなしに、半封建的基礎の上に立つてゐた明治の専制が如何にブルジョア支配の第一段階たる役割を果し、帝國主義時代に入つては如何にその役割を變へて行つたか、そして資本制生産方法の發達と共に如何に舊勢力の物質的基礎が壞れ行き、金融資本と融合して行つて、それが地主階級の政治的勢力の頹勢を來したかを見るべきなのだ。

* 猪俣、『現代日本ブルジョア階級の政治的地位』第三三頁、——編者。

猪俣氏は、舊ロシア及びドイツと比較して、しきりにわが國に巨大地主の存在しないことを吹聴してゐる。ところが、過小農的土地所有が普及してゐるわが國にあつては、五萬人ほどの十町歩以上耕地所有の大土地、三町以上の地主並びに富農二十一萬七千といふ數字は、約四百萬戸に及ぶ農村の日本

日本の政治經濟に於ける半封建的關係の殘存について

ロレタリア、半プロレタリア(貧農)及び小農に對比して、實に著しい不均衡を示してゐるのである。この事實を見ない辯護的記述が、けだし「制度化された封建的殘物、文武の國家官僚尙ほ意外に大なる」に驚き、之を「時代錯誤」と命名する資本家魂を持ちつゝ、地方素封家に婚養子に行つた淫蕩兒の立場なのか！

六

かやうにして過去の、歴史の説明に失敗した氏が、現在を正しく見ることが出来る筈がない。氏はまた、ブルジョア民主XXを云々し、「土地問題の解決」の任務について語るが、既に政治に於ける半封建的勢力の物質的基礎を抹殺した氏は、此の問題をも正しく究明する由がない。ブルジョア民主XXのための農民の欲求を理解することが出来ず、現在の段階に於ける労働者農民の同盟の特殊な意義について盲目なのである。だから「農村セミ・プロレタリアートの反抗」を論ずるや、専ら「獨占的帝國主義ブルジョアジー」と對比して述べる誤りを記して居るのである。

* 猪俣、『現代日本ブルジョアジーの政治的地位』第二頁、その他、——編者。

氏は、現代ブルジョアジーの政治的方面を論じるについて、「その懐柔政策が甚だ屈伸性を缺くといふ自縛自縛に陥つてゐる」と言ふ。果して然るか？「好んで封建的絶對主義的イデオロギーを利用

し來」つたがために困惑に陥り、「自己が必要とする以上の反動的政治を行ひつつある」のか？ 斷じて否！ 帝國主義ブルジョアジーは、一切の封建的反動的勢力と結んで、大膽にその必要とする反動的手段と白色テロルとを恣にしてゐるのである。「我が帝國主義ブルジョアジーの政治的「反動」を美事に説明した氏が、如何してこの誤りを犯してゐるのだらうか？ その根底は、ヒルファードディングII猪俣の帝國主義の理解になければならぬ。資本主義の獨占的段階をその最後の段階と見做すレーニンの見解に對する「一口に言へば「金融資本」の政策として理解される」とする見解に、存しなければならぬ。氏は、わが國の五大銀行の將來を卜して、「恐らく、世界大戰前の獨逸の五大銀行のそれに近くであらう」と言つてゐる。然らば、わが猪俣氏がヒルファードディングに倣つて、未來の社會民主黨内閣の大藏大臣となつて展望も開けるのであるか？

* 猪俣 前掲 第六二頁、——編者。

** 猪俣『帝國主義論』(社會問題講座、第十卷)、一著者。

*** 猪俣『現代日本ブルジョアジーの政治的地位』第六頁、——編者。

【註】 ヒルファードディングII猪俣の『金融資本論』を見よ。五大銀行さへ掌握すれば、それが政權の掌握になるやうな虚言を書いてゐる。

吾々は既に、日本の政治經濟に於ける半封建的關係、即ちXX並びに日本國家のその他の封建的日本の政治經濟に於ける半封建的關係の殘存について

附屬物、農業に於ける半封建的な搾取と生産の關係についての『勞農』派主將の見解を見た。彼等は極力、此等を過評小價する。之はプロレタリアートの戰略編成に、大なる相違點を生ぜしめる。吾は、次の論文で、氏の挑戰に答へつゝ、この問題を全幅的に取扱ふことにしやう。

——署名「内田隆吉」、『マルクス主義』一九二九・四月 第五六號——

現時の運動に於ける緊急の
必要について

- 一 現在の組織問題の中心點
- 二 X合法の組織と活動
- 三 X合法活動についての一偏向
- 四 大工場への喰ひ込み
- 五 過誤の清算と自己批判
- 六 日常活動の方法の吟味
- 七 理論的訓練とインタナショナルイズムの昂揚

一 現在の組織問題の中心點

現時の組織問題の中心點は一年前とは異つてゐる。

一年前には在來の諸偏向を清算すること、吾々の得た劃時代的テージスの中に強調されたX X Xの役割の正しい理解の普及、従つてその理解の上に立つて工場及び職場を基礎にXを建設し始めることが問題であつた。それは、大規模の而して希望と抱負とに満ちたやり直しであつた。

昨年の大檢舉以來の、絶えざる迫害と追求とを経てその政治的經驗を數倍か豊富にした今日にあつては、組織問題の中心點は自ら異なる。卑屈なセクト的存在を投げ捨て、公然その活動を始めたプロレタリア黨は、反動政府の大弾壓に遭つてその組織を破壊された。その傷手は大きかつた。數十の同志はその後も引き續いて引きさらはれてゐる。けれどもその間に於ける最大の成果は、如何なる彈壓の下にあつても、X旗を下さず、その地歩を守り、白色恐怖の只中に煽動宣傳及び組織事業をつゞけて行つたことである。「警察やファシズムのテロルの未曾有の打撃のもとに前進する諸非合法黨の成長」のうちに數へられた「〇〇に於けるX X主義の地位の強化」(コンミンテルン第六回世界のテージス)がそれだ。従つて、Xの主要任務は、「X自體が大衆黨となる道を辿る」ことである。

この一年餘に於ける革命的プロレタリアの闘争を批評して、「この至要なる闘争の指導が、観念的、

現時の運動に於ける緊急の必要について

情意的に偏し、當爲の見地からのみなされたことは、前衛を守りつゝも益々これを孤立せしめ、益々これを大衆から隔離するの結果を生ますにはをらなかつた」とするメンシエヴィーキ共には、決してこの偉大なる前進の意味が分らぬのだ。

* 猪俣津南雄「全闘争の集中へ」、一著者。〔勞農〕一九二九・一月號 第二四六頁、——編者。

正しい理解は、革命的プロレタリアの間に普及してゐる。ところで、吾々の現時の組織上の不利並に弱味は何であるか？

第一に、所謂X、X主義の思想的影響とその組織力との間の差異。努力にも拘らず、此の差異は、却つて増大してゐる。それは、メンシエヴィーキ共の言ふやうに、前衛が大衆から孤立した結果ではなくて、前衛の組織力の増大よりも遙かに早く、測り難いほどに大衆のX、X的壓力が増大して來るといふ意味においてである。廣大な大衆の間に波打つ反政府の氣運、改良主義者の下にある労働者率伍の反幹部的傾向、明白にX、Xへの共鳴を表明してゐる「勞農同盟」及び左翼労働組合の成員、新聞紙上に傳へられるところの、苦闘中のXの活動を支援するために米國その他から歸來するといふ同志、「大衆、第三次共産組織に加入せんとした」戰闘的農民の試み、全國農民組合大會に現はれた左翼化の傾向、等——之等一切は疑ひもなく廣大な大衆の急速なX、X化を物語る。これは勿論一般的には吾々の強味であるが、組織力との間の「缺」形の差異の存在は、組織上の弱味を示すものでなければならぬ。

第二に、現在の組織力自體が未だ弱いこと。政府自身が公表してゐるやうに、その組織は成長してゐる。けれども未だ〜弱い。その弱いといふ意味は、プロレタリア黨にもその影響下の大衆團體（特に労働組合）にも、失業労働者が多いことや、工場を基礎とする組織が強大でないこと、大工場に地盤が弱いこと等を含めてである。

第三、經驗ある同志、特にオルガナイザーの才幹あり、經驗ある同志が殆んどすつかり奪はれたこと。新しい要素は懸命に努力してゐるが、早急に仕事に慣れること、況んや指導の任に耐えることはなかくでない。

第四、支配階級の側からの飽くなき迫害、警察的テロルの絶え間のない逮捕と檢擧、出版物の連續的發禁、中央と地方との連絡の杜絶、等。プロレタリアート及び農民の一切の戰闘的組織が合法的活動の機會を全く塞がれてゐるか、殆んど絶たれてゐること。そして、より強調すべきことは、この反動のうちにあつて、吾々の側が逸早くこの状態に應じてその活動の方法を變へることに慣れず、X、合法の活動、それと合法的活動との結合に充分習熟して居らぬこと。

第五、支配階級の打撃に相和しての社會民主主義者の裏切りの増長と、労働運動内部に於ける表面上の比重の増大。社會民主黨派は多年「その統一」を欲してゐる。確かに彼等は、白色恐怖のおかげでその労働運動内部に於ける比重を増大した。吾々はこの事實を直視しなければならぬ。その増大は

現時の運動に於ける緊急の必要について

如何なる根據の上に立つ所のものであり、如何に「没落の種子を胚胎」した、矛盾に満ちたものであるかは、後に述べるとして、この事實自体は、我々の組織事業の前に横たはる障礙の一つである。

吾々は出来るだけ速かに、上述した弱點を埋め合せることに努力しなければならぬ。

吾々が當面の活動に於ける緊急の必要について論じようとする時に、その大部分は如上の組織問題に關聯したものとなる。そしてその組織問題の中心點は、工場に喰ひ込むこと、後れた労働者層を獲得すること、並びにX合法活動に習熟すること、この三點に集中される。

二 非合法の組織と活動

最近時に至つて政府の警察的テロルは益々兇暴になつた。壓迫は増大して行き、労働者農民の多くの戰闘的組織は破壊された。けれども、吾々の組織的薄弱さを、この増大し行く壓迫によつて説明しようとするのは、非常な誤謬である。舊「新黨準備會」は、多くの未組織地方を獲得することが出来た。また、プロレタリア前衛の組織を考へて見よ。治安維持法なんか無かつた頃には、合法主義と解黨主義とが全運動を風靡してゐたではないか。治維法の存在にも拘らず、一九二七年末、Xは大きな轉換をやつたではないか。さらにその死刑法への改悪にも拘らず、その活動は益々盛ではないか。吾々は此處で、寧ろ兩極相共に増大するの事實を見るのである。

勿論、壓迫と追求とは吾々の活動にとつての最大の障礙である、けれども、吾々は闘ひを休むわけには行かぬ。この障礙を突破することは、それに太刀打ち出来る強い組織を造り上げること、X合法活動並にそれと合法活動との結びつきに自在に習熟することである。

現時の反動の性質について、正しい理解を持つことが必要である。吾々は、これを資本主義最後の段階としての帝國主義時代の反動として理解してゐる。この理解はトコトンまで徹底されねばならぬ、——即ち、それは一田中の政策でなく一政友會の政策でないことを。政治的自由は戰つて初めて獲得することが出来る。然るに、内閣の更迭か何かで、急に取締りが緩やかになり、労働者農民がこの時ぞと計り進出するといふやうなことを考へて見たりするのは、全くの夢である。多くの人々が、この頃は反動がひどくなつた、ひどくなつたと口辯のやうに言つてゐる。それでは、其處から一つの結論を、即ちこの反動に有効に太刀打ちするには、變化した状態に處して、逸早く組織活動の方法を變更すべきだといふ結論を導き出すべきである。

左翼社會民主主義の連中は、この警察的テロルを以つて少し待つてゐれば癒る病氣位に心得てゐる。従つて現在の時期をひたすら反動期として表現し、Xも「原則上」悪くはないが、先づ今のうち「大衆黨」だ、合法的活動だと説教してゐる。かくして、彼等は労働者農民を武装解除し、之を敗北の方へ引きづりつて行かうとするのである。

現時の運動に於ける緊急の必要について

この反動の波のうちにも小さな起伏がなくはない。吾々は、勿論、それを最も巧妙に利用することに努めねばならぬ。

革命的プロレタリアは正しい解決の方法を理解し、もう身を以て之を實現しようとしてゐる。「血の三・一五を前に潜行運動着々進む！ X X 黨の細胞同様な非合法グループ工場内に生る」と報道されてゐる。

* 『無産者新聞』一九二九・三・六〔第二一〇號〕——著者。

戰鬥的労働者及び農民によつて非合法のグループ(集團)が所々に出来やうとするのは、大衆の革命的壓力の素晴らしい成長を示すものである。同時に、それはX X 主義の政治的影響とその組織力との間の差異を再び鋭く露出したものである。最も注意すべきは此等グループの活動である。それは工場内に於ける前衛の組織と交叉し、近接し、またその周囲にあるものとして、また前衛の組織の無い所ではその萌芽として、絶えず前衛の接觸し、之と結合して働き、その指導を受けるべきだ。それは最も活動的な共鳴者のグループである。諸グループが得手勝手の活動をしないことが必要である。第二に中途半端なX合法的存在を續けては不可ない。充分な規律を持たねばならない。でなければ、革命的意氣に燃えるけれども、かゝる仕事に不慣れた労働者農民は多くのヘマをやり、従つて檢擧と逮捕との數を増すであらうから。

かやうな状態は、プロレタリア黨が、X合法的活動を合法的なそれと結合しつゝ、急速に工場内にその根を張り擴げる必要を益々切實ならしめるのである。

如何なる嚴格な組織でも、工場主や會社のスパイやX X の間諜を全然防ぐことは出来ない。中途から逃げ出したり、姿を晦ましたりする如何はしい人物を全く防ぐことは難しい。けれども、工場に基礎をおくことは、かういふ危険を極度に少くする。要は、間諜が入つて來ても充分に活動が出来ぬやうな仕組、それから受ける打撃が極めて輕微で済むやうな鞏固な組織を持つことである。

かつて山川均氏が労働農黨の悪口ついでに、「當年の秋和松五郎氏何處にありや」と大見得を切られたことがある。吾々は、それについて間諜マリノフスキーに關して犯したポリシエヴィキの過誤について、「辛辣に」ポリシエヴィキを攻撃したメンエヴィキの態度を想ひ出すことを述べておかう。何もしない連中は、人の過誤を數へ上げることが楽しみにして居れる。反對にレーニンは教へて居る。「必要な改善に關して個人について言へることは、また政治や政黨についても言へる。賢い人とは過失を犯さない人ではない、さういふ人はあり得ない。賢い人とは、過失が最も少く、且つ容易にそれを矯正し得る人である*」此の問題の危険と戦ふ一つの方法は、合法及びX合法的活動を巧みに併用することである。

* レーニン『左翼共産主義の小兒病』——著者。希望閣文庫第一冊 第二二頁、——編者。

現時の運動に於ける緊急の必要について

三 非合法活動についての一偏向

合法的活動から×合法のそれへの急激な推移は、屢々危険な偏向を生ぜしめる。いやしくも「マルクス主義」を読み『無産者新聞』を読んで居り、戦闘的活動方針を實行に移さうと努力してゐる革命的プロレタリアにとつて、最大の困難とまた偏向の危険とは、此の問題に關聯して起つて来る。

いま多くの闘士諸君があせつてゐる。破壊された組合を立て直さうとする試み、警察の追求に太刀打ち出来る、新しい活動方針に習熟しやうとする努力、×××への渴えるやうな共鳴——此等の事情のうちの一つの偏向が生じてゐる。即ち、自ら求めて地下へ地下へと行かうとする傾向である。合法的活動を×合法のそれと結合するのではなくて、地下に入り×合法の活動のみに終始しやうとする傾向である。全國農民組合大會に於ける勇敢な一農民の言葉を借りれば、「ほんとの政黨を探し求めてゐる」、それを待つてゐる。しかも、時にはプロレタリア戦士たる資格の一つ、即ち大衆と共にあつてその闘争を率ゐるといふ條件を忘れながら、あせり氣味、合法的活動自體すらも蔑視しやうとする大きな誤謬——此等は、あらゆる意味において危険な結果を招來せしめる。

改良主義者、日和見主義者は、合法主義だ。彼等は「組織の合法性」、「行動の合法性」、あらゆる合法性を讚美する。合法主義は、支配階級に對する信頼の表現である。支配階級の意のままに作つた法

律、またその法律を意のままに運用する支配階級の意志に信憑することを意味する。そして支配階級自らが合法性を破つてプロレタリアートを弾壓し、その戦士を街頭に斃すに至つても、それは何かの間違ひだと眼を塞いで居ることを意味する。

けれども、吾々は徒らに×合法を、地下のみを求めるのではない。土龍ではない。さうでなくとも支配階級は革命的な要素をすべて地下に追ひ込めやうとする。何故なら、かくして、大衆との結合を切斷し、その大衆化の道を塞ぎ、かゝる閉塞の状態のうちに起り得る冒險主義アドベンチュリズムや小ブルジョア革命主義によつて、吾々の陣營を崩してしまはふとしてゐるのだから。

社會民主々義共が合法主義を振り廻すのを打破することは飽くまで必要である。けれども、若し吾々がそれに答ふるに「非合法だ」と言ふなら、彼等の良に陥ることになる。

支配階級は次々にプロレタリアートと農民の戦闘的組織を破壊し、その合法性を剝奪し、迫害と追求とを逞うしてゐる。社會民主々義者は之に相和して、その勢力を増大させやうとしてゐる。最近時に於いて社會民主々義勢力が労働運動内部にその比重を増大したのはまさにその理由による。けれども、それは矛盾に満ちたものである。全體的に、卒伍ソートの間には左翼化が進んでゐる。このエネルギーを獲得するには、たゞ彼等ランク・エンド・ファイルとの結合が必要なのだ。この結合も亦、吾々が合法的活動の舞臺を利用することなしには、達成することが出来ぬ。

現時の運動に於ける緊急の必要について

實に合法と非合法とは、その何れを好むかの問題ではなくて、階級間の闘争に於ける力の問題である。社會民主主義者は先づ合法の範圍で許されるかどうかを懸念するのに反して、吾々は先づプロレタリアの階級的立場を把持し、××主義の大旗を防衛する。そして地下にあつても、最大限に大衆的闘争の舞臺を求め、×合法の活動を合法的な活動に結びつけ、力によつて、プロレタリアート及び農民の組織の奪はれた合法性を奪ひ還し、×自體の合法性を克ち取らうとする。

イタリーでも支那でも、またかつてロシアでも、かやうな合法的活動から×合法活動への推移に當つて、あなぐらだけに閉ぢ籠らしたり、いぢけてもぐり、合法的活動の機會を利用しなかつたりした偏向が現はれた。吾々はよく學ばねばならぬ。

何が必要であるか？ (一) 組織活動の方法の變更。煽動的活動の新しい方法。×合法活動への習熟。(二) ×合法的活動との結合。合法的活動の舞臺の最大限の利用。(三) 廣汎な大衆を獲得するための努力と執拗な組合的活動。大衆動員。かゝる廣汎な政治的活動の可能性を否定し、または疑ふあらゆる傾向に對する闘争。

革命的プロレタリアは、その現在踏みしめてゐる合法的活動の舞臺を斷じて放棄してはならぬ。その手を握る大衆との結合の機會を失つてはならぬ。否、益々強め、且つ擴めて行かねばならぬ。

四 大工場への喰ひ込み

わが國において、大工場に侵入すること、廣大な後れた労働層者を獲得することは、改良主義者の地盤を掘り崩す問題と密接に結合してゐる。

大工場へ！ それは吾々の組織的活動に最も重要なスローガンである。

そして多くの大工場に於ける組織労働者は、改良主義者の下にあるのだ。改良主義者等はゴリゴリの右翼と所謂中間派と呼ばれてゐるものとに分れてゐるが、數的には右翼の方が遙かに優勢である。その地盤とするものには、工人クラブ、海員協會、海軍聯盟と海員組合の上層部等の上部の労働者層もあるが、その大部分は普通のプロレタリアである。彼等は海陸の諸工廠に地盤があり、海員の上に専横を振り、且つ多くの民間工場に勢力を持つてゐる。彼等こそ臆面もなく「産業デモクラシー」のスローガンを掲げて勞資協調を策する改良主義者であり、支那侵略に協働する排外社會主義者であり、労働者の前衛彈壓を心密かに喜ぶ君主主義的社會民主主義者である。

今日、革命的プロレタリアの間に、反動的労働組合で働くべきかどうかについて、疑ひを持つものはない。しかし、その實際は實に至難だ。

私は一例を取らう。數年前、私は或る官業の大工場に働いてゐた同志を知つて居た。彼はレーニン

を読んでゐた。反動的労働組合で働くべきことを知つてゐた。だからこそ、彼はコツ／＼と働いてゐた。けれども、彼は殆んどその共鳴者を持つてゐなかつた。幹部がすべて反動的で、文庫の設置を提案しても除名を以つて脅かされる。しかも、重寶なので色々な用件には使はれる。彼は、私に訴へて、この組合で働くべきだといふことは解るが、このまゝでは何も出来ない。寧ろ全體の能力の上からは、左翼労働組合に入つて懸命の活動をして見たいといふことを言つた。

状勢の推移は、勿論のこと、問題を解決した。彼は、組合を去らずに踏み止まつて同志をこしらへた。彼は今、〇〇××事件の一被告として入獄中だ。

何故、私はこの同志の例を引いて来たか？ それは、レーニンを讀んだ者にとつても、如何に反動的組合を以つて占められてゐる大工場に獨り活動をつゞけることが困難であるか、そして、自己の周圍に共鳴者を惹起つけるには何から出發すべきかを語らんがためである。

この同志の——彼個人よりもその當時の左翼のだが——最初の過失は、第一に、彼れ獨りの努力によつたといふことである。彼と結んだ一團の、グループの狼狽打式の集中的努力、系統的な組織立つた侵入計劃でなかつたことである。第二に、彼自身も知つては居たが、なほかつ當該工場の労働條件の問題から出發しなかつたといふことである。彼等は最後に雄辯會設置を克ち取り、そこから若干の青年分子を見出し、共鳴者を作つて行つた。しかし全工場に亘つてその組織事業ともいふべきものを

開始したのは、工場の設備改善のための要求運動と結びついてゐた。

大工場に侵入しやうとするには、周到な注意と系統的な組織立つた計畫とを要する。中小工場とは若干氣風も違ふ。あせつてへまなことをやり、直ぐ首になつたりしては、非常な損失である。工場内外からの改良主義者の裏切りの暴露、しかも當該工場の諸問題と關聯しての彼等の裏切りの暴露が必要である。

宣傳の進むにつれて若干の人々に目星をつける。そして、活動的な共鳴者を見出し、相共に協働する。そして益々多くの共鳴者をつくつて行く。そのためには、新聞の讀者會や茶話會やその他さまざまの方法が用ひられる。種々の運動へ誘ふこと、而して實際の仕事の上で、例へばピラ撒きや謄寫版刷りや自衛隊の運動その他において共鳴者を訓練し行くことが望ましい。

先づ組合で勢力を作らうとするのではなしに、仕事場において仲間の信頼と共鳴とを獲得することが必要である。下からの大衆との結合——これが吾々の達成せんとするものでなければならぬ。

五 過誤の清算と自己批判

自己批判——過去と現在との運動の方法を批判し、過誤や缺陷や不充分さを徹底的に假借するところなく露き出し、大衆的討議に上せると共に、諸經驗を集積し攝取して、將來のために必要な教訓を

現時の運動に於ける緊急の必要にいつし

得ることは、プロレタリアの運動にとつて常に必要である。徹底した革命階級なるプロレタリアートは、その誤りを正すことを躊躇しない。陰蔽や表面上の糊塗や不承々の認め方は小ブルジョア的方法である。

一九二七年末、吾々が『勞農』派の解黨主義者流と袂を別ち、かつての解黨派的セクト的存在を投げ捨て、以來、吾々は過去の過誤の清算と、自己批判とに力を注いで来た。今や吾々は運動の重要な轉機にあつて、古い思想的偏向の残存の清算から日常の活動の再吟味に至るまで、この自己批判を徹底させねばならない。

かつての福本主義の誤謬は普く認められてゐる。それは殆んど清算されてゐる。けれども、福本主義の考へ方、問題の立て方、推理は未だ時々現はれてゐる。それ以上に、吾々が現實の闘争の上で考へるべきは、福本主義といふ名で呼ばれてゐる特殊の偏向の思想は全くといつて可いほど清算されてゐるが、その思想が結びついて成長した基礎をなしたわが國プロレタリア運動の宿弊はなほ全く清算されて居らぬことである。

その第一は社會民主主義的な仕事の方法である。社會民主諸政黨が黨として結成されてのは最近年であるが、それに先立つ時代には、勞働運動の内部に永く解黨主義と合法主義とが支配してゐた。その間に醸成されたさまざまな社會民主主義的な仕事の方法はなほ残つてゐる。

第二は、極左主義。その根底には、わがプロレタリアートが未だ弱いといふこと、その運動に参加した多くのインテリゲンチヤの影響とがある。ロシアのインテリゲンチヤがしたやうに、ヨーロッパやアメリカに「最後の言葉」を求めて、革命的マルクス主義を得たが、その理解は闘争のうちに練磨されず、従つてマルクス・レーニンの生き／＼とした辯證法的把握の代りに、屢々理論拘泥を導いた。献身の努力の反面に、焦慮その他は極左主義と結びついた。

黨に關しては、その一は解黨主義となつて現はれ、その二は主としてセクト主義となつて現はれたが、またその二つはその非プロレタリア的性質上、密接に結びついてゐたものであつた。吾々は、日常の活動に於ける二つの宿弊のあらゆる痕跡、あらゆる擡頭と闘はねばならぬ。

『勞農』は、烏滯がましくも吾々に自己批判を要求してゐる。彼等の自己批判とは、自分のことではなくて、吾々が悪う御座いましたと彼等の前に謝罪することである。勿論、吾々は、彼等の批評や指摘から學ぶこともしなければならぬ。それは吾々を豊富にするものなのだから。そして、敵は益々薄弱なものになつて行くだらう。例へば、最近の『勞農』を見給へ。何といふ無味乾燥なものになつてゐるか！ 彼等は「先ず宗派的傾向を克服せよ」と同じことを繰り返してゐる。彼等の解黨主義は言はずもがな、プロレタリアの成長を妨げたセクト主義の本尊は、組織を自分達の獨占物にしやうとし

た、今『勞農』に籠つてゐる御歴々ではなかつたのか！

三八二

六 日常活動の方法の吟味

吾々の不斷の活動方法は再吟味され、その缺陷は直ちに克服されねばならぬ。福本主義時代には、勞働組合でも何處でも、中央部は「指令發行所」の觀があつた。それは今は改められた。ところが一つの運動を起すに當つても、仕事の計畫とその遂行とが全く一致してゐない。其處では、狀勢に適したスローガン、鬭争の形態、方法を選ぶこと、それに習熟することがさらくに必要である。一つの仕事を始めるのにも、部の設置や任命や所謂調査だけは出来ても、現實の活動の開始はなかく可決されるが、實行されぬ。婦人部や青年部は多年この憂目にあつてゐるのである。多くの議案が一鴻千里では、全體の組織力及び動員力に應じた、必ずなされるべき手段と方法とを指示し、その活動を現實に始めることである。

系統的計畫的な、組織立つた仕事の方針——それが大いに必要である。計畫的といふのは、たゞ素晴らしい計畫があるといふ意味においてはなしに、實現を約束された計畫に従つてやるといふ意味においてなければならぬ。吾々は、大衆的鬭争のために最も有効な手段はストライキと示威運動であることを鼓吹する。けれども、何かのカムバニーヤの場合、ストライキをも示威運動をも組織し得な

い所があるとして、吾々はそれでは何もせず居給へ、他の方法は鬭争でないからと言ふか？ 斷じて否！ ここでは、四人、五人のさゝやかな集會も意義あるものとなるだらう。その四人、五人は如何にして勢力を擴大するかを研究して、その次にはストライキを執行することも出来るやうになるだらう。「小より始めて大へ」（レーニン）。吾々は範疇的にストライキと示威運動への呼びかけのみに止まるべきではなくて、さらに地方々々によつて、現實の力に應じて幾つにも運動の形態を變へ、細かく具體的な活動方針を指示して鬭争すべきである。煽動は、無計畫な無責任なものとなつてはならない。系統的なプランがなく、統制や連絡が不充分であり、大衆の利益と結びつき、廣大な共同戦線の基礎の上にカムバニーヤが行はれるのでなければ、たゞ少數の組織されたものだけの動員となり、その結果は決して良好でない。同時に、こゝで吾々の方法は、「現在可能な範圍」だなどといふ日和見主義者の方法から截然區別される。現在可能な範圍でといひながら、實は彼等の怯懦によりて狭められてゐる現在まで、可能であつた範圍について言つてゐるのであり、彼等は決して政治的ストライキや示威運動に訴へやうとはしないのだ。吾々は反對に、一度より二度、二度より三度と鬭争を経るにつれて、より有効な手段に訴へより多くの大衆を動員しようとするのである。

一定の期間を限つて新聞の發行部数や團體の成員を倍加し、または一定の目標を獲得しようとする運動（基金募集等を含む）には、必ず周到なる計劃、全国各地への責任分擔數（額）の割宛等を伴はな

現時の運動に於ける緊急の必要について

三八三